



補 足 資 料

各種母子保健活動で使用する社会的リスクの
アセスメントツール作成で利用可能な



ア セ ス メ ン ト

項 目 情 報 リ ス ト

● 構成区分： 基礎情報

評価領域

事例基礎情報

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Basic001(001)】

子どもの主たる養育者

推奨評価方法

保護者と養育に関わる者の続柄を記録の上
主たる養育者の続柄を記録

【分析レポート】

主たる養育者の続柄によって、本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の該当率に明確な違いは確認されなかった。ただし、アウトカム該当事例において、「実父」の該当率がやや低く、「実父以外の父・パートナー」の該当率がやや高かったことから、妊娠から出生、子育て期にかけて、家族構成に何らかの変化があった場合については、その背景に養育上の負担等が生じている可能性があることが推測された。

当該観点良い、他の組み入れ項目である「変化のあった家族構成」に代替しうると判断し、アセスメント項目への組み入れは実施しなかった。

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、主たる養育者がどのような続柄であるかということ自体が、養育上の不調等の本質的な原因である等とは決して解釈されないことに留意する必要がある。ある続柄の場合に、その背景に何らかの子育て上の負担等が発生しやすい可能性があるという仮定のもとで、調査に組み入れている点に留意されたい。

評価領域

事例基礎情報

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Basic002(002)】

現在の母親の続柄・不在情報

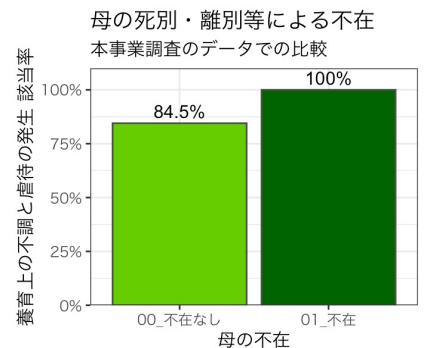
推奨評価方法

☐ 母親が離別・死別等で不在

【分析レポート】

母親が死別や離別等により不在となった事例の場合に、不在ではない場合よりも本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」アウトカムの該当率が高い傾向が観察された。現に養育を担う保護者への負担の発生や、離別の背景に何らかのトラブルや葛藤があることをなどを反映したものと推測される。

なお、本事業調査で得られたデータは、実際よりもアウトカムの該当率が高いことから、本項目該当/非該当両群のアウトカム該当率の絶対的な大きさは解釈できないことに留意が必要となる。



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親の続柄や不在自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。
- 母の不在情報は、「変化のあった家族構成」として他の項目に包含されるため、直接の採用は実施なし

構成区分：基礎情報

評価領域

事例基礎情報

構成案
妊産期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Basic003(003)】

母親の出産時年齢

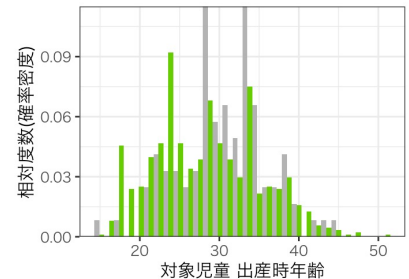
推奨評価方法

出産時の年齢を記録

【分析レポート】

対象児童を出産した際の母の年齢について、本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の該当の有無別で度数分布を確認・比較した結果、特定の閾値で明確に切り分けることは困難であるように観察された。次の項目にある「初産時の年齢」の方は、分布の重なりが少なく、機械学習による上位の予測貢献項目としても抽出されていることから、初産時の年齢を採用することとした。

母の出産時年齢の分布
本事業調査のデータでの比較



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親の出産時の年齢自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。
- Preconception Careにおいて、早すぎる妊娠(too early pregnancy)は母体と子どもの健康に影響を及ぼす主たる要因とされており、Sexual and Reproductive Health and Rights(SRHR)では、「10歳から19歳」と「50歳以上」の場合において、健康と権利に関する特別なケアニーズ(distinct SRHR needs)があるとされている。

評価領域

事例基礎情報

構成案
妊産期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Basic004(004)】

母親の初産時の年齢

推奨評価方法

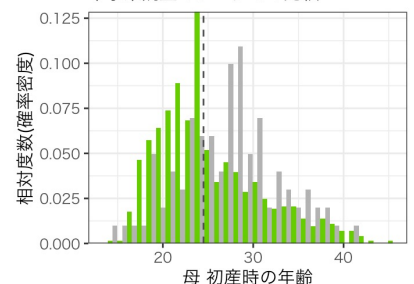
初産時年齢を記録した上で、
「24歳以下に該当」

【分析レポート】

母の年齢について、本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の該当の有無別で度数分布を確認・比較した結果、特定の閾値を定めることで、アウトカムの識別を一定の精度で実現できる可能性があることが観察された。

感度と特異度が最大となる閾値を求めた結果、「24歳以下」の閾値が得られた。ただし、右図にもある通り、24歳以下であるからといって必ずアウトカムの発生がある訳ではなく、反対に、24歳以上であるからといってアウトカムの発生がない訳ではないという点に、留意する必要がある。

母の初産時年齢の分布
本事業調査のデータでの比較



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親の初産時の年齢自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。
- Preconception Careにおいて、早すぎる妊娠(too early pregnancy)は母体と子どもの健康に影響を及ぼす主たる要因とされており、Sexual and Reproductive Health and Rights(SRHR)では、「10歳から19歳」と「50歳以上」の場合において、健康と権利に関する特別なケアニーズ(distinct SRHR needs)があるとされている。

● 構成区分： 基礎情報

評価領域

事例基礎情報

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Basic005(005)】

現在の母親の社会的属性(妊娠時は別途評価)

推奨評価方法

具体的な社会的属性情報を記録の上、

☐ 不安定な職業・学生 または
☐ 学生 ☐ 不安定な職業

【分析レポート】

本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の該当の有無別で、母親の社会的属性の該当率を比較した結果、アウトカム該当事例群で「安定した職業」の該当率がやや低く、「パート・アルバイト」や「無職」、「学生」の該当率がやや高い結果が得られた。機械学習を用いた場合の上位の予測貢献項目でもあることから、「不安定な職業または学生」の項目を作成し、アセスメントツールへの組み入れ候補項目とした。

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親の社会的属性自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。
- Sexual and Reproductive Health and Rights(SRHR)では、上記の職業上の属性の他、「性産業従事者」「難民・移民・先住民・人種的マイノリティ」「環境的な不利: 貧困や農村部、十分でない教育環境、スラムでの居住」などの社会的状況にある場合には、特別なケアニーズ(distinct SRHR needs)があるとされている。

評価領域

事例基礎情報

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Basic006(006)】

現在の父親・パートナーの続柄、不在情報

推奨評価方法

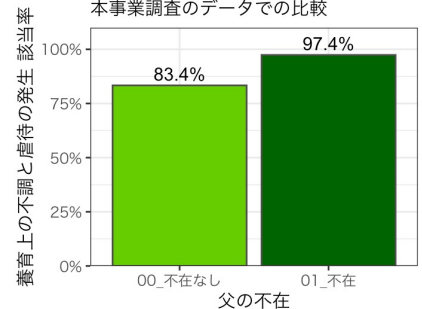
☐ 母親が離別・死別等で不在
☐ 祖父母…

【分析レポート】

父・パートナーが死別や離別等により不在となった事例の場合に、不在ではない場合よりも主要アウトカムの該当率が高い傾向が観察された。現に養育を担う保護者への負担の発生や、離別の背景に何らかのトラブルや葛藤があることをなどを反映したものと推測される。

なお、本事業調査で得られたデータは、実際よりもアウトカムの該当率が高いことから、本項目該当/非該当両群のアウトカム該当率の絶対的な大きさは解釈できないことに留意が必要となる。

父の死別・離別等による不在
本事業調査のデータでの比較



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、現在の父親・パートナーの続柄や不在等それ自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。
- 父親・パートナーの不在は、「変化のあった家族構成」として他の項目に含まれるため、直接のツールへの組み入れは実施なし

● 構成区分： 基礎情報

評価領域

事例基礎情報

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Basic007(007)】

現在の父親・パートナーの社会的属性 (妊娠時は別途評価)

推奨評価方法

具体的な社会的属性情報を記録の上、

☐ 不安定な職業・学生 または
☐ 学生 ☐ 不安定な職業

【分析レポート】

本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の該当の有無別で、父親・パートナーの社会的属性の該当率を比較した結果、アウトカム該当事例群で「安定した職業」の該当率がやや低く、「パート・アルバイト」や「無職」、「学生」の該当率がやや高い結果が得られた。機械学習を用いた場合の上位の予測貢献項目でもあることから、「不安定な職業または学生」の項目を作成し、アセスメントツールへの組み入れ候補項目とした。

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、現在の父親・パートナーの社会的属性自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。
- Sexual and Reproductive Health and Rights(SRHR)では、上記の職業上の属性の他、「性産業従事者」「難民・移民・先住民・人種マイノリティ」「環境的な不利: 貧困や農村部、十分でない教育環境、スラムでの居住」などの社会的状況にある場合には、特別なケアニーズ(distinct SRHR needs)があるとされている。

評価領域

事例基礎情報

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Basic008(008)】

子どもの出生時点の父親・パートナーの年齢

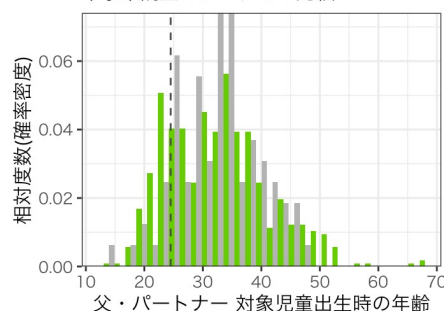
推奨評価方法

父・パートナーの年齢を記録の上で
「24歳以下に該当」

【分析レポート】

父親・パートナーの子どもの出生時点の年齢について、本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の該当の有無別で度数分布を確認・比較した結果、特定の閾値でアウトカムの発生を識別できる様相は観察されなかった。ただし、機械学習での上位の予測貢献項目であったことや、母の初産時の年齢が24歳以下の場合に、アウトカムの該当率が相対的に高いという結果に照らして、母または父の両方に同等の基準を設けるという視点から、24歳以下の閾値を設けて、ツールへの採用を実施した。なお、50歳以上などの高年齢帯にも閾値が得られる点が想定されたが例数不足により検討困難だった。

父 対象児童出生時年齢の分布
本事業調査のデータでの比較



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、子どもの出生時点の父親・パートナーの年齢自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。

● 構成区分： 基礎情報

評価領域

事例基礎情報

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Basic009(009)】

母親と父親・パートナーの年齢差

推奨評価方法

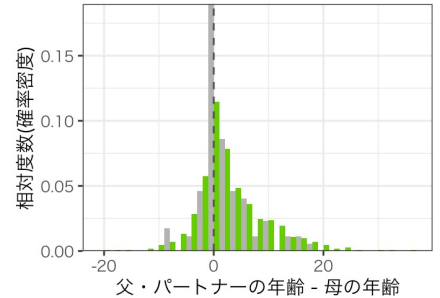
父・パートナーの年齢を記録
必要に応じて計算

【分析レポート】

母と父・パートナーの年齢差と、本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」アウトカムの該当率との関係について、度数分布を描画して様相を確認した結果、アウトカムの該当の有無にかかわらず類似した分布形状が確認された。

一部、極端な年齢差である例において、アウトカムの該当傾向が高いようにも見受けられたが、例数等の不足により、閾値等について明確な見解を得るには至らなかった。

母と父・パートナーの年齢差
本事業調査のデータでの比較



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親と父親・パートナーとの年齢差それ自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。

評価領域

事例基礎情報

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Basic010(010)】

世帯に住むきょうだいの人数(対象となる子どもの視点から)

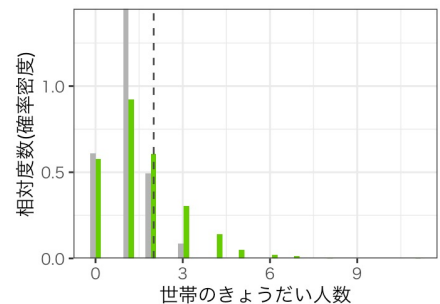
推奨評価方法

世帯に住むきょうだいの人数を記録の上、
「2名以上に該当」

【分析レポート】

本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の有無別で、世帯に住むきょうだい人数の相対度数を比較した結果、「きょうだいが2人以上」からアウトカム該当例が相対的に多い結果が得られた。当該結果から、アセスメントツールへの組み込みを実施した。

世帯のきょうだい人数
本事業調査のデータでの比較



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 再婚等による連れ子を含んだ人数がここに含まれている。
- 前提として、きょうだいの人数自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「子育てに係る負担が大きい」など、その背景になんらかの本質的なニーズがあることを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。
- Preconception Careなどを代表に、「急速な連続した妊娠(rapid successive pregnancies)」は、母体と子どもの健康に影響を与える主要な要因の一つとされている。

● 構成区分： 基礎情報

評価領域

事例基礎情報

構成案
妊産期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Basic011(O11)】

世帯に住む兄・姉の人数(対象となる子どもの視点から)

推奨評価方法

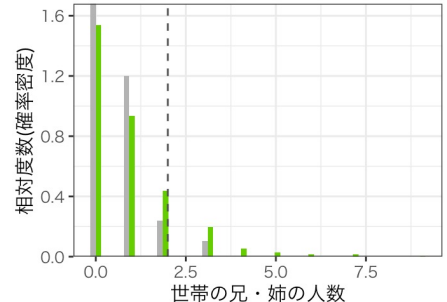
世帯に住むきょうだいの人数を記録の上、「2名以上に該当」

【分析レポート】

本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の有無別で、世帯に住む兄・姉人数の相対度数を比較した結果、「兄・姉が2人以上」からアウトカム該当例が相対的に多い結果が得られた。当該結果から、「弟や妹」が想定されない妊娠期のアセスメントツールへの組み込みを実施した。

世帯の兄・姉の人数

本事業調査のデータでの比較



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 再婚等による連れ子を含んだ人数がここに含まれている。
- 前提として、兄・姉の人数自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「子育てに係る負担が大きい」など、その背景になんらかの本質的なニーズがあることを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。
- Preconception Careなどを代表に、「急速な連続した妊娠(rapid successive pregnancies)」は、母体と子どもの健康に影響を与える主要な要因の一つとされている。

評価領域

事例基礎情報

構成案
妊産期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Basic012(O12)】

世帯に住む弟・妹の人数(対象となる子どもの視点から)

推奨評価方法

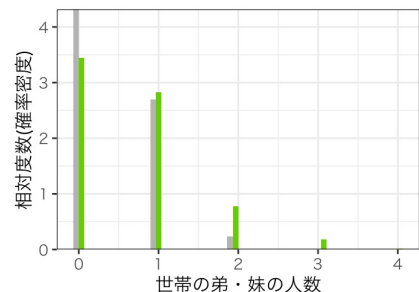
世帯に住むきょうだいの人数を記録の上、「2名以上に該当」

【分析レポート】

本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の有無別で、世帯に住む弟・妹の人数の相対度数を比較した結果、「弟・妹が1人以上」からアウトカム該当例が相対的に多い結果が得られた。ただし、調査対象となった事例の子どもの年齢が未就学であるという点に留意されたい。なお、当該項目は、先に採用した「世帯の世帯のきょうだい人数」におよそ代替できるという視点から、アセスメントツールへの組み込みは実施しなかった。

世帯の弟・妹の人数

本事業調査のデータでの比較



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 再婚等による連れ子を含んだ人数がここに含まれている。
- 前提として、弟・妹の人数自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「子育てに係る負担が大きい」など、その背景になんらかの本質的なニーズがあることを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。
- Preconception Careなどを代表に、「急速な連続した妊娠(rapid successive pregnancies)」は、母体と子どもの健康に影響を与える主要な要因の一つとされている。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠届・母子手帳・妊婦健診

構成案
妊産期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Mbase001(O13)】

母子手帳の交付時期(第何週・出生後交付等)

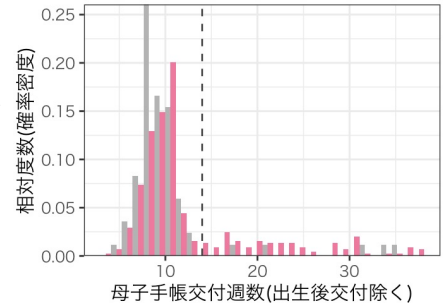
推奨評価方法

交付日と交付週数を記録の上、
「14週以降に該当」

【分析レポート】

本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の有無別で母子手帳の交付週数の度数分布を描画した結果、アウトカム該当事例群において、発生メカニズムが異なる2つの分布から構成されていることが推測された。本事業では、「妊娠14週以降の母子手帳の交付」という閾値を分布形状から任意に定め、アセスメントツールの項目として組み入れた。

母子手帳交付週数(出生後交付除く)
本事業調査のデータでの比較



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母子手帳の交付時期自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。
- 交付時期によっては、本来的に必要なサービスを受ける機会が得られていないなどの状況を意味する点から、とりわけ周囲のサポートが必要であるとも解釈される。

評価領域

妊娠届・母子手帳・妊婦健診

構成案
妊産期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Mbase002(O14)】

妊娠届出時の婚姻形態

推奨評価方法

☐ 未婚・再婚

または

☐ 未婚 ☐ 再婚

【分析レポート】

本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の有無別で、妊娠時の各種婚姻形態の該当率を比較した結果、アウトカムの該当事例群において、入籍予定の有無にかかわらず「未婚」である場合、「再婚」である場合の該当率が高かった。

機械学習による上位の予測貢献項目である点も含め、「未婚または再婚」の区分を設け、アセスメントツールへの組み込みを実施した。

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、妊娠届出時の婚姻形態自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。

構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠届・母子手帳・妊婦健診

構成案
妊産期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Mbase003(O15)】

初回妊婦健診の受診時期(第何週・未受診等)

推奨評価方法

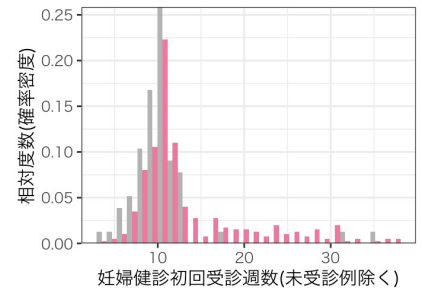
妊婦健診の初回受診日を記録の上、その週数を記録、または「未受診に該当」

【分析レポート】

本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の有無別で妊婦健診の初回受診週数の度数分布を描画した結果、母子手帳の交付週数と同様に、アウトカム該当事例群において、発生メカニズムが異なる2つの分布から構成されていることが推測された。なお、本項目は、母子手帳の交付週数と直接的に関係するものである。医療機関で扱われる受診時期よりも、ツールの利用主体である市町村等で把握可能な母子手帳交付週数を優先的に採用し、本項目はツールへの組み込みは実施しなかった。

妊婦健診初回受診週数

本事業調査のデータでの比較



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、初回妊婦健診の受診時期それ自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。
- 受診時期によっては、本来的に必要なサービスを受ける機会が得られていないなどの状況を意味する点から、とりわけ周囲のサポートが必要であるとも解釈される。

評価領域

妊娠届・母子手帳・妊婦健診

構成案
妊産期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Mbase004(O16)】

出生までの妊婦健診の受診回数

推奨評価方法

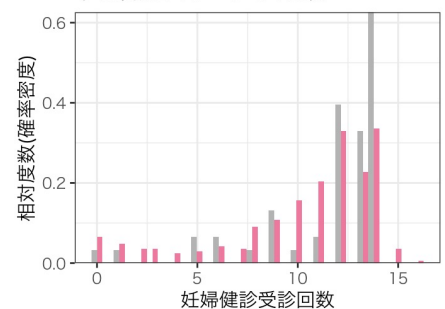
児童の出生時点まで、妊婦健診の受診歴情報を記録

【分析レポート】

本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の有無別で、妊婦健診の受診回数の度数分布を描画した結果、両群の分布が比較的重なる部分が多く、明確な閾値を得るに至らなかった。本事業内では、アセスメントツールへの組み入れは実施しなかった。

妊婦健診受診回数

本事業調査のデータでの比較



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、出生までの妊婦健診の受診回数それ自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。
- 受診状況によっては、本来的に必要なサービスを受ける機会が得られていないなどの状況を意味する点から、とりわけ周囲のサポートが必要であるとも解釈される。

構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠までの経過・背景

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Mbase005(O17)】

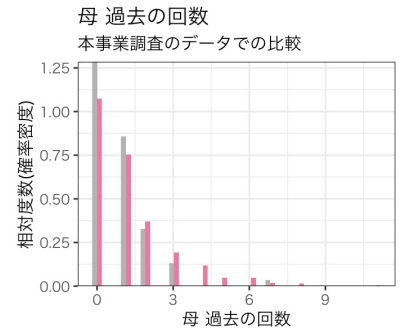
母親のこれまでの妊娠回数

推奨評価方法

これまでの妊娠回数を記録

【分析レポート】

本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の有無別で、これまでの妊娠回数の度数分布を描画した結果、「過去2回以上の妊娠」で、アウトカム該当群の例数が非該当群の例数を上回る結果となった。ただし、本項目は事例基礎情報である「世帯のきょうだい人数」を中心に、他の組み入れ項目で情報を代替すると判断されたことから、アセスメントツールへの組み入れは実施しなかった。



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、これまでの妊婦回数それ自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。

評価領域

妊娠までの経過・背景

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Mbase006(O18)】

母親のこれまでの妊娠中絶回数

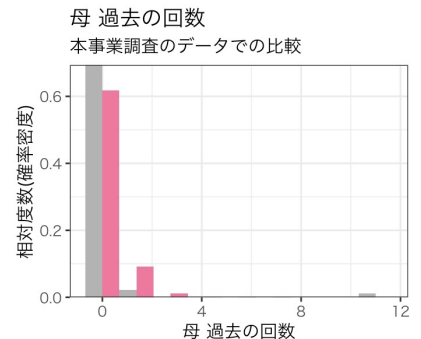
推奨評価方法

妊娠中絶の回数を記録した上で、「1回以上に該当」

【分析レポート】

本事業の主要アウトカムである「児童虐待または養育上の不調の発生」の有無別で、これまでの妊娠回数の度数分布を描画した結果、過去の妊娠中絶回数が1回以上の場合に、アウトカム該当事例群の例数が非該当事例群の例数を上回る結果となった。

当該結果を鑑み、アセスメントツールへの組み入れを実施した。



アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 母親のこれまでの妊娠中絶回数が、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。しかし、数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインとして解釈されうることから、背景ニーズの把握と、それに応じたケアが必要とされるものと考えられる。
- 過去の妊娠中絶による子どもの喪失(Prior Pregnancy Loss)は、母親の罪悪感等に対するケアを含め、Preconception Careでの一つの主要な支援視点となっている。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域
妊娠までの経過・背景

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Maternity001 (O19)】
予期しない妊娠・計画していない妊娠

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠が、予期しない妊娠/計画していない妊娠だった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.17**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.11—1.21

RR = $\frac{225/238(94.5\%)}{511/632(99.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	100.0%
市区町村(児童虐待相談)	100.0%
児童相談所(児童虐待相談)	100.0%
総合的な組織*	100.0%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 870$ (項目該当率 27.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 238$ 項目非該当事例数 $n_2 = 632$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.04 [0.65, 1.39]	10.9% / 10.8%
重度ネグレクト	1.87 [1.25, 2.42]	16.8% / 9.2%
性的虐待	3.72 [1.01, 7.21]	2.5% / 0.8%
その他深刻な虐待	1.07 [0.62, 1.49]	8.4% / 8.2%
身体的虐待	1.03 [0.83, 1.19]	32.8% / 32.0%
ネグレクト	1.65 [1.36, 1.87]	50.0% / 30.4%
心理的虐待***	0.98 [0.75, 1.17]	26.1% / 26.7%
DV・面前暴力	1.61 [1.20, 1.96]	26.5% / 16.6%
養育上の不調	1.35 [1.25, 1.43]	84.9% / 62.8%

** 項目該当 あり/なし 別でのアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 妊婦本人やパートナーが予期していない、計画していない妊娠だった場合は該当

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 児童虐待等による死亡事例検証報告をはじめとする、様々な資料等の中で重要視されている観点
- 前提として、妊娠自体が予期されていたか、計画されていたかそれ自体が養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないものの、その背景に課題やニーズがあることを示唆するサインとして捉え、多面的なアセスメントの必要性が推奨されるものであると考えられる。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠までの経過・背景

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Maternity002(O2O)】

望まない妊娠・背景に性的被害や出産圧力のある妊娠

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠が、望まない妊娠/性的被害/出産圧力等が背景にある妊娠だった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.15**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.06—1.19

$$RR = \frac{47/48(97.9\%)}{689/822(83.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 100%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 870$ (項目該当率 5.5%)
項目該当事例数 $n_1 = 48$ 項目非該当事例数 $n_2 = 822$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.52 [0.68, 2.30]	14.6% / 10.6%
重度ネグレクト	2.26 [1.20, 3.17]	22.9% / 10.6%
性的虐待	3.22 [0.34, 7.31]	2.1% / 1.2%
その他深刻な虐待	1.21 [0.41, 2.02]	8.3% / 8.3%
身体的虐待	1.40 [0.97, 1.74]	43.8% / 31.5%
ネグレクト	1.56 [1.14, 1.86]	54.2% / 34.7%
心理的虐待***	1.22 [0.74, 1.61]	31.2% / 26.3%
DV・面前暴力	2.33 [1.55, 2.96]	41.7% / 18.0%
養育上の不調	1.30 [1.14, 1.41]	89.6% / 67.6%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 妊婦本人が望んでいない妊娠であった場合
- ・ 性的被害等によって生じた妊娠
- ・ 親族等の周囲から妊娠・出産への圧力がかけられており、妊婦または父・パートナーが妊娠・出産に前向きでなかった場合

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 児童虐待等による死亡事例検証報告やPreconception Careなどの国際的な指針をはじめとする、様々な資料等の中で重要視されている観点である。
- ・ すでに課題となる背景を有していると考えられることから、養育上の不調等の将来的な発生予防等を念頭に置いた母親等への支援が必要と判断される。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域 妊娠までの経過・背景

構成案
妊娠期採用

☒

構成案
乳幼児期採用

☐

機械学習
予測貢献項目

☐

【項目ID: Maternity003(O21)】

不妊治療歴・複数回の生殖補助医療受診歴がある

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠について、不妊治療歴、複数回の生殖補助医療受診歴がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.33**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.05—0.63

$$RR = \frac{1/5(20.0\%)}{113/129(87.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	94%
市区町村(児童虐待相談)	99%
児童相談所(児童虐待相談)	79%
総合的な組織*	80%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 134$ (項目該当率 3.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 5$ 項目非該当事例数 $n_2 = 129$

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.87 [0.37, 5.67]	20.0% / 10.1%
重度ネグレクト	0.99 [0.03, 2.48]	0.0% / 10.6%
性的虐待	17.11 [0.34, 7.31]	0.0% / 0.8%
その他深刻な虐待	1.44 [0.04, 3.55]	0.0% / 10.1%
身体的虐待	1.01 [0.14, 1.92]	20.0% / 28.7%
ネグレクト	0.36 [0.01, 0.90]	0.0% / 39.5%
心理的虐待***	0.48 [0.02, 1.19]	0.0% / 30.2%
DV・面前暴力	0.87 [0.03, 2.12]	0.0% / 16.3%
養育上の不調	0.20 [0.01, 0.48]	0.0% / 72.9%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 過去に複数回の生殖補助医療受診歴がある場合
- 不妊治療歴がある場合

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- Preconception Careでは、母体と子どもの健康上の課題に影響する主たる要因の一つとされており、当該視点から「何らかの背景ニーズがある可能性」を前提としたアセスメントが必要であるものと考えられる。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠までの経過・背景

構成案
妊娠期間採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Maternity004(O22)】

母親が過去に流産・死産・乳児の死亡を経験

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠以前の過去に、母親が流産・死産・乳児の死亡を経験している

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.05**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.88—1.13

$$RR = \frac{14/14(100\%)}{104/115(90.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	87%
市区町村(児童虐待相談)	84%
児童相談所(児童虐待相談)	88%
総合的な組織*	83%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 129$ (項目該当率 10.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 14$ 項目非該当事例数 $n_2 = 115$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.21 [0.15, 2.51]	7.1% / 10.4%
重度ネグレクト	1.81 [0.39, 3.53]	0.0% / 14.7%
性的虐待	2.38 [0.06, 6.46]	0.0% / 2.6%
その他深刻な虐待	2.85 [0.34, 6.38]	7.1% / 4.3%
身体的虐待	1.27 [0.52, 1.94]	35.7% / 29.6%
ネグレクト	1.21 [0.57, 1.76]	42.9% / 36.5%
心理的虐待***	1.45 [0.69, 2.12]	42.9% / 30.4%
DV・面前暴力	0.95 [0.20, 1.76]	14.3% / 20.0%
養育上の不調	1.08 [0.78, 1.26]	85.7% / 75.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 妊娠届出時に大勢の友人と来所する
- ・ 妊娠届出時に妊婦本人が来所していない(代理申請)
- ・ 父がその場にいるが様子伺いをしている
- ・ 妊婦以外に違和感がある付き添い、同席者がいる(父親等が同席する、同席者が口を挟む)
- ・ 面談や健診で妊婦への質問に同席者が答えるなど不自然な様子がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、流産や死産、乳児の死亡を経験していること自体が、養育上の不調等の発生に関する本質的な原因、あるいは「原因ではない」などとは解釈されないことに留意する必要がある。
- ・ 過去の妊娠時の子どもの喪失(Prior Pregnancy Loss)は、母親の罪悪感等に対するケアを含め、Preconception Careでの一つの主要な支援視点となっている。

構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠までの経過・背景

構成案
妊娠期間採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Maternity005(023)】

母親に産後うつ既往がある・疑われる

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠以前の過去、母親に産後うつの既往があった・疑われた(診断があった、または、EPDS9点以上)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.07**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.87—1.21

$$RR = \frac{29/34(85.3\%)}{71/90(78.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 86%

市区町村(児童虐待相談) 88%

児童相談所(児童虐待相談) 84%

総合的な組織* 89%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 124$ (項目該当率 27.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 34$ 項目非該当事例数 $n_2 = 90$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.15 [0.36, 2.04]	11.8% / 12.2%
重度ネグレクト	0.84 [0.16, 1.67]	14.3% / 10.4%
性的虐待	0.86 [0.02, 2.34]	0.0% / 3.3%
その他深刻な虐待	0.62 [0.11, 1.22]	0.0% / 10.8%
身体的虐待	1.20 [0.58, 1.81]	26.5% / 23.3%
ネグレクト	1.26 [0.69, 1.77]	35.3% / 28.9%
心理的虐待***	0.08 [0.30, 1.33]	14.7% / 21.1%
DV・面前暴力	1.07 [0.46, 1.67]	20.6% / 21.1%
養育上の不調	1.08 [0.80, 1.31]	67.7% / 62.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 対象となる子どもの妊娠以前に、産後うつの診断がある場合や、
エジンバラ産後うつ尺度(EPDS)等のカットオフ得点を超えた場合などで該当を判断

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 母親自身に対する慎重なケアが必要であることに加えて、将来的な養育上の不調等との関連性が指摘されている観点であるが、「過去の」産後うつの既往歴やその疑いによって、当該妊娠に係る子どもの出生後の養育上の不調に対する検出性能は、本解析からは得られなかった。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠までの経過・背景

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Maternity006(O24)】

過去に飛び込み出産がある、または準備や計画のない
助産指導なしの自宅分娩歴がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠以前の過去に、母親に飛び込み出産や準備・計画のない助産指導なしの自宅分娩歴があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.86**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.35—1.12

$$RR = \frac{2/2(100\%)}{130/148(87.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	96%
市区町村(児童虐待相談)	88%
児童相談所(児童虐待相談)	94%
総合的な組織*	92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 150$ (項目該当率 1.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 2$ 項目非該当事例数 $n_2 = 148$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.83 [0.07, 6.76]	0.0% / 8.8%
重度ネグレクト	1.50 [0.05, 3.58]	5.9% / 10.0%
性的虐待	12.53 [0.04, 31.25]	0.0% / 2.0%
その他深刻な虐待	2.34 [0.08, 5.44]	20.7% / 5.1%
身体的虐待	1.41 [0.24, 2.40]	50.0% / 35.8%
ネグレクト	2.33 [0.88, 3.22]	100.0% / 32.4%
心理的虐待***	1.55 [0.26, 2.63]	50.0% / 32.4%
DV・面前暴力	2.25 [0.46, 3.81]	50.0% / 22.3%
養育上の不調	1.05 [0.41, 1.37]	100.0% / 72.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 対象となる子どもの妊娠以前の過去に、飛び込み出産歴がある
- 対象となる子どもの妊娠以前の過去に、準備や計画のない助産指導なしの自宅分娩歴がある
- 妊娠届や妊婦健診等の各種サービスへの接触がないままでの出産で、
出生後に妊娠が公的に把握される事態が対象となる子どもの妊娠以前の過去に発生している場合等

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、飛び込み出産や準備・計画のない助産指導なしの自宅分娩に関する「過去の経過」それ自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されず、各種アウトカムの発生を決定づけるものでもないことに留意する必要がある。
- 当該項目への該当例数が極めて少ないことから、数値上得られた結果には保留が必要と考えられる。項目ID: Maternity018 「出産準備に遅れがある」が各種アウトカムと関連していることから、本項目も同様に該当時には慎重なアセスメントを要するものとして解釈される。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域 妊娠までの経過・背景

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Maternity007(025)】
母親に特筆すべき身体疾患や基礎疾患の既往、
妊娠合併症等の既往歴がある

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠以前に、母親に特筆すべき身体疾患の既往歴や基礎疾患、妊娠合併症等の妊娠・出産にかかわる疾病等の既往歴いすれかがあった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.14**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.02—1.23

$$RR = \frac{29/29(100\%)}{84/98(85.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 127$ (項目該当率 22.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 29$ 項目非該当事例数 $n_2 = 98$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.41 [0.76, 4.30]	17.2% / 8.2%
重度ネグレクト	2.39 [0.74, 4.26]	0.0% / 16.9%
性的虐待	0.78 [0.01, 2.13]	0.0% / 4.1%
その他深刻な虐待	4.46 [1.32, 8.49]	20.7% / 5.1%
身体的虐待	0.75 [0.31, 1.16]	20.7% / 30.6%
ネグレクト	1.26 [0.77, 1.68]	48.3% / 38.8%
心理的虐待***	2.04 [1.14, 2.91]	44.8% / 22.3%
DV・面前暴力	0.97 [0.39, 1.55]	20.7% / 23.5%
養育上の不調	1.17 [0.93, 1.34]	86.2% / 72.4%

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	87%
市区町村(児童虐待相談)	85%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	89%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 過去の妊娠で、強いつわり、妊娠高血圧症候群、切迫早産、貧血、妊娠糖尿病、頸管無力症等の妊娠・出産に関わる身体疾患等があった場合
- 母親に、身体的な基礎疾患や、妊娠・出産に関係しうる特筆すべき身体疾患の既往歴がある場合

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親の身体疾患や妊娠合併症の既往それ自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「当該状況に該当する場合、養育上の課題の発生が確認される場合が多い」ことを示唆するサインであって、そのプロセスを想定に含めたアセスメントを展開することに利活用上の力点がある。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠届・母子手帳・妊婦健診

構成案
妊娠届採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Maternity008(026)】

妊娠届出・母子手帳交付時の来所者に違和感がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠について、妊娠届出・母子手帳交付時の来所者に違和感がある(大勢での来所、対象児童の母の父親等の同席、対象児童の父(母のパートナー)が同席して様子伺いをしているなど)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.25**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.07—1.37

$$RR = \frac{20/20(100\%)}{90/117(76.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	89%
市区町村(児童虐待相談)	84%
児童相談所(児童虐待相談)	94%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 137$ (項目該当率 14.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 20$ 項目非該当事例数 $n_2 = 117$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.45 [0.01, 1.14]	0.0% / 10.3%
重度ネグレクト	2.02 [0.74, 3.32]	17.2% / 8.2%
性的虐待	2.71 [0.04, 7.67]	0.0% / 1.7%
その他深刻な虐待	1.35 [0.16, 2.98]	5.0% / 6.8%
身体的虐待	0.43 [0.05, 0.92]	5.0% / 21.4%
ネグレクト	2.14 [1.46, 2.71]	75.0% / 34.2%
心理的虐待***	0.77 [0.23, 1.34]	15.0% / 23.9%
DV・面前暴力	1.79 [0.58, 3.12]	20.0% / 12.8%
養育上の不調	1.49 [1.20, 1.71]	95.0% / 61.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 妊娠届出時に大勢の友人と来所する
- ・ 妊娠届出時に妊婦本人が来所していない(代理申請)
- ・ 父がその場にいないが様子伺いをしている
- ・ 妊婦以外に違和感がある付き添い、同席者がいる(父親等が同席する、同席者が口を挟む)
- ・ 面談や健診で妊婦への質問に同席者が答えるなど不自然な様子がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、妊娠届出等での来所者がどうであるかが、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「該当した場合に、その背景になんらかの本質的なニーズを抱えていることが多い」ことを示唆するサインであって、背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠届・母子手帳・妊婦健診

構成案
妊娠届採用

☐

構成案
乳幼児期採用

☐

機械学習
予測貢献項目

☐

【項目ID: Maternity009(027)】

妊娠届出・母子手帳交付の遅れや再交付がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠に関して、自然または健全ではない理由、もしくは理由のわからない妊娠届出・母子手帳交付の遅れや再交付があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.15**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.98—1.26

$$RR = \frac{90/117(76.9\%)}{93/116(80.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	93%
市区町村(児童虐待相談)	87%
児童相談所(児童虐待相談)	93%
総合的な組織*	94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 148$ (項目該当率 21.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 32$ 項目非該当事例数 $n_2 = 116$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.23 [0.38, 2.16]	12.5% / 12.1%
重度ネグレクト	2.39 [1.01, 3.82]	25.0% / 13.7%
性的虐待	10.94 [0.89, 25.03]	6.2% / 0.9%
その他深刻な虐待	1.02 [0.20, 2.05]	6.2% / 8.6%
身体的虐待	1.00 [0.47, 1.50]	25.0% / 26.7%
ネグレクト	1.95 [1.28, 2.56]	62.5% / 31.9%
心理的虐待***	0.92 [0.40, 1.41]	21.9% / 25.9%
DV・面前暴力	0.97 [0.40, 1.52]	18.8% / 21.6%
養育上の不調	1.31 [1.08, 1.47]	90.6% / 68.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 自然または健全ではない理由、もしくは理由のわからない届出や交付の遅れ、再交付があった場合
- ・ 母子手帳が出生後交付だった場合、または妊娠中に母子手帳が未発行だった場合
- ・ 妊娠20週以降の届出や母子手帳交付があった場合

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、妊娠届出や母子手帳交付の時期自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「その背景になんらかの本質的なニーズがある場合が多い」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉える契機とすることに利活用上の力点がある。また、届出の遅れ等に由来して、「本来的に必要なサービスや支援が受けられていない状況」がある場合には、少なくとも当該部分に対してのケアニーズを有しているものと考えられる。解析上、妊娠14週以降の交付の場合がこれに該当する。

● 構成区分： 妊娠・出産期の情報

妊娠届・母子手帳・妊婦健診

構成案
妊産期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Maternity010(028)】

妊婦健診の受診回数が少ない、受診間隔に開きがある

推奨評定方法

☐ 該当☐ 非該当☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠について、母親の妊婦健診の受診回数が少ない、受けていない、3ヶ月以上連続して受診がないなどの経過があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.06**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.83—1.20

$$RR = \frac{13/14(92.9\%)}{88/106(83\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 120$ (項目該当率 11.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 14$ 項目非該当事例数 $n_2 = 106$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.68 [0.36, 3.24]	14.3% / 11.3%
重度ネグレクト	2.43 [0.64, 4.38]	21.4% / 10.4%
性的虐待	3.56 [0.05, 9.98]	0.0% / 1.9%
その他深刻な虐待	2.96 [0.75, 5.43]	21.4% / 8.5%
身体的虐待	0.42 [0.05, 0.88]	7.1% / 30.2%
ネグレクト	1.43 [0.67, 2.13]	42.9% / 31.1%
心理的虐待***	0.44 [0.05, 0.91]	7.1% / 28.3%
DV・面前暴力	1.11 [0.25, 2.09]	14.3% / 17.0%
養育上の不調	0.86 [0.52, 1.08]	64.3% / 73.6%

** 項目該当 あり/なし 別でのアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	94%
市区町村(児童虐待相談)	67%
児童相談所(児童虐待相談)	91%
総合的な組織*	96%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 里帰りや転院等の理由を除き、定期的に妊婦検診を受けていない
- ・ 妊婦検診の最終受診日から次の健診まで3ヶ月以上受診がない経過があった
- ・ 必要と思われる妊婦健診の受診回数より少ない、不十分だと判断される場合

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・当該項目単体への該当・非該当によって、養育上の不調等の発生可能性を検出することは困難であるという解析結果が得られた。
- ・ただし、受診機会の不足から「本来的に必要なサービスや支援が受けられていない状況」がある場合には、少なくとも当該部分に対してのケアニーズを有しているものと考えられる。

● 構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠届・母子手帳・妊婦健診

構成案
妊娠期間採用

☐

構成案
乳幼児期採用

☐

機械学習
予測貢献項目

☐

【項目ID: MaternityO11 (O29)】

多胎・複産

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の出産が多胎・複産だった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.85**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.35—1.11

$$RR = \frac{2/2(100\%)}{149/168(88.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	93%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 170$ (項目該当率 1.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 2$ 項目非該当事例数 $n_2 = 168$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.25 [0.08, 5.26]	0.0% / 11.3%
重度ネグレクト	3.82 [0.67, 6.67]	50.0% / 13.1%
性的虐待	10.53 [0.30, 26.57]	0.0% / 2.4%
その他深刻な虐待	2.04 [0.06, 4.83]	0.0% / 12.5%
身体的虐待	1.65 [0.33, 2.77]	50.0% / 30.4%
ネグレクト	0.66 [0.02, 1.51]	0.0% / 38.7%
心理的虐待***	1.87 [0.35, 3.17]	50.0% / 26.8%
DV・面前暴力	1.29 [0.05, 2.99]	0.0% / 19.6%
養育上の不調	0.67 [0.12, 1.11]	50.0% / 75.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 多胎の場合(双子・三つ子等は問わない)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、**多胎・複産であったこと自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されない**ことに留意する必要がある。
- 解析の結果は、多胎・複産に該当した対象事例数が極めて少ないことから、「評価が困難」となっている。

● 構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域
胎児の情報

構成案
妊娠・出産期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: MaternityO12(O3O)】
胎児に疾病または障害がある(疑われる)

推奨評価方法
☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠に関して、胎児のときに疾病または障害があった(疑われた)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.87**
ベイズ推定法による95%確信区間 0.50—1.08
$$RR = \frac{5/6(83.3\%)}{119/137(86.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	89%
市区町村(児童虐待相談)	87%
児童相談所(児童虐待相談)	97%
総合的な組織*	93%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 143$ (項目該当率 4.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 6$ 項目非該当事例数 $n_2 = 137$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.71 [0.05, 4.37]	0.0% / 7.3%
重度ネグレクト	3.47 [0.82, 6.23]	33.3% / 10.9%
性的虐待	96.76 [0.55, 206.15]	0.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	2.43 [0.05, 6.22]	0.0% / 5.1%
身体的虐待	1.21 [0.31, 2.06]	33.3% / 31.4%
ネグレクト	1.17 [0.41, 1.79]	50.0% / 43.1%
心理的虐待***	1.85 [0.65, 2.84]	50.0% / 27.0%
DV・面前暴力	1.27 [0.19, 2.49]	16.7% / 19.7%
養育上の不調	0.85 [0.40, 1.16]	66.7% / 74.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 胎児のときに疾病または障害があった(疑われた)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、胎児に疾病または障害がある(疑われる) こと自体が、養育上の不調等の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。

・ 解析の結果は、当該項目に該当した対象事例数が少ないことから、「評価が困難」となっている。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊婦の健康・産科系既往

構成案
妊娠採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: MaternityO13(O31)】

妊婦の身体的健康や生活習慣に懸念がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠時に、妊婦の身体的健康や生活習慣に懸念情報があった(性感染症罹患や体重の極端な増減、食生活や生活の乱れ、重症妊娠悪阻等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.04**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.90—1.15

$$RR = \frac{37/41(90.2\%)}{61/71(85.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	88%
市区町村(児童虐待相談)	84%
児童相談所(児童虐待相談)	93%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 112$ (項目該当率 36.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 41$ 項目非該当事例数 $n_2 = 71$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.94 [0.21, 1.87]	7.3% / 9.9%
重度ネグレクト	2.11 [0.46, 4.36]	9.8% / 5.6%
性的虐待	3.59 [0.19, 8.43]	2.4% / 1.4%
その他深刻な虐待	1.05 [0.30, 1.99]	9.8% / 11.3%
身体的虐待	0.75 [0.34, 1.15]	19.5% / 28.2%
ネグレクト	1.20 [0.67, 1.73]	34.1% / 29.6%
心理的虐待***	0.96 [0.49, 1.40]	26.8% / 29.6%
DV・面前暴力	1.05 [0.48, 1.62]	22.0% / 22.5%
養育上の不調	1.16 [0.91, 1.37]	80.5% / 69.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 妊娠届出時に性感染症への罹患が確認されている、または性感染症や結核の検査を受けていない
- 妊婦に重症妊娠悪阻がある
- 妊婦の体重がBMI18.5未満または25以上
- 妊婦に身体的健康に関わる欠食や偏食、食習慣の乱れ、栄養摂取上の問題がある
- 妊婦に歯周疾患がある
- 妊婦が極端なダイエットをしている

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、妊婦の身体的健康生活習慣に関する懸念事項自体が、養育上の不調等の本質的な原因になるとは解釈されないことに留意する必要がある。
- 解析の結果は、当該項目単体での「該当・非該当」によって、養育上の不調等の発生を検出するのは困難であることを示している。ただし、当該結果は「社会的リスク」の観点に関するものであって、保健医学的リスクは別途の評価が必要である。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠に対する態度や感情

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: MaternityO14(O32)】

母親に妊娠の自覚がない、妊娠や胎児に対して無関心

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠について、母親に妊娠の自覚がない、または、妊娠や胎児に対して無関心な様子があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.11**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.86—1.24

$$RR = \frac{11/11(100\%)}{90/108(83.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	82%
市区町村(児童虐待相談)	73%
児童相談所(児童虐待相談)	83%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 119$ (項目該当率 9.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 11$ 項目非該当事例数 $n_2 = 108$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.40 [0.29, 5.20]	9.1% / 6.5%
重度ネグレクト	2.80 [0.59, 5.35]	18.2% / 8.3%
性的虐待	2.86 [0.07, 7.79]	0.0% / 2.8%
その他深刻な虐待	1.67 [0.21, 3.60]	9.1% / 9.3%
身体的虐待	1.04 [0.24, 1.88]	18.2% / 22.2%
ネグレクト	1.94 [1.15, 2.57]	72.7% / 36.1%
心理的虐待***	1.05 [0.23, 1.89]	18.2% / 22.2%
DV・面前暴力	3.38 [1.31, 5.38]	45.5% / 13.9%
養育上の不調	1.33 [1.05, 1.50]	100.0% / 70.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 妊娠中期以降、妊娠の自覚がない(身体の変化や今後の出産・育児等の生活の変化に対する実感が伴っていない様子がある)
- 妊娠や胎児に対して無関心な様子を示す
- 妊娠に対する反応や思いが不自然、または違和感を感じる(妊娠について「なんとも思わない」と語るなど)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親に妊娠の自覚がない、妊娠や胎児に対して無関心であることが、出生後の養育上の不調等の発生の本質的な原因になる、あるいは発生を決定づけるものとは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、数値上の結果から、当該状況が出生後の子どもに対しても引き継がれ、各種のアウトカムの発生につながっている例が相対的に多い可能性が示唆されている。予防的視座から、背景事情や子どもへの関心に対するアプローチが必要であるものと考えられる。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠に対する態度や感情

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: MaternityO15(O33)】

母親に妊娠、出産、胎児に対する困惑や葛藤、
受容の困難、否定的な発言・言動がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠について、母親に妊娠、出産、胎児に対する困惑や葛藤、受容の困難、否定的な発言・言動があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.20**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.02—1.33

$$RR = \frac{28/29(96.6\%)}{60/76(78.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	87%
市区町村(児童虐待相談)	73%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	74%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 105$ (項目該当率 27.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 29$ 項目非該当事例数 $n_2 = 76$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	6.19 [1.94, 11.60]	31.0% / 5.3%
重度ネグレクト	1.44 [0.32, 2.79]	10.3% / 9.2%
性的虐待	32.25 [0.49, 58.77]	3.4% / 0.0%
その他深刻な虐待	2.06 [0.55, 3.97]	13.8% / 7.9%
身体的虐待	3.32 [1.75, 4.98]	51.7% / 15.8%
ネグレクト	1.24 [0.72, 1.71]	44.8% / 36.8%
心理的虐待***	1.60 [0.69, 2.51]	27.6% / 18.4%
DV・面前暴力	1.82 [0.71, 3.06]	24.1% / 14.5%
養育上の不調	1.29 [1.04, 1.49]	89.7% / 68.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 妊娠祝福の言葉かけに対して、戸惑いや無反応、否定的な様子を示す
- ・ 胎児について「産みたくない」と語るなど、妊娠継続に否定的
- ・ 胎児の性別が望んだものではないと語る
- ・ 妊娠・胎児への否定的な発言や言動がある(戸惑っている、困っている、後悔している)
- ・ 妊娠そのものを受け入れられていない・受容できない
- ・ 出産に対する葛藤がある、悩みを抱えている、出産の意思が曖昧で問題を先送りにしている
- ・ 妊娠による身体の変化に拒否的、否定的、受容できない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、妊娠や出産、胎児に対する困惑や葛藤などが、出生後の養育上の不調等の発生の原因とは解釈されない、あるいは発生を決定づける訳ではないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当する時点で母親が何らかの課題・ケアニーズを抱えていることは明らかであるものと考えられる。また、数値上の結果から、当該状況が出生後の子どもに対しても引き継がれ、各種のアウトカムの発生につながっている例が相対的に多い可能性が示唆される。予防的視座から、背景事情や子どもへの関心に対するアプローチが必要であるものと考えられる。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠に対する態度や感情

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: MaternityO16(O34)】

出産直前まで、母親が妊娠を周囲に隠していた

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】 出産直前まで、母親が妊娠を周囲に隠していた

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.00**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.59—1.19

$$RR = \frac{4/4(100\%)}{102/121(84.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管) 91%

市区町村(児童虐待相談) 88%

児童相談所(児童虐待相談) 91%

総合的な組織* 93%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 125$ (項目該当率 3.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 4$ 項目非該当事例数 $n_2 = 121$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	4.09 [1.05, 6.99]	50.0% / 12.4%
重度ネグレクト	2.72 [0.37, 5.29]	25.0% / 12.4%
性的虐待	20.22 [0.22, 53.46]	0.0% / 0.8%
その他深刻な虐待	1.71 [0.05, 4.29]	0.0% / 9.9%
身体的虐待	1.72 [0.46, 2.79]	50.0% / 29.8%
ネグレクト	1.02 [0.16, 1.95]	25.0% / 32.2%
心理的虐待***	1.85 [0.26, 3.56]	25.0% / 18.2%
DV・面前暴力	0.63 [0.02, 1.55]	0.0% / 26.4%
養育上の不調	1.21 [0.69, 1.47]	100.0% / 69.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 親族や身近な知人・友人、職場などに、妊娠を隠していた
- 親族や身近な知人・友人、職場の上司などが、妊娠を知らない状況があった

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、出産直前まで妊娠を隠していたこと自体が、養育上の不調等の本質的な原因である、あるいは当該アウトカムの発生を決定づけるものとは解釈されないことに留意する必要がある。
- 解析の結果、該当例数に不足があるものの、「重篤な身体的虐待の発生」の検出に貢献しうる可能性が示されている。各種アウトカム全体の検出には寄与しない可能性があるものの、該当時には特に慎重なアセスメントが必要になるものと考えられる。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

出産・産後への準備性

構成案
妊娠・産後期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: MaternityO17(O35)】

母親が出産や養育を拒否する、
養育できる自信がないなどの困難を訴える

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の出産について、母親が出産や養育を拒否する、養育できる自信がないなどの困難の訴えがあった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.07**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.97—1.14

$$RR = \frac{31/31(100\%)}{94/103(91.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	92%
市区町村(児童虐待相談)	84%
児童相談所(児童虐待相談)	91%
総合的な組織*	84%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 134$ (項目該当率 23.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 31$ 項目非該当事例数 $n_2 = 103$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.15 [1.03, 5.66]	19.4% / 6.8%
重度ネグレクト	2.03 [0.69, 3.55]	19.4% / 10.7%
性的虐待	1.48 [0.03, 4.10]	0.0% / 1.9%
その他深刻な虐待	0.78 [0.16, 1.53]	6.5% / 11.7%
身体的虐待	1.29 [0.65, 1.86]	32.8% / 26.2%
ネグレクト	1.46 [0.94, 1.90]	54.8% / 37.9%
心理的虐待***	1.40 [0.74, 2.02]	35.5% / 26.2%
DV・面前暴力	0.82 [0.31, 1.33]	16.1% / 22.3%
養育上の不調	1.36 [1.15, 1.52]	96.8% / 69.9%

** 項目該当あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 出産後の養育を拒否する態度、言動がある
- ・ 胎児について、「産みたいが育てる自信がない」、「育てられない」等の言動がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、客観的な分析結果とは独立して、「母親に養育上のケアニーズがある」と明確に判断される。また、数値上の結果から、当該訴えが結果として養育上の不調や重篤な身体的虐待の発生の検出に寄与する可能性が示されている。訴えの背後にあるニーズを総合的に把握し、必要な支援や介入につなげる必要があるものと考えられる。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域 出産・産後への準備性

構成案
妊娠・産後期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: MaternityO18(O36)】
出産に必要な準備ができていない・遅れがある

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の出産について、必要な準備ができていない・遅れがある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.21**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.03—1.34

$$RR = \frac{28/29(96.6\%)}{62/79(78.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	89%
市区町村(児童虐待相談)	87%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	89%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 108$ (項目該当率 26.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 29$ 項目非該当事例数 $n_2 = 79$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.86 [0.24, 1.56]	10.3% / 15.2%
重度ネグレクト	3.62 [1.10, 6.85]	20.7% / 6.3%
性的虐待	58.95 [1.12, 93.90]	6.9% / 0.0%
その他深刻な虐待	2.15 [0.59, 4.05]	13.8% / 7.6%
身体的虐待	1.17 [0.56, 1.76]	31.0% / 27.8%
ネグレクト	2.71 [1.65, 3.71]	65.5% / 24.1%
心理的虐待***	1.40 [0.76, 1.98]	41.4% / 30.4%
DV・面前暴力	1.00 [0.38, 1.63]	20.7% / 22.8%
養育上の不調	1.31 [1.04, 1.53]	86.2% / 64.6%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 妊娠・出産に関連する手続きが自分でできない(出産病院を探せない等)
- 妊娠36週ごろ以降になっても、出産の準備をしていない、出産病院等が決まっていない、産後の手続きや、出産・育児に関して受けられるサービスを把握・理解していない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、出産準備に不足や遅れがあること自体が、養育上の不調等の発生に関する本質的な原因、あるいは発生を決定づけるものではないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「当該状況の背景に何らかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域 出産・産後への準備性

構成案
妊娠期採用 ☒

構成案
乳幼児期採用 ☐

機械学習
予測貢献項目 ☒

【項目ID: MaternityO19(O37)】
母親に出産・産後の育児に関するイメージがない、
プランが非現実的

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に関して、出産・産後の育児に関するイメージがない・プランが非現実的だった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.33**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.13—1.52

$$RR = \frac{48/49(98\%)}{39/53(73.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 102$ (項目該当率 48.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 49$ 項目非該当事例数 $n_2 = 53$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.84 [0.18, 1.70]	6.1% / 9.4%
重度ネグレクト	2.10 [0.81, 3.63]	22.4% / 11.3%
性的虐待	3.58 [0.25, 8.19]	4.1% / 1.9%
その他深刻な虐待	1.21 [0.41, 2.15]	14.3% / 13.2%
身体的虐待	1.26 [0.71, 1.80]	36.7% / 30.2%
ネグレクト	2.20 [1.27, 3.15]	53.1% / 24.5%
心理的虐待***	0.88 [0.46, 1.29]	28.6% / 34.0%
DV・面前暴力	2.11 [0.83, 3.61]	22.4% / 11.3%
養育上の不調	1.24 [0.97, 1.48]	79.6% / 64.2%

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	89%
市区町村(児童虐待相談)	85%
児童相談所(児童虐待相談)	90%
総合的な組織*	88%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別でのアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 出産や産後のプランが非現実的(経済状況等と内容が噛み合っていない、「一人でなんとかできる」など)
- 産後の生活のイメージがない、子育てのモデルになる人が周囲にいない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、出産・産後の育児イメージが具体的に描けていないことやプランの非現実性自体が、養育上の不調等の発生に関する本質的な原因とは解釈されず、またその発生を決定づけるものではないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「当該状況の背景に何らかの本質的なニーズがある」「将来的な養育上のニーズの発生に繋がらうる」ことを示唆するサインであって、その背景を捉えるアセスメントの契機とすることに利活用上の力点がある。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評定領域

出産・産後への準備性

構成案
妊娠・産後期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: MaternityO20(O38)】

出産や産後の子育てに関する母親の不安が強い

推奨評定方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に関して、出産や産後の子育てに関する不安が強い、または、妊娠中に頻回な相談や医療機関の受診がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.08**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.93—1.18

$$RR = \frac{35/38(92.1\%)}{80/95(84.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	96%
市区町村(児童虐待相談)	90%
児童相談所(児童虐待相談)	80%
総合的な組織*	94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 133$ (項目該当率 28.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 38$ 項目非該当事例数 $n_2 = 95$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.40 [0.82, 4.21]	18.4% / 8.4%
重度ネグレクト	1.00 [0.31, 1.76]	10.5% / 12.6%
性的虐待	4.80 [0.24, 12.00]	2.6% / 1.1%
その他深刻な虐待	1.05 [0.26, 1.97]	7.9% / 9.5%
身体的虐待	1.57 [0.92, 2.17]	42.1% / 27.4%
ネグレクト	1.10 [0.65, 1.50]	39.5% / 36.8%
心理的虐待***	1.73 [1.02, 2.39]	44.7% / 26.3%
DV・面前暴力	1.27 [0.54, 1.99]	21.1% / 17.9%
養育上の不調	1.20 [0.94, 1.41]	78.9% / 65.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 出産後の育児への不安が強い、育児書やインターネットの情報を過剰に調べるなどの対処行動が目立つ
- ・ 育児等について細かすぎる質問が多い
- ・ 妊娠中に頻回な医療機関受診や電話相談がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、数値上の結果とは独立に、「子育てに関する不安」それ自体が、周囲によるサポートを必要としていることを示すサイン、あるいは主観的なニーズであると考えられる。ただし、**出産や産後の子育てに関する母親の不安が強いこと自体が養育上の不調等の発生に関する本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある**。分析結果を踏まえた客観的視点から見た場合、子育てに関する不安が強い場合は、心理的虐待の発生を予測させるサインであると解釈される。当該不安の背景にある本質的なニーズを捉え、必要なケアにつなげるための契機となる観点として活用することが推奨される。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

出産・産後への準備性

構成案
妊娠・産後期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Maternity021 (039)】

母親の妊娠・出産・育児に関する
知識や意欲・行動が乏しい

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親について、妊娠・出産・育児に関する知識や意欲・行動が乏しい

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.22**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.06—1.37

$$RR = \frac{91/95(95.8\%)}{35/44(79.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	93%
市区町村(児童虐待相談)	88%
児童相談所(児童虐待相談)	93%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 139$ (項目該当率 68.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 95$ 項目非該当事例数 $n_2 = 44$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.61 [0.56, 2.99]	13.7% / 9.1%
重度ネグレクト	9.55 [1.81, 21.66]	22.1% / 2.3%
性的虐待	30.89 [0.34, 26.09]	3.2% / 0.0%
その他深刻な虐待	2.13 [0.68, 4.20]	13.7% / 6.8%
身体的虐待	1.38 [0.78, 2.03]	33.7% / 25.0%
ネグレクト	3.28 [1.62, 1.50]	50.5% / 15.9%
心理的虐待***	1.26 [0.71, 1.86]	30.5% / 25.0%
DV・面前暴力	0.86 [0.48, 1.27]	24.2% / 29.5%
養育上の不調	1.48 [1.17, 1.78]	86.3% / 59.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 妊娠と出産に関する基本的知識がない、それを習得する意欲や行動が乏しい
- 育児イメージがないような的外れな質問が多い
- 妊娠や出産、今後の育児について、家族や周囲と話し合いをしていない
- 妊娠してから、胎児やその母体としての自身の健康管理などについて、意識的な行動の変化がない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的な分析結果とは独立して、「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景にあるニーズを総合的に把握し、必要な支援や介入につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠期の父・パートナー関係

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: MaternityO22(O4O)】

妊娠中、母親がすでに離婚や別居や複雑な婚姻関係、
パートナー関係でトラブルや葛藤を抱えている

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠中、母親がすでに離婚や別居、複雑な婚姻関係を抱えていた、または、パートナー関係で
トラブルや葛藤を抱えていた

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.30**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.16—1.42

$$RR = \frac{44/44(100\%)}{74/97(76.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	93%
市区町村(児童虐待相談)	90%
児童相談所(児童虐待相談)	97%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 141$ (項目該当率 31.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 44$ 項目非該当事例数 $n_2 = 97$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.80 [0.14, 1.63]	4.5% / 8.2%
重度ネグレクト	1.59 [0.63, 2.60]	18.2% / 12.4%
性的虐待	2.04 [0.02, 5.42]	0.0% / 1.0%
その他深刻な虐待	2.83 [0.93, 5.13]	15.9% / 6.2%
身体的虐待	1.42 [0.79, 2.02]	34.1% / 24.7%
ネグレクト	1.84 [1.21, 2.42]	54.5% / 29.9%
心理的虐待***	2.01 [1.16, 2.83]	38.6% / 19.6%
DV・面前暴力	4.84 [2.18, 8.01]	38.6% / 8.2%
養育上の不調	1.44 [1.21, 1.63]	93.2% / 63.9%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 妊娠中に、すでに離婚や別居などのパートナーとのトラブルや問題を抱えている
- ・ 離婚後300日以内の出産である(「300日問題」がある)
- ・ 複雑な婚姻関係やパートナー関係がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、**妊娠中のパートナー関係の葛藤自体が、出生後の養育上の不調等の発生を決定づける本質的な原因とは解釈されない**ことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当する時点で、すでに母親が何らかの課題・ケアニーズを抱えていることは明らかであるものと考えられる。また、数値上の結果から、当該状況が子どもの出生後も引き継がれ、各種のアウトカムの発生につながっている例が相対的に多い可能性が示唆される。予防的視座から、当該家庭が抱える課題へのアプローチが必要であるものと考えられる。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠期の父・パートナー関係

構成案
妊娠採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Maternity023(041)】

妊娠中、母親がパートナーとの関係について、暴言や暴力、金銭の使い方、理解や協力が無いなどの悩みを抱えている

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠中、母親がパートナーとの関係について、暴言や暴力、金銭の使い方、理解や協力が得られないなどの悩みを抱えていた

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.16**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.99—1.28

$$RR = \frac{32/34(94.1\%)}{56/70(80\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	84%
市区町村(児童虐待相談)	68%
児童相談所(児童虐待相談)	96%
総合的な組織*	93%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 104$ (項目該当率 32.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 34$ 項目非該当事例数 $n_2 = 70$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	4.90 [0.86, 10.74]	11.8% / 2.9%
重度ネグレクト	1.33 [0.31, 2.60]	8.8% / 8.6%
性的虐待	1.92 [0.03, 5.13]	0.0% / 1.4%
その他深刻な虐待	0.49 [0.01, 1.33]	0.0% / 5.7%
身体的虐待	1.98 [1.12, 2.80]	47.1% / 24.3%
ネグレクト	1.22 [0.74, 1.66]	44.1% / 37.1%
心理的虐待***	1.63 [0.89, 2.32]	41.2% / 25.7%
DV・面前暴力	3.08 [1.26, 5.21]	29.4% / 10.0%
養育上の不調	1.29 [1.01, 1.50]	85.3% / 65.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 妊娠中に、母親がパートナーとの関係で心配事を抱えている
- パートナーの金銭の使い方や経済基盤(失業やその恐れなど)に心配がある
- パートナーによる暴言や暴力がある(飲酒時なども含む)
- 妊娠期の生活や援助について、パートナーの理解・協力が得られない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、妊娠中のパートナー関係の葛藤自体が、出生後の養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当する時点で、すでに母親が何らかの課題・ケアニーズを抱えていることは明らかである。また、数値上の結果から、当該状況が子どもの出生後も引き継がれ、各種のアウトカムの発生につながっている例が相対的に多い可能性が示唆される。予防的視点から、当該家庭が抱える課題へのアプローチが必要であるものと考えられる。
- Preconception Careにおいて親密な他者間の暴力は母体や子どもの健康に影響を及ぼす主たる要因の一つとされ、Sexual and Reproductive Health and Rights(SRHR)では、性に基づく暴力(gender-based violence)は健康と権利の保障に関する主要トピックの一つとなっている。

構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠期の社会的サポート

構成案
妊娠採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: MaternityO24(O42)】

妊娠期、産前産後の援助者が十分ではない、
妊婦が孤立している可能性がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】 親族等を含めて産前・産後の援助者がいない、父・パートナーの一人しかいない、気軽に相談できる相手や周囲の援助が十分ではない、妊婦が孤立している可能性があるなどの状況があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.19**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.08—1.29

$$RR = \frac{60/61(98.4\%)}{79/96(82.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 157$ (項目該当率 38.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 61$ 項目非該当事例数 $n_2 = 96$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.50 [1.04, 4.14]	19.7% / 8.3%
重度ネグレクト	1.55 [0.54, 2.71]	11.5% / 8.3%
性的虐待	53.43 [0.32, 41.7]	1.6% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.40 [0.57, 2.26]	14.8% / 11.5%
身体的虐待	1.38 [0.86, 1.86]	39.3% / 29.2%
ネグレクト	1.30 [0.91, 1.64]	50.8% / 39.6%
心理的虐待***	1.19 [0.76, 1.61]	37.7% / 32.3%
DV・面前暴力	1.54 [0.80, 2.29]	24.6% / 16.7%
養育上の不調	1.27 [1.09, 1.42]	90.2% / 70.8%

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	92%
市区町村(児童虐待相談)	88%
児童相談所(児童虐待相談)	95%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 妊娠や出産について相談できる人が周囲にいない
- ・ 産前・産後の援助者がいない、相談者や協力者が見つけれられない
- ・ 妊娠中時点で、産後サポートが父・パートナーのみしかいない
- ・ 妊婦自身の家族に満足に頼ることができない(遠方、死別など理由は問わない)
- ・ 妊娠中の家事をほぼ妊婦が実施している
- ・ 産後すぐの養育を産婦が一人で担っている

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 妊産婦の(社会的)孤立は、様々な文献等で共通して指摘される支援上の課題である。
- ・ 当該状況に該当する場合、客観的な分析結果とは独立して、「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、必要な支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域 妊娠期の社会的サポート

構成案
妊娠・出産期採用

☒

構成案
乳幼児期採用

☐

機械学習
予測貢献項目

☐

【項目ID: Maternity025(O43)】

学校や職場などから、母親の妊娠・出産に関する十分な理解と対応が得られていない

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に関して、学校や職場などから、妊娠・出産に関する十分な理解と対応が得られていなかった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 1.05

ベイズ推定法による95%確信区間 0.78—1.17

$$RR = \frac{9/9(100\%)}{80/91(87.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	84%
市区町村(児童虐待相談)	72%
児童相談所(児童虐待相談)	77%
総合的な組織*	79%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 100$ (項目該当率 9.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 9$ 項目非該当事例数 $n_2 = 91$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.20 [0.03, 3.05]	0.0% / 7.7%
重度ネグレクト	3.00 [1.04, 4.92]	44.4% / 15.4%
性的虐待	135.17 [1.78, 227.28]	11.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.19 [0.15, 9.99]	11.1% / 15.4%
身体的虐待	1.14 [0.26, 2.08]	22.2% / 24.2%
ネグレクト	1.92 [1.22, 2.44]	88.9% / 42.9%
心理的虐待***	1.59 [0.49, 2.64]	33.3% / 23.1%
DV・面前暴力	1.05 [0.23, 1.92]	22.2% / 26.4%
養育上の不調	1.21 [0.91, 1.38]	100.0% / 75.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

学校や職場などから、妊娠・出産に関する十分な理解と対応が得られていない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

前提として、学校や職場などから、母親の妊娠・出産に関する十分な理解と対応が得られていないこと自体が、養育上の不調等の発生に関する本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「当該状況の背景に何らかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠期の経済状況

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: MaternityO26(O44)】

妊娠中、妊婦がすでに経済的な困窮を抱えている

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠中、妊婦がすでに経済的な困窮(生活保護の受給、助産制度の利用、ガス・水道の供給停止や医療費の未払い等)を抱えている

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.06**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.91—1.16

$$RR = \frac{30/32(93.8\%)}{79/91(86.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 123$ (項目該当率 26.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 32$ 項目非該当事例数 $n_2 = 91$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.47 [0.54, 2.43]	18.8% / 14.3%
重度ネグレクト	2.14 [0.74, 3.76]	18.8% / 9.9%
性的虐待	2.72 [0.21, 6.60]	3.1% / 2.2%
その他深刻な虐待	0.78 [0.08, 1.71]	3.1% / 7.7%
身体的虐待	0.87 [0.45, 1.24]	31.2% / 37.4%
ネグレクト	1.77 [1.04, 2.39]	50.0% / 28.6%
心理的虐待***	1.28 [0.77, 1.71]	46.9% / 37.4%
DV・面前暴力	1.80 [0.93, 2.66]	34.4% / 19.8%
養育上の不調	1.16 [0.93, 1.34]	84.4% / 71.4%

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	91%
市区町村(児童虐待相談)	90%
児童相談所(児童虐待相談)	85%
総合的な組織*	90%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 妊娠中から生活保護の受給がある、助産制度の利用を申請している、ガス・水道の供給停止や医療費の未払い等があるなど、経済的な困窮が確認できる情報がある場合
- 食事に困る、病院受診や妊婦健診を受けるための費用が捻出できないなどの、経済的な困窮が発生している場合

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、妊娠中に妊婦が経済的な困窮を抱えていること自体が、出生後の養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当する時点で、妊婦が経済的な課題を中心とするケアニーズを抱えていることは明らかである。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊娠期の経済状況

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Maternity027(045)】

妊婦が出産や子育てに関する経済的な心配を抱える

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠中、妊婦が出産や子育てに関する経済的な心配を抱えていた

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.25**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.09—1.40

$$RR = \frac{69/72(95.8\%)}{52/68(76.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	98%
市区町村(児童虐待相談)	82%
児童相談所(児童虐待相談)	93%
総合的な組織*	94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 140$ (項目該当率 51.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 72$ 項目非該当事例数 $n_2 = 68$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.43 [0.87, 4.39]	16.7% / 7.4%
重度ネグレクト	1.96 [0.93, 3.10]	25.0% / 13.2%
性的虐待	2.70 [0.24, 6.70]	2.8% / 1.5%
その他深刻な虐待	0.94 [0.36, 1.55]	12.5% / 14.7%
身体的虐待	1.27 [0.74, 1.78]	34.7% / 27.9%
ネグレクト	1.92 [1.21, 2.63]	50.0% / 26.5%
心理的虐待***	1.41 [0.81, 2.01]	31.9% / 23.5%
DV・面前暴力	1.47 [0.81, 2.15]	29.2% / 20.6%
養育上の不調	1.27 [1.01, 1.50]	76.4% / 60.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 経済的困窮には至っていないものの、出産や育児にかかる経済的負担が生活を圧迫する場合や、出産・子育ての費用に関する将来的な不安がある場合
- ・ 出産や子育てに関する費用を親族等から補助してもらうなど、経済的な依存等がある場合

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、妊婦が出産や子育てに関する経済的な心配を抱えていること自体が、養育上の不調等の発生に関する本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「当該状況の背景に何らかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

妊婦生活環境・習慣

構成案
妊娠・出産期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Maternity028(O46)】

妊婦が飲酒・喫煙の継続など、胎児を含めて健康上の懸念のある生活をしている

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠中、母親が飲酒・喫煙の継続や、胎児を含めた健康上の懸念のある生活をしていて

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.06**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.92—1.16

$$RR = \frac{25/26(96.2\%)}{90/102(88.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	88%
市区町村(児童虐待相談)	78%
児童相談所(児童虐待相談)	98%
総合的な組織*	94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 128$ (項目該当率 20.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 26$ 項目非該当事例数 $n_2 = 102$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.43 [0.45, 2.52]	15.4% / 12.7%
重度ネグレクト	3.71 [1.35, 6.37]	26.9% / 7.8%
性的虐待	2.47 [0.23, 5.74]	3.8% / 2.9%
その他深刻な虐待	0.69 [0.08, 1.51]	3.8% / 10.8%
身体的虐待	1.04 [0.56, 1.44]	38.5% / 38.2%
ネグレクト	2.06 [1.39, 2.66]	69.2% / 33.3%
心理的虐待***	1.50 [0.84, 2.06]	46.2% / 31.4%
DV・面前暴力	0.88 [0.28, 1.48]	15.4% / 20.6%
養育上の不調	1.00 [0.75, 1.17]	76.9% / 75.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 妊婦に妊娠中の飲酒の継続がある
- 妊婦に妊娠中の喫煙がある
- 飲酒や喫煙、その他の不規則な生活や不摂生など、胎児の健康に懸念のある生活をしているそれらをやめる、改善する様子がない場合

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、妊婦が飲酒・喫煙の継続など、胎児を含めて健康上の懸念のある生活をしていること自体が、出生後の養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当する時点で、妊婦が健康・保健的課題を中心とするケアニーズを抱えていることは明らかである。
- 当該状況に該当する場合、客観的な分析結果とは独立して、「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

出産環境・分娩までの経過

構成案
妊娠・出産期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: MaternityO29(O47)】

当該出産が、飛び込み出産や準備・計画のない
助産指導なしの自宅分娩、墜落分娩である

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の出産が、飛び込み出産や準備・計画のない助産指導なしの自宅分娩、墜落分娩だった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.88**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.53—1.09

$$RR = \frac{7/9(77.8\%)}{130/156(83.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	89%
児童相談所(児童虐待相談)	95%
総合的な組織*	96%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 165$ (項目該当率 5.5%)
項目該当事例数 $n_1 = 9$ 項目非該当事例数 $n_2 = 156$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.06 [0.14, 2.12]	11.1% / 17.3%
重度ネグレクト	0.93 [0.03, 2.30]	0.0% / 9.6%
性的虐待	14.15 [1.21, 34.17]	11.1% / 1.3%
その他深刻な虐待	0.88 [0.02, 2.33]	0.0% / 10.3%
身体的虐待	1.37 [0.55, 2.09]	44.4% / 33.3%
ネグレクト	2.08 [1.08, 2.82]	66.7% / 30.8%
心理的虐待***	1.50 [0.49, 2.46]	33.3% / 24.4%
DV・面前暴力	0.71 [0.10, 1.41]	11.5% / 25.6%
養育上の不調	0.88 [0.46, 1.17]	66.7% / 73.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 対象となる子どもの出産が飛び込み出産だった
- 対象となる子どもの出産で、準備や計画のない助産指導等なしの医学的リスクがある
自宅分娩を希望している
- 対象児童となる子どもの出産が、助産指導なしの自宅分娩や墜落分娩だった

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、**飛び込み出産や準備・計画のない助産指導なしの自宅分娩、墜落分娩であること自体が、出生後の養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されない**ことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当する時点で、何らかの課題やケアニーズを抱えていることは明らかである。
- 当該状況に該当する場合、客観的な分析結果とは独立して、「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域

出産環境・分娩までの経過

構成案
妊娠期採用

☐

構成案
乳幼児期採用

☐

機械学習
予測貢献項目

☐

【項目ID: Maternity030(O48)】

当該出産が、里帰り出産である(都道府県内外を問わない)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の出産が、里帰り出産だった(都道府県内外を問わない)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.89**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.71—1.00

$$RR = \frac{26/32(81.2\%)}{105/116(90.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	96%
市区町村(児童虐待相談)	88%
児童相談所(児童虐待相談)	95%
総合的な組織*	92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 148$ (項目該当率 21.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 32$ 項目非該当事例数 $n_2 = 116$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.51 [0.38, 2.88]	9.4% / 7.8%
重度ネグレクト	1.32 [0.44, 2.27]	12.5% / 11.2%
性的虐待	1.10 [0.02, 3.00]	0.0% / 2.6%
その他深刻な虐待	1.28 [0.22, 2.63]	6.2% / 6.9%
身体的虐待	0.84 [0.37, 1.29]	21.9% / 28.4%
ネグレクト	0.54 [0.23, 0.89]	18.8% / 37.9%
心理的虐待***	0.94 [0.42, 1.45]	21.9% / 25.0%
DV・面前暴力	1.41 [0.64, 2.13]	25.0% / 19.0%
養育上の不調	0.88 [0.64, 1.05]	65.6% / 74.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 対象となる子どもの出産が、里帰り出産である(県外等を問わない)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、里帰り出産であること自体が、出生後の養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。里帰り出産による付加的な経済負担の発生や、頼ることのできる親族等がいることを代替的に反映しうる指標として調査に組み入れているという点を了解されたい。
- 解析の結果、当該項目単体に該当した場合、不調の発生する割合はやや低いという結果が得られている。

● 構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域

出産環境・分娩までの経過

構成案
妊娠・出産期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Maternity031 (049)】

出産を父・パートナーや親族等から反対されていた

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の出産が、父・パートナーや親族等から反対されていた

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.16**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.02—1.25

$$RR = \frac{23/23(100\%)}{102/122(83.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	82%
児童相談所(児童虐待相談)	83%
総合的な組織*	77%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 145$ (項目該当率 15.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 23$ 項目非該当事例数 $n_2 = 112$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.44 [0.62, 4.66]	13.0% / 6.6%
重度ネグレクト	2.95 [0.99, 5.06]	21.7% / 8.2%
性的虐待	9.87 [0.58, 25.92]	4.3% / 0.8%
その他深刻な虐待	0.99 [0.12, 2.16]	4.3% / 8.2%
身体的虐待	1.93 [0.99, 2.77]	43.5% / 23.0%
ネグレクト	1.79 [1.19, 2.28]	65.2% / 36.1%
心理的虐待***	1.27 [0.58, 1.91]	30.4% / 25.4%
DV・面前暴力	1.89 [0.96, 2.74]	39.1% / 21.3%
養育上の不調	1.20 [0.98, 1.35]	91.3% / 73.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 妊婦の親や親族、パートナー等から出産を反対されている、反対されていた経過がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、出産を父・パートナーや親族等から反対されていたことが、出生後の養育上の不調等の発生の本質的な原因になるとは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当する時点で、何らかの課題やケアニーズを抱えていることは十分に推測される。
- 数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域 出産環境・分娩までの経過

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Maternity032(050)】
母体または出生児に医学的リスクが伴う出産だった

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の出産が、基礎疾患等の併存や切迫早産など、母体または出生児に医学的リスクが伴う出産だった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.05**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.90—1.14

$$RR = \frac{29/31(93.5\%)}{92/105(87.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 136$ (項目該当率 22.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 31$ 項目非該当事例数 $n_2 = 105$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.77 [0.50, 3.28]	12.9% / 8.6%
重度ネグレクト	1.49 [0.53, 2.56]	16.1% / 12.4%
性的虐待	6.18 [0.37, 15.87]	3.2% / 1.0%
その他深刻な虐待	2.11 [0.50, 4.13]	9.7% / 5.7%
身体的虐待	1.29 [0.69, 1.83]	35.5% / 28.6%
ネグレクト	0.90 [0.52, 1.21]	41.9% / 47.6%
心理的虐待***	1.42 [0.74, 2.04]	35.5% / 25.7%
DV・面前暴力	2.47 [1.10, 3.88]	29.0% / 12.4%
養育上の不調	1.12 [0.86, 1.30]	77.4% / 68.6%

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	96%
市区町村(児童虐待相談)	82%
児童相談所(児童虐待相談)	77%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 対象となる子どもの出産について、切迫早産や分娩後合併症、養育医療の申請や受給がある
- 対象となる子どもの出産について、母体や新生児にとって特に医学的リスクを伴う状況があった

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母体または出生児に医学的リスクが伴う出産だったこと自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。当該状況による付加的な経済負担の発生や、心理的な負荷等を代替的に反映しうる指標として調査に組み入れているという点を了解されたい。

構成区分：妊娠・出産期の情報

評価領域
産婦/新生児の心身・生活所見

構成案
妊娠・出産期採用 ☒ 構成案
乳幼児期採用 ☐ 機械学習
予測貢献項目 ☐

【項目ID: Maternity033(051)】
母親と子ども(1歳まで)の関わり方について、
子どもをあやそうとしないなどの様子があった

推奨評価方法
☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】母親と対象児童(新生児～乳児の頃)の関わり方について、子どもをあやそうとしない、話しかける様子がない、子どもの扱いや抱き方が不自然などの様子があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 1.18

ベイズ推定法による95%確信区間 1.07—1.27

RR = $\frac{34/34(100\%)}{106/128(82.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 162$ (項目該当率 21.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 34$ 項目非該当事例数 $n_2 = 128$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.50 [0.88, 4.25]	17.6% / 7.8%
重度ネグレクト	1.47 [0.56, 2.41]	17.6% / 13.3%
性的虐待	1.23 [0.03, 3.36]	0.2% / 2.3%
その他深刻な虐待	1.38 [0.41, 2.40]	11.8% / 10.2%
身体的虐待	2.89 [1.81, 3.91]	58.8% / 20.3%
ネグレクト	1.45 [0.96, 1.87]	52.9% / 36.7%
心理的虐待***	1.86 [1.02, 2.63]	38.2% / 21.1%
DV・面前暴力	1.01 [0.46, 1.52]	23.5% / 25.0%
養育上の不調	1.31 [1.06, 1.48]	88.2% / 66.4%

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	93%
市区町村(児童虐待相談)	89%
児童相談所(児童虐待相談)	86%
総合的な組織*	94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 生後から1歳までの間で、母親が子どもに話しかける様子がない、子どもをあやそうとしない、子どもの扱いや抱き方が不自然などの所見が認められる場合

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親が子ども(1歳まで)をあやそうとしないなどの様子があったこと自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。

構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域

産婦/新生児の心身・生活所見

構成案
妊娠・出産期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Maternity034(052)】

母親が出産後(1歳頃まで)に、
産後の後悔や子どもに対する否定的な感情を表明している

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】 母親が対象児童(新生児～乳児の頃)に対して、産後の後悔や否定的な感情を表明していた(可愛くない、放り出したい、うっとおしい、うんざりする、二度と産みたくない等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.05**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.86—1.17

$$RR = \frac{25/28(89.3\%)}{107/129(82.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	94%
市区町村(児童虐待相談)	85%
児童相談所(児童虐待相談)	84%
総合的な組織*	91%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 157$ (項目該当率 17.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 28$ 項目非該当事例数 $n_2 = 129$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	5.20 [1.47, 9.91]	17.9% / 3.9%
重度ネグレクト	1.19 [0.39, 2.03]	14.3% / 14.0%
性的虐待	1.45 [0.03, 3.86]	0.0% / 2.3%
その他深刻な虐待	2.17 [0.63, 3.89]	14.3% / 7.8%
身体的虐待	2.01 [1.11, 2.84]	42.9% / 21.7%
ネグレクト	0.99 [0.50, 1.42]	32.1% / 34.1%
心理的虐待***	1.35 [0.62, 2.04]	28.6% / 22.5%
DV・面前暴力	1.03 [0.33, 1.77]	14.3% / 16.3%
養育上の不調	1.20 [0.96, 1.37]	85.7% / 69.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 母親が、生後から1歳までの子どもに対して、可愛くない、放り出したい、うっとおしい、うんざりする、二度と産みたくない等と語る
- 生後から1歳までの子どもが泣いた時に、うんざりする、イライラする、その場から逃げたくなる、助けを求めたくなるなどを表明している
- 母親が、産後の後悔や心残りを語る

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親が出産後(1歳頃まで)に 産後の後悔や子どもに対する否定的な感情を表明していることによって、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当している時点で、背景に何らかの課題やケアニーズがあることは十分に推測されうる。数値上得られた結果は、「該当した場合に、その背景になんらかの本質的なニーズを抱えていることが多い」ことを示唆するサインであって、背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。

● 構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域

産婦/新生児の心身・生活所見

構成案
妊娠・出産期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Maternity035(053)】

産後間もない母親と子どもの1週間以上の分離

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童と母親の間に、産後間もない1週間以上の分離歴があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.71**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.33—0.96

$$RR = \frac{4/6(66.7\%)}{116/129(89.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	96%
市区町村(児童虐待相談)	88%
児童相談所(児童虐待相談)	94%
総合的な組織*	92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 135$ (項目該当率 4.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 6$ 項目非該当事例数 $n_2 = 129$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	4.65 [1.54, 7.71]	50.0% / 10.9%
重度ネグレクト	1.92 [0.29, 3.81]	16.7% / 13.2%
性的虐待	5.39 [0.11, 14.46]	0.0% / 2.3%
その他深刻な虐待	2.75 [0.05, 7.45]	0.0% / 4.7%
身体的虐待	1.66 [0.57, 2.61]	50.0% / 30.2%
ネグレクト	0.58 [0.09, 1.13]	16.7% / 42.6%
心理的虐待***	0.50 [0.02, 1.25]	0.0% / 25.6%
DV・面前暴力	1.35 [0.22, 2.62]	16.7% / 18.6%
養育上の不調	0.72 [0.26, 1.07]	50.0% / 69.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 産後間もない母子分離がある場合(NICU入院等)
- 産後間もない時期に、1週間以上の母子分離歴がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、産後間もない母親と子どもの1週間以上の分離があったことと自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因、あるいは「原因ではない」とは解釈されないことに留意する必要がある。子どもとの情緒的な関係等に関して、それを代替的に反映しうる指標として調査に組み入れているという点を了解されたい。

● 構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域
産婦/新生児の心身・生活所見

構成案
妊娠・出産期採用 ☐

構成案
乳幼児期採用 ☐

機械学習
予測貢献項目 ☐

【項目ID: Maternity036(054)】
未熟児・低体重出産

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】対象児童が未熟児・低体重出産だった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 1.00

ベイズ推定法による95%確信区間 0.76—1.13

$$RR = \frac{12/13(92.3\%)}{98/112(87.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 125$ (項目該当率 10.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 13$ 項目非該当事例数 $n_2 = 112$

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.98 [0.53, 3.44]	23.1% / 13.4%
重度ネグレクト	0.50 [0.01, 1.29]	0.0% / 13.4%
性的虐待	7.07 [0.08, 18.57]	0.0% / 0.9%
その他深刻な虐待	1.24 [0.03, 3.22]	0.0% / 5.4%
身体的虐待	1.29 [0.54, 1.95]	38.5% / 31.2%
ネグレクト	0.64 [0.19, 1.08]	23.1% / 42.0%
心理的虐待***	0.97 [0.30, 1.65]	23.1% / 27.7%
DV・面前暴力	1.34 [0.50, 2.12]	30.8% / 25.0%
養育上の不調	1.19 [0.90, 1.37]	92.3% / 73.2%

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	96%
市区町村(児童虐待相談)	89%
児童相談所(児童虐待相談)	96%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 2500g未満の低体重出生、未熟児での出生だった場合(多胎による場合も含む)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、未熟児・低体重出産であった自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。母親の不安や心配の発生等、付加的に発生する事項を捉え、それを代替的に反映しうる指標として調査に組み入れているという点を了解されたい。

構成区分： 妊娠・出産期の情報

評定領域

産婦/新生児の心身・生活所見

構成案
妊娠・出産期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Maternity037(055)】

母親が赤ちゃんのいる生活に強い負担を感じている

推奨評定方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が、赤ちゃんのいる生活に強い負担を感じていた(ほとんど眠れていない、自由が奪われて苦しい、サポートがうけられない等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.14**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.99—1.25

$$RR = \frac{44/47(93.6\%)}{70/86(81.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	91%
市区町村(児童虐待相談)	87%
児童相談所(児童虐待相談)	85%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 133$ (項目該当率 35.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 47$ 項目非該当事例数 $n_2 = 86$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.92 [1.07, 5.15]	19.1% / 7.0%
重度ネグレクト	2.98 [1.05, 5.31]	19.1% / 7.0%
性的虐待	0.61 [0.01, 1.67]	0.0% / 3.5%
その他深刻な虐待	3.52 [1.18, 6.49]	19.1% / 5.8%
身体的虐待	1.69 [1.04, 2.31]	44.7% / 26.7%
ネグレクト	1.08 [0.63, 1.51]	34.0% / 32.6%
心理的虐待***	1.39 [0.80, 1.96]	36.2% / 26.7%
DV・面前暴力	1.91 [0.91, 2.95]	27.7% / 15.1%
養育上の不調	1.14 [0.94, 1.30]	83.0% / 72.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 生後1年までの頃に、母親が「赤ちゃんがいる生活が負担、辛い」等と報告している
- ・ 生後1年までの頃に、母親にほとんど眠れていない、自由が奪われて苦しい、サポートがうけられない等の状況がある
- ・ 産後すぐ、母親が十分に休める環境がない場合

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、母親が赤ちゃんのいる生活に強い負担を感じていること自体が、出生後の養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当する時点で、生活上の課題・ケアニーズを抱えていることは十分に理解される。
- ・ 数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。

● 構成区分： 妊娠・出産期の情報

評価領域

産婦/新生児の心身・生活所見

構成案
妊娠・出産期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Maternity038(056)】

母親学級や産後ケアなど、母親が妊娠・出産期の行政・地域サービス等を受けたがらない、回避する

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】 母親学級や産後ケアなど、母親が妊娠・出産期の行政・地域サービス等を受けたがらない、回避する様子があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.07**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.91—1.18

$$RR = \frac{27/29(93.1\%)}{91/107(85\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	88%
市区町村(児童虐待相談)	80%
児童相談所(児童虐待相談)	88%
総合的な組織*	82%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 136$ (項目該当率 21.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 29$ 項目非該当事例数 $n_2 = 107$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.96 [0.18, 1.90]	6.9% / 10.3%
重度ネグレクト	1.22 [0.46, 2.03]	17.2% / 15.9%
性的虐待	3.35 [0.05, 8.73]	0.0% / 0.9%
その他深刻な虐待	1.73 [0.42, 3.26]	10.3% / 7.5%
身体的虐待	0.77 [0.35, 1.15]	24.1% / 33.6%
ネグレクト	1.49 [0.89, 2.03]	48.3% / 32.7%
心理的虐待***	1.20 [0.60, 1.75]	31.0% / 27.1%
DV・面前暴力	2.31 [1.07, 3.60]	31.0% / 14.0%
養育上の不調	1.22 [1.00, 1.38]	89.7% / 72.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 母親から、産後ケアに関する相談や希望がない、勧奨しても参加等を希望しない
- ・ 母親学級等への参加を希望しない、参加しない、避けたがる様子がある
- ・ その他、妊娠・出産期にとって必要と思われる行政・地域サービス等を受けない、勧奨しても受けない、避けたがる様子がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、母親学級や産後ケアなど、母親が妊娠・出産期の行政・地域サービス等を受けたがらない、回避すること自体が、出生後の養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「当該状況の背景に何らかの本質的なニーズがある」「将来的な養育上のニーズの発生に繋がらう」ことを示唆するサインであって、その背景を捉えるアセスメントの契機とすることに利活用上の力点がある。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評定領域

母親：生活歴・生育歴

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole001 (057)】

母親に、犯罪歴や逮捕歴、他害や暴行、配偶者や恋人・家族に対する暴力等の歴がある

推奨評定方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、犯罪歴や逮捕歴、他害や暴行、配偶者や恋人・家族に対する暴力等の歴がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.13**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.99—1.22

$$RR = \frac{21/21(100\%)}{114/134(85.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	91%
市区町村(児童虐待相談)	92%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 155$ (項目該当率 13.5%)
項目該当事例数 $n_1 = 21$ 項目非該当事例数 $n_2 = 134$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.56 [0.41, 2.83]	14.3% / 11.2%
重度ネグレクト	2.53 [0.90, 4.22]	23.8% / 10.4%
性的虐待	5.97 [0.44, 15.1]	4.8% / 1.5%
その他深刻な虐待	2.43 [0.77, 4.21]	19.0% / 9.0%
身体的虐待	1.30 [0.62, 1.91]	33.3% / 26.9%
ネグレクト	1.96 [1.29, 2.51]	66.7% / 33.6%
心理的虐待***	1.06 [0.45, 1.61]	28.6% / 29.1%
DV・面前暴力	2.18 [1.10, 3.14]	42.9% / 20.1%
養育上の不調	1.05 [0.76, 1.25]	76.2% / 70.9%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 犯罪歴や逮捕歴がある、犯罪等による社会的制約がある
- 他害・暴行等の歴がある
- 配偶者または恋人への暴力、DV加害歴がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親に犯罪歴や逮捕歴、他害や暴行、配偶者や恋人・家族に対する暴力等の歴があること自体が、養育上の不調等の発生に関する本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。また、当該観点は過去の事実であって、将来起こりうる物事を決定づけるものでもない。
- 数値上得られた結果は、当該状況に該当する場合に、養育上の不調等の発生が、調査データ上にて多かったということを示している。現在の状況を鑑みたアセスメントにつなげることに利活用上の力点がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
母親：生活歴・生育歴

構成案
妊娠前採用  構成案
乳幼児期採用  機械学習
予測貢献項目 

【項目ID: Whole002(058)】
母親に、配偶者や恋人からの暴力・DV等の被害歴がある
または疑われる

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、配偶者または恋人からの暴力・DV等の被害歴がある、または疑われる

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 1.16

ベイズ推定法による95%確信区間 1.02—1.26

RR = $\frac{50/53(94.3\%)}{81/100(81\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

組織別の項目確認可能性	
市区町村(母子保健主管)	94%
市区町村(児童虐待相談)	95%
児童相談所(児童虐待相談)	96%
総合的な組織*	91%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 104$ (項目該当率 60.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 63$ 項目非該当事例数 $n_2 = 41$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.94 [0.22, 1.84]	5.7% / 8.0%
重度ネグレクト	0.83 [0.25, 1.49]	7.5% / 11.0%
性的虐待	1.73 [0.03, 4.83]	0.0% / 1.0%
その他深刻な虐待	2.44 [0.83, 4.45]	13.2% / 6.0%
身体的虐待	1.29 [0.74, 1.77]	34.0% / 27.0%
ネグレクト	1.03 [0.66, 1.33]	41.5% / 41.0%
心理的虐待***	2.14 [1.23, 3.05]	37.7% / 18.0%
DV・面前暴力	5.11 [2.56, 7.99]	45.3% / 9.0%
養育上の不調	1.23 [0.99, 1.42]	79.2% / 64.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 配偶者または恋人からの暴力、DV被害歴がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的な分析結果とは独立して、「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」ものと推測される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景にあるニーズを総合的に把握し、必要な支援や介入につなげる必要があるものと考えられる。
- Preconception Careにおいて、親密な他者を含めた対人暴力は子どもや保護者に悪影響を及ぼす主要な要因の一つとされている。慎重なアセスメントと対応が必要になると考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：生活歴・生育歴

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole003(059)】

母親に、複雑な家庭環境での生育、非行や不登校等の経験、過去の逆境体験がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、複雑な家庭環境での生育、非行や不登校等の経験、過去の逆境体験(虐待やネグレクトを受けていた)、両親等から愛されなかった思い、厳しいしつけを受けて育ってきた等の複雑な過去がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.36**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.15—1.57

$$RR = \frac{62/63(98.4\%)}{30/41(73.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	75%
児童相談所(児童虐待相談)	97%
総合的な組織*	85%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 104$ (項目該当率 60.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 63$ 項目非該当事例数 $n_2 = 41$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.99 [0.93, 5.81]	20.6% / 7.3%
重度ネグレクト	1.72 [0.46, 3.40]	11.1% / 7.3%
性的虐待	0.68 [0.01, 1.72]	0.0% / 2.4%
その他深刻な虐待	20.17 [0.27, 22.88]	3.2% / 0.0%
身体的虐待	1.15 [0.66, 1.63]	38.1% / 34.1%
ネグレクト	1.77 [0.99, 2.63]	46.0% / 26.8%
心理的虐待***	2.18 [1.12, 3.40]	41.3% / 19.5%
DV・面前暴力	1.50 [0.65, 2.51]	23.8% / 17.1%
養育上の不調	1.72 [1.29, 2.15]	87.3% / 51.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 過去の逆境体験がある(ネグレクトや虐待を受けていた等)
- 複雑な家庭環境で育った、または、父母以外の人もしくは施設で育った
- 両親等に愛されなかった思いや、厳しいしつけを受けて育ってきた過去がある
- 自分自身が子どもの頃の保護者や家庭環境について否定的な記憶が多い、肯定的な思い出がない
- 親が怖かった、しつけで怒鳴る・たたく、とても厳しい、あまり遊んだ記憶がない、
- 親とあまり一緒にいたくなかった、幼い頃に親との死別・離別等があった
- 自身に心理的不調による不登校や休職歴がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、複雑な家庭環境での生育、非行や不登校等の経験、過去の逆境体験があること自体が、養育上の不調等の発生の直接的な原因であるとは解釈されないことに留意する必要がある。また、当該観点は過去の事実であって、将来起こりうる物事を決定づけるものでもない。
- 数値上得られた結果は、当該状況に該当する場合に、養育上の不調等の発生が、調査データ上にて多かったということを示している。現在の状況を鑑みたアセスメントにつなげることに利活用上の力点がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：生活歴・生育歴

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole004(060)】

母親の最終学歴が義務教育範囲(中卒・高校中退等)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親の最終学歴が義務教育範囲(中卒・高校中退等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.27**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.10—1.43

$$RR = \frac{36/36(100\%)}{42/54(77.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	94%
市区町村(児童虐待相談)	80%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 90$ (項目該当率 40.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 36$ 項目非該当事例数 $n_2 = 54$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.67 [0.57, 2.94]	19.4% / 13.0%
重度ネグレクト	3.35 [0.88, 6.61]	16.7% / 5.6%
性的虐待	51.55 [1.01, 71.13]	8.3% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.73 [0.48, 3.36]	13.9% / 9.3%
身体的虐待	1.44 [0.85, 2.04]	44.4% / 31.5%
ネグレクト	1.54 [0.84, 2.25]	41.7% / 27.8%
心理的虐待***	1.32 [0.57, 2.11]	25.0% / 20.4%
DV・面前暴力	2.10 [0.92, 3.45]	33.3% / 16.7%
養育上の不調	1.36 [1.10, 1.59]	91.7% / 66.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 最終学歴が義務教育範囲(中卒・高校中退等)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、**養育に関する物事を学歴で評価・判断するなどということを意図した項目ではない**。将来的なデータ利活用等の可能性を考慮した場合に、「解析結果等に基づくサービス等の量や質が、結果的に、学歴や国籍、人種等によって異なっていないか」を評価するための補助的な観点として調査上の項目に採用したものである。ただし、数値上得られた結果から、当該状況に該当する場合に、養育上の不調等の発生が、調査データ上にて多かったことを示している。当該条件に該当する場合に、負担が生じやすい社会状況にあるとも解釈されうる。背景のケアニーズを把握するための契機として活用できる可能性がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親： 社会的属性・所属

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole005(061)】

子どもの妊娠時、
母親が学校・大学に在学中の学生だった(社会人学生を除く)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠時、母親が学校・大学に在学中の学生だった(社会人学生を除く)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.94**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.63—1.10

$$RR = \frac{8/9(88.9\%)}{122/139(87.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 98%

市区町村(児童虐待相談) 91%

児童相談所(児童虐待相談) 97%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 148$ (項目該当率 6.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 9$ 項目非該当事例数 $n_2 = 139$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.06 [0.13, 2.16]	11.1% / 17.3%
重度ネグレクト	0.58 [0.02, 1.44]	0.0% / 15.8%
性的虐待	12.46 [0.17, 32.41]	0.0% / 0.7%
その他深刻な虐待	1.34 [0.17, 2.77]	11.1% / 13.7%
身体的虐待	1.30 [0.49, 1.98]	44.4% / 35.3%
ネグレクト	0.99 [0.34, 1.58]	33.3% / 36.7%
心理的虐待***	1.34 [0.41, 2.19]	33.3% / 27.3%
DV・面前暴力	1.28 [0.28, 2.28]	22.2% / 21.6%
養育上の不調	1.03 [0.63, 1.29]	77.8% / 71.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 妊娠時に学校、大学に在学していた(社会人学生等に相当する場合を除く)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、子どもの妊娠時に母親が学校・大学に在学中の学生だった(社会人学生を除く)こと自体が、養育上の不調等の発生に関する本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。また、当該観点は過去の事実であって、将来起こりうる物事を決定づけるものでもない。
- 数値上得られた結果は、当該状況に該当する場合に、養育上の不調等の発生が、調査データ上にて多かったことを示している。現在の状況を鑑みた背景のアセスメントにつなげることに利活用上の力点がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：社会的属性・所属

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole006(062)】

母親が夜間就労(交代制を含む)または
頻繁な出張等を伴う仕事をしている

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が夜間就労(交代制を含む)または頻繁な出張等を伴う仕事をしている

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.14**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.02—1.23

$$RR = \frac{23/23(100\%)}{120/142(84.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 99%

市区町村(児童虐待相談) 98%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N=165$ (項目該当率 13.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 23$ 項目非該当事例数 $n_2 = 142$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.01 [0.20, 1.92]	8.7% / 12.0%
重度ネグレクト	2.24 [0.91, 3.61]	26.1% / 12.7%
性的虐待	3.70 [0.35, 8.75]	4.3% / 2.1%
その他深刻な虐待	2.87 [0.69, 5.50]	13.0% / 5.6%
身体的虐待	1.19 [0.65, 1.67]	39.1% / 33.8%
ネグレクト	1.59 [1.00, 2.06]	56.5% / 35.2%
心理的虐待***	0.88 [0.35, 1.38]	21.7% / 27.5%
DV・面前暴力	2.10 [1.12, 2.99]	43.5% / 21.1%
養育上の不調	1.28 [1.03, 1.45]	91.3% / 69.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 夜間就労、三交代制による不規則な勤務、長期出張等を頻繁に伴う仕事をしている

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親が夜間就労(交代制を含む)または頻繁な出張等を伴う仕事をしていることが、養育上の不調等の発生に関する本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「当該状況の背景に何らかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親： 身体所見

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole007(063)】

妊娠前や産褥期以降の平時、母親が肥満(BMIが25以上)と判断される時期があった

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親について、妊娠前や産褥期以降の平時、肥満(BMIが25以上)と判断される時期があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.99**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.74—1.14

$$RR = \frac{14/16(87.5\%)}{71/83(85.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 91%

市区町村(児童虐待相談) 91%

児童相談所(児童虐待相談) 93%

総合的な組織* 95%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 99$ (項目該当率 16.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 16$ 項目非該当事例数 $n_2 = 83$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.67 [0.01, 1.72]	0.0% / 8.4%
重度ネグレクト	1.85 [0.50, 3.30]	18.8% / 12.0%
性的虐待	30.95 [0.14, 55.72]	0.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.04 [0.13, 2.23]	6.2% / 10.8%
身体的虐待	0.89 [0.27, 1.54]	18.8% / 25.3%
ネグレクト	1.22 [0.49, 1.93]	31.2% / 27.7%
心理的虐待***	0.67 [0.15, 1.28]	12.5% / 25.3%
DV・面前暴力	0.74 [0.16, 1.38]	12.5% / 22.9%
養育上の不調	0.99 [0.67, 1.22]	75.0% / 73.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 妊娠前や産褥期以降の平時、母親が肥満(BMIが25以上)と判断される時期があった

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、妊娠前や産褥期以降の平時、母親が肥満(BMIが25以上)と判断される時期があったことが、養育上の不調等の発生に関する原因あるいは「原因ではない」と解釈されないことに留意する必要がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：身体所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole008(064)】

母親に、慢性的な身体疾患や身体障害がある
(手帳の有無を問わない)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、慢性的な身体疾患や身体障害がある(手帳の有無を問わない)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.05**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.88—1.15

$$RR = \frac{19/20(95\%)}{116/133(87.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	97%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 153$ (項目該当率 13.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 20$ 項目非該当事例数 $n_2 = 133$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.31 [0.26, 2.52]	10.0% / 10.5%
重度ネグレクト	0.68 [0.08, 1.45]	5.0% / 13.5%
性的虐待	6.26 [0.09, 15.98]	0.0% / 0.8%
その他深刻な虐待	3.04 [0.77, 5.72]	15.0% / 6.0%
身体的虐待	1.00 [0.51, 1.41]	40.0% / 41.4%
ネグレクト	1.38 [0.82, 1.84]	55.0% / 39.8%
心理的虐待***	1.28 [0.66, 1.80]	40.0% / 32.3%
DV・面前暴力	1.68 [0.56, 2.83]	20.0% / 13.5%
養育上の不調	1.12 [0.85, 1.29]	85.0% / 73.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 慢性的な身体疾患や身体障害がある場合(手帳の有無は問わない)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親に慢性的な身体疾患や身体障害があること自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当した時点で、何らかのケアニーズが発生しうることが十分に想定されうる。
- Sexual and Reproductive Health and Rightsにおいて、障害等を抱える場合は「特に区別した支援が必要である」と想定されている。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：身体所見

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole009(065)】

母親が自身に何らかの身体疾患等があっても適切な治療を受けていない、セルフケアがない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が、自身に何らかの身体疾患等があっても適切な治療を受けていない、セルフケアがない

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.05**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.90—1.14

$$RR = \frac{29/31(93.5\%)}{95/109(87.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	95%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 140$ (項目該当率 22.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 31$ 項目非該当事例数 $n_2 = 109$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.48 [0.06, 1.03]	3.2% / 12.8%
重度ネグレクト	1.53 [0.54, 2.59]	16.1% / 11.9%
性的虐待	2.97 [0.04, 8.42]	0.0% / 0.9%
その他深刻な虐待	1.11 [0.19, 2.25]	6.5% / 8.3%
身体的虐待	0.79 [0.37, 1.17]	25.8% / 34.9%
ネグレクト	1.46 [0.91, 1.94]	51.6% / 35.8%
心理的虐待***	1.54 [0.83, 2.20]	38.7% / 25.7%
DV・面前暴力	2.09 [0.98, 3.21]	29.0% / 14.7%
養育上の不調	1.17 [0.95, 1.32]	87.1% / 73.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 自身に何らかの身体疾患があっても適切な治療を受けていない、セルフケアがない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親が自身に何らかの身体疾患等があっても適切な治療を受けていない、セルフケアがないこと自体が、出生後の養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当する時点で、生活上の課題・ケアニーズを抱えていることは十分に理解される。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評定領域

母親：身体所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole010(066)】

母親に、不自然な打撲痕やリストカット痕がある、それを隠すような包帯や肌を覆い隠すような服装をしている

推奨評定方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、不自然な打撲痕やリストカット痕がある、または、それらを隠すような包帯や肌を覆い隠すような服装をしている

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.02**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.82—1.12

$$RR = \frac{16/17(94.1\%)}{126/142(88.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	95%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 159$ (項目該当率 10.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 17$ 項目非該当事例数 $n_2 = 142$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.54 [0.80, 4.41]	23.5% / 10.6%
重度ネグレクト	2.40 [0.88, 3.96]	29.4% / 13.4%
性的虐待	96.57 [1.49, 188.96]	5.9% / 0.0%
その他深刻な虐待	3.00 [0.81, 5.49]	17.6% / 7.0%
身体的虐待	1.08 [0.49, 1.58]	35.3% / 34.5%
ネグレクト	1.06 [0.52, 1.52]	41.2% / 40.1%
心理的虐待***	1.43 [0.70, 2.05]	41.2% / 29.6%
DV・面前暴力	3.38 [1.63, 5.06]	47.1% / 14.1%
養育上の不調	1.03 [0.73, 1.24]	76.5% / 71.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 身体に不自然な打撲痕やリストカット痕がある。
- 真夏などであっても、打撲痕等のある肌を覆い隠すような服装や包帯等をしている
- 過去を含めて、自傷行為がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該当状況に該当する場合、客観的に捉えて「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」ことが十分に推測される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：精神的健康・心理所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole011 (067)】

母親に、何らかの精神疾患の既往や、精神科・心療内科等の
受診歴・相談歴がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、何らかの精神疾患の既往や、精神科・心療内科等の受診歴・相談歴がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.26**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.08—1.41

$$RR = \frac{49/51(96.1\%)}{48/63(76.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 100%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 82%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 114$ (項目該当率 44.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 51$ 項目非該当事例数 $n_2 = 63$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.52 [0.09, 1.06]	3.9% / 11.1%
重度ネグレクト	2.01 [0.42, 4.20]	7.8% / 4.8%
性的虐待	11.53 [0.03, 14.12]	0.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	2.49 [0.53, 5.21]	9.8% / 4.8%
身体的虐待	1.05 [0.54, 1.55]	25.5% / 25.4%
ネグレクト	1.38 [0.85, 1.89]	43.1% / 31.7%
心理的虐待***	1.40 [0.68, 2.16]	25.5% / 19.0%
DV・面前暴力	0.86 [0.36, 1.38]	17.6% / 22.2%
養育上の不調	1.31 [1.01, 1.56]	78.4% / 60.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 何らかの精神疾患の既往や、心理カウンセラーや精神科・心療内科の相談歴がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親に何らかの精神疾患の既往や、精神科・心療内科等の受診歴・相談歴があること自体が、養育上の不調等の発生を決定づけるものではないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当した時点で、何らかのケアニーズが発生しうることには十分に想定されうる。
- Preconception Careにおいて、保護者のメンタルヘルス上の不調は、子どもの健康に影響がある主たる要因の一つとされる。予防的視座からも、特に配慮のある対応が必要な観点であると捉えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：精神的健康・心理所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole012(068)】

母親に、産後精神的に不安定な状態があった

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、産後以降精神的に不安定な状態があった(産後うつ、不眠や不安・抑うつ等の各種精神症状、服薬の自己管理や通院ができない/自己中断しているなどの状態、判断力の減退や自律的・主体的な行動が取れない状況等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.12**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.01—1.22

$$RR = \frac{77/82(93.9\%)}{71/85(83.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	91%
児童相談所(児童虐待相談)	94%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 167$ (項目該当率 49.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 82$ 項目非該当事例数 $n_2 = 85$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.13 [0.44, 1.90]	11.0% / 10.6%
重度ネグレクト	1.53 [0.76, 2.32]	20.7% / 14.1%
性的虐待	0.49 [0.01, 1.37]	0.0% / 2.4%
その他深刻な虐待	2.28 [0.78, 4.17]	12.2% / 5.9%
身体的虐待	1.41 [0.89, 1.89]	39.0% / 28.2%
ネグレクト	0.94 [0.64, 1.21]	40.2% / 43.5%
心理的虐待***	1.53 [0.96, 2.05]	39.0% / 25.9%
DV・面前暴力	1.02 [0.54, 1.51]	20.7% / 21.2%
養育上の不調	1.15 [0.96, 1.30]	80.5% / 70.6%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 服薬の自己管理ができないなど不安定な状態、判断力の著しい減退がある
- エネルギーがなく、自律的・主体的な行動や判断が取れない
- 精神科受診を自己判断で中断している
- 睡眠を十分に取ることができていない(入眠困難や中途覚醒等の睡眠の問題が発生している)
- 産後以降これまで抑うつ状態があった(不眠、イライラする、涙ぐみやすい、何もやる気がしない、食欲不振など)
- 統合失調症やその他の精神疾患を抱えている

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親に産後精神的に不安定な状態があったこと自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「当該経過から、現在も何らかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインとして解釈される。
- Preconception Careにおいて、保護者のメンタルヘルス上の不調は、子どもの健康に影響がある主要な要因の一つとされる。予防的視座からも、特に配慮のある対応が必要な観点であると捉えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：精神的健康・心理所見

構成案
妊娠前採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole013(069)】

母親に、過去の自殺企図や未遂、あるいは精神的に過度な負担を抱えた様子、心中等をほのめかす言動がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、過去の自殺企図や未遂、または、「死にたい」「楽になりたい」など、精神的に過度な負担を抱えた様子や、心中等をほのめかす言動が確認されている

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.09**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.96—1.17

$$RR = \frac{34/35(97.1\%)}{89/101(88.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	92%
児童相談所(児童虐待相談)	96%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 136$ (項目該当率 25.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 35$ 項目非該当事例数 $n_2 = 101$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.79 [0.20, 1.47]	8.6% / 13.9%
重度ネグレクト	0.87 [0.28, 1.52]	11.4% / 15.8%
性的虐待	5.58 [0.28, 13.38]	2.9% / 1.0%
その他深刻な虐待	1.23 [0.31, 2.31]	8.6% / 8.9%
身体的虐待	0.98 [0.50, 1.43]	28.6% / 30.7%
ネグレクト	0.89 [0.51, 1.23]	34.3% / 39.6%
心理的虐待***	1.89 [1.03, 2.69]	40.0% / 21.8%
DV・面前暴力	1.95 [0.94, 2.93]	31.4% / 16.8%
養育上の不調	1.06 [0.82, 1.23]	77.1% / 72.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 過去の自殺企図や未遂、あるいは精神的に過度な負担を抱えた様子、心中等をほのめかす言動がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、予防的視座から明らかに「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。Preconception Careにおいて、保護者のメンタルヘルス上の不調は、子どもの健康に影響がある主たる要因の一つとされる。予防的視座からも、特に配慮のある対応が必要な観点であると捉えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：精神的健康・心理所見

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: WholeO14(070)】

母親に疲労や無気力、(育児)ノイローゼやひどく疲れた様子、
心理的に疲労した状態がうかがわれる/心身不調の訴えがある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、疲労や無気力、(育児)ノイローゼやひどく疲れた様子、抑うつ状態、表情の乏しさ、睡眠の問題があるなど、心理的に疲労した状態がうかがわれる/心身不調の訴えがある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.25**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.11—1.38

$$RR = \frac{75/78(96.2\%)}{60/78(76.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 156$ (項目該当率 50.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 78$ 項目非該当事例数 $n_2 = 78$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.34 [0.62, 2.10]	17.9% / 14.1%
重度ネグレクト	1.98 [0.74, 3.44]	14.1% / 7.7%
性的虐待	4.86 [0.59, 10.96]	5.1% / 1.3%
その他深刻な虐待	1.14 [0.38, 2.04]	9.0% / 9.0%
身体的虐待	1.14 [0.79, 1.45]	46.2% / 41.0%
ネグレクト	1.06 [0.70, 1.36]	39.7% / 38.5%
心理的虐待***	1.21 [0.74, 1.66]	33.3% / 28.2%
DV・面前暴力	1.97 [1.07, 2.94]	32.1% / 16.7%
養育上の不調	1.43 [1.16, 1.66]	85.9% / 60.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 疲労や無気力、(育児)ノイローゼやひどく疲れた様子、抑うつ状態、表情の乏しさや悲壮感、睡眠の問題があるなど、心理的に疲労した状態がうかがわれる/心身不調の訴えがある
- ・ 自己評価が低い、自身に対する否定的評価や卑下などが見受けられる
- ・ 身体的な不調の訴え、不定愁訴がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、予防的視座から明らかに「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：精神的健康・心理所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole015(071)】

母親が仕事や人間関係、経済的問題などで抱えている
生活上のストレスが高い

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が、仕事や人間関係、経済的問題などで抱えている生活上のストレスが高い

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.30**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.12—1.46

$$RR = \frac{93/97(95.9\%)}{41/55(74.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 98%

市区町村(児童虐待相談) 98%

児童相談所(児童虐待相談) 96%

総合的な組織* 96%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 152$ (項目該当率 63.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 97$ 項目非該当事例数 $n_2 = 55$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.52 [0.70, 5.14]	12.4% / 5.5%
重度ネグレクト	2.72 [0.99, 5.03]	18.6% / 7.3%
性的虐待	0.62 [0.01, 1.48]	0.0% / 1.8%
その他深刻な虐待	1.25 [0.43, 2.30]	10.3% / 9.1%
身体的虐待	1.17 [0.73, 1.60]	37.1% / 32.7%
ネグレクト	1.86 [1.14, 2.62]	46.4% / 25.5%
心理的虐待***	1.24 [0.74, 1.74]	33.0% / 27.3%
DV・面前暴力	1.01 [0.45, 1.64]	15.5% / 16.4%
養育上の不調	1.74 [1.34, 2.12]	84.5% / 49.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 仕事・人間関係・経済問題などによる生活上のストレスが高い

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：精神的健康・心理所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole016(072)】

母親に、アルコールや薬物等への物質依存がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、アルコールや薬物等への物質依存がある(診断の有無を問わない)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.01**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.81—1.10

$$RR = \frac{12/12(100\%)}{118/128(92.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 98%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 89%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 140$ (項目該当率 8.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 12$ 項目非該当事例数 $n_2 = 128$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.31 [0.18, 2.77]	8.3% / 10.9%
重度ネグレクト	3.09 [0.82, 5.60]	25.0% / 9.4%
性的虐待	1.82 [0.04, 4.88]	0.0% / 3.9%
その他深刻な虐待	1.14 [0.17, 2.36]	8.3% / 12.5%
身体的虐待	1.46 [0.64, 2.20]	41.7% / 29.7%
ネグレクト	1.42 [0.76, 1.92]	58.3% / 40.6%
心理的虐待***	1.48 [0.57, 2.33]	33.3% / 24.2%
DV・面前暴力	2.23 [0.93, 3.41]	41.7% / 19.5%
養育上の不調	1.14 [0.84, 1.31]	91.7% / 75.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- アルコールや薬物等の物質依存がある、あった。

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、健康・保健的観点のみならず、社会的リスクの観点からも明らかに「**母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある**」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。
- Preconception Careでは子どもの健康に影響を与える主要因の一つとされ、Sexual and Reproductive Health and Rightsにおいて、**薬物の使用は「特に区別した支援が必要」な対象**とされている。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：嗜好・習慣・自己管理

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【項目ID: Whole017(073)】

母親に、子どもに配慮のない飲酒や喫煙がある

【調査提示文言】対象児童の母親に、子どもに配慮のない飲酒や喫煙がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.19**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.08—1.27

$$RR = \frac{33/33(100\%)}{112/136(82.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	98%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 169$ (項目該当率 19.5%)
項目該当事例数 $n_1 = 33$ 項目非該当事例数 $n_2 = 136$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.14 [0.69, 3.80]	15.2% / 8.1%
重度ネグレクト	2.69 [1.15, 4.30]	24.2% / 9.6%
性的虐待	4.07 [0.30, 9.86]	3.0% / 1.5%
その他深刻な虐待	1.04 [0.25, 1.88]	9.1% / 11.0%
身体的虐待	1.30 [0.76, 1.77]	39.4% / 30.9%
ネグレクト	1.82 [1.20, 2.35]	57.6% / 31.6%
心理的虐待***	1.11 [0.58, 1.60]	30.3% / 28.7%
DV・面前暴力	2.12 [1.14, 3.07]	36.4% / 17.6%
養育上の不調	1.48 [1.27, 1.65]	97.0% / 64.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 訪問時にアルコール臭がある。
- ・ (妊娠中を含む)子どもに配慮のない喫煙がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、健康・保健的観点のみならず、社会的リスクの観点からも明らかに「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。
- ・ Preconception Careにおいて、喫煙は母体や子どもの健康に悪影響を及ぼす主要因の一つとされている。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：嗜好・習慣・自己管理

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole018(074)】

母親にギャンブルや買い物などへの行為依存、
金銭管理の著しい困難がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、ギャンブルや買い物などへの行為依存、金銭管理の著しい困難がある(診断の有無を問わない)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.13**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.01—1.22

$$RR = \frac{35/36(97.2\%)}{103/122(84.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	93%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 158$ (項目該当率 22.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 36$ 項目非該当事例数 $n_2 = 122$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.98 [0.93, 3.01]	27.8% / 14.8%
重度ネグレクト	8.12 [3.38, 14.05]	38.9% / 4.9%
性的虐待	83.80 [0.68, 85.95]	2.8% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.44 [0.35, 2.72]	8.3% / 7.4%
身体的虐待	1.43 [0.94, 1.86]	50.0% / 35.2%
ネグレクト	2.35 [1.57, 3.06]	63.9% / 27.0%
心理的虐待***	1.03 [0.55, 1.46]	30.6% / 31.1%
DV・面前暴力	2.82 [1.47, 4.11]	36.1% / 13.1%
養育上の不調	1.33 [1.12, 1.48]	91.7% / 68.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ギャンブル、買い物などの行為依存がある、あった
- 金銭管理・コントロールができない、浪費癖がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、健康・保健的観点のみならず、社会的リスクの観点からも明らかに「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：嗜好・習慣・自己管理

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole019(075)】

母親の容姿・整容に気になる点がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親について、容姿・整容に気になる点がある(不衛生、刺青やボディピアスなど)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.10**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.97—1.19

$$RR = \frac{37/39(94.9\%)}{112/132(84.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	96%
児童相談所(児童虐待相談)	97%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 171$ (項目該当率 22.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 39$ 項目非該当事例数 $n_2 = 132$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.34 [0.53, 2.20]	15.4% / 12.9%
重度ネグレクト	3.01 [1.41, 4.69]	30.8% / 10.6%
性的虐待	78.14 [2.25, 162.28]	7.7% / 0.0%
その他深刻な虐待	2.92 [1.15, 4.95]	20.5% / 7.6%
身体的虐待	1.22 [0.75, 1.62]	41.0% / 34.1%
ネグレクト	1.58 [1.05, 2.04]	53.8% / 34.1%
心理的虐待***	0.97 [0.51, 1.40]	28.2% / 30.3%
DV・面前暴力	1.92 [0.99, 2.81]	30.8% / 16.7%
養育上の不調	1.24 [1.06, 1.38]	89.7% / 71.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 衣服等が不衛生
- ・ 刺青、ボディピアス、派手な化粧、露出が多いなど整容に気になる点がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、当該項目は、保護者の容姿や整容に関する印象と、養育上の事柄とを直接的に関連づけようとするものではない。衣服等が不衛生な場合は、その背景にある生活状況を推測する手がかりとなり、刺青はC型肝炎の感染リスク等を懸念する手がかりとなるなど、背景にある健康・生活に関する状況をアセスメントする際の契機として捉えられたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：態度・印象・援助要請

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole020(076)】

母親に衝動性や攻撃性、
感情コントロールの難しさが見受けられる

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、衝動性や攻撃性、感情コントロールの難しさが見受けられる

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.25**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.11—1.37

$$RR = \frac{76/77(98.7\%)}{54/68(79.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 145$ (項目該当率 53.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 77$ 項目非該当事例数 $n_2 = 68$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.10 [0.42, 1.91]	11.7% / 11.8%
重度ネグレクト	0.76 [0.25, 1.36]	7.8% / 11.8%
性的虐待	1.30 [0.16, 3.08]	2.6% / 2.9%
その他深刻な虐待	2.38 [0.80, 4.39]	13.0% / 5.9%
身体的虐待	2.31 [1.35, 3.35]	46.8% / 20.6%
ネグレクト	1.06 [0.67, 1.42]	35.1% / 33.8%
心理的虐待***	3.11 [1.73, 4.58]	49.4% / 16.2%
DV・面前暴力	1.55 [0.69, 2.50]	19.5% / 13.2%
養育上の不調	1.39 [1.15, 1.61]	89.6% / 64.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 感情の起伏が激しい、些細なことで怒る、イライラする様子がある
- 怒りへの対処ができない、難しい
- 感情的になる、衝動的な言動がある、攻撃的な態度をとる

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と推測される。ただし、当該状況への該当によって直ちに養育上の不調等の発生が決定づけられることはない。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：態度・印象・援助要請

構成案
妊娠前採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole021 (078)】

母親に精神的・社会的な未成熟を思わせる態度や言動がある
養育に関する責任感が希薄、物事を被害的に受け取る

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、精神的・社会的な未成熟を思わせる態度や言動がある(発言が自己中心的、妙に馴れ馴れしい、話を面倒そうに聞く等)、または、養育に関する責任感が希薄・責任を転嫁する、物事を被害的に受け取る

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.40**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.11—1.37

$$RR = \frac{93/97(95.9\%)}{34/49(69.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 146$ (項目該当率 66.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 97$ 項目非該当事例数 $n_2 = 49$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.02 [0.41, 1.73]	13.4% / 14.3%
重度ネグレクト	4.18 [1.40, 7.95]	24.7% / 6.1%
性的虐待	0.77 [0.09, 1.79]	2.1% / 4.1%
その他深刻な虐待	3.38 [0.80, 7.27]	12.4% / 4.1%
身体的虐待	1.37 [0.82, 1.94]	38.1% / 28.6%
ネグレクト	5.08 [2.28, 8.57]	50.5% / 10.2%
心理的虐待***	1.84 [1.03, 2.72]	40.2% / 22.4%
DV・面前暴力	2.07 [1.01, 3.33]	28.9% / 14.3%
養育上の不調	1.90 [1.41, 2.38]	87.6% / 46.9%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 社会性の欠如・社会的未熟、発言や言動が過度に自己中心的
- ・ 敬語を使わない、妙に馴れ馴れしいなど、コミュニケーションに気になる点がある
- ・ 面倒そうに話を聞く、関心を持たない、拒否的・回避的・交戦的
- ・ 被害的な振る舞いを見せる、問題を認識できていない、「私をみてほしい」アピールが強い
- ・ 養育上の課題や難しさを自分ごととして受け止めようとしない、子どもの事故などを他者に責任転嫁する様子がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と推測される。ただし、当該状況への該当によって直ちに養育上の不調等の発生が決定づけられることはない。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：態度・印象・援助要請

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole022(079)】

母親に、養育上の課題や負担を一人で抱え込む様子がある、
必要な相談・援助要請ができていない様子がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、養育上の課題や心身・生活上の負担を一人で抱え込んで解決できていない
(解決手段がない・不足している)様子や、相談・援助要請ができていない様子がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.12**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.00—1.21

$$RR = \frac{64/67(95.5\%)}{70/82(85.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	98%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	97%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 149$ (項目該当率 45.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 67$ 項目非該当事例数 $n_2 = 82$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.10 [0.47, 1.78]	14.9% / 14.6%
重度ネグレクト	3.44 [1.51, 5.61]	28.4% / 8.5%
性的虐待	3.40 [0.33, 8.54]	3.0% / 1.2%
その他深刻な虐待	1.71 [0.64, 2.92]	13.4% / 8.5%
身体的虐待	1.08 [0.69, 1.42]	37.3% / 35.4%
ネグレクト	1.81 [1.15, 2.43]	47.8% / 26.8%
心理的虐待***	1.15 [0.66, 1.62]	28.4% / 25.6%
DV・面前暴力	1.68 [0.86, 2.53]	23.9% / 14.6%
養育上の不調	1.20 [0.96, 1.40]	76.1% / 63.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 自分が悪い、自分さえ我慢すればなど、自責的な態度をみせる、一人で抱え込む
- ・ 相談することが苦手、不安や課題を口にしない、語ろうとしない
- ・ 客観的にサポートが必要であるにもかかわらず、自ら支援を求めることができない
- ・ ストレス解消法がない、負担の解決手段を持っていない
- ・ 客観的にみて養育・精神衛生・健康上の負担が発生しているにも関わらず、援助要請がない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と推測される。ただし、当該状況への該当によって直ちに養育上の不調等の発生が決定づけられることはない。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：知的側面・問題解決

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole023(080)】

母親に知的水準の低さ、対人関係/コミュニケーション上の課題に由来した問題解決の困難がある/懸念される

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、知的水準の低さ、対人関係/コミュニケーション上の課題に由来した問題解決の困難がある/懸念される

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.39**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.20—1.56

$$RR = \frac{95/99(96\%)}{50/72(69.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	97%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 171$ (項目該当率 57.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 99$ 項目非該当事例数 $n_2 = 72$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.20 [0.55, 1.92]	14.1% / 12.5%
重度ネグレクト	54.05 [2.19, 92.18]	11.1% / 0.0%
性的虐待	8.47 [0.02, 9.00]	0.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	3.66 [0.82, 7.78]	9.1% / 2.8%
身体的虐待	1.27 [0.81, 1.72]	34.3% / 27.8%
ネグレクト	1.71 [1.10, 2.31]	44.4% / 26.4%
心理的虐待***	1.40 [0.79, 2.03]	28.3% / 20.8%
DV・面前暴力	1.45 [0.67, 2.30]	17.2% / 12.5%
養育上の不調	1.52 [1.23, 1.78]	83.8% / 55.6%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 知的障害の診断がある
- 知的水準が低い、またはその印象がある(話がかみあわない、簡単な返事しかしない、常用漢字がかけない、話の要領を得ない、計算や読解が苦手、些細なことを繰り返して質問するなど)
- 発達障害がある(疑われる)
- 突発的事態への対処困難、意図や背景が不明な不可解な言動がある、話のやり取りができない、意思疎通の難しさ、受け答えがちぐはぐ、オープンクエスチョンに答えられない
- 突発的な状態に対処できない、パニックを起こす、頼りない印象を受けた

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と推測される。ただし、当該状況への該当によって直ちに養育上の不調等の発生が決定づけられることはない。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：パートナー関係

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole024(081)】

母親が父・パートナーとの間に対立や葛藤を抱えている、
または、ほとんど会話がない・距離のある関係

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が、父・パートナーとの間に不和・対立・葛藤を抱えている、または、
ほとんど会話がない・距離のある関係

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.19**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.07—1.30

$$RR = \frac{69/71(97.2\%)}{66/81(81.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	98%
市区町村(児童虐待相談)	91%
児童相談所(児童虐待相談)	94%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 152$ (項目該当率 46.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 71$ 項目非該当事例数 $n_2 = 81$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.26 [0.46, 2.22]	11.3% / 9.9%
重度ネグレクト	1.55 [0.60, 2.64]	14.1% / 9.9%
性的虐待	0.56 [0.01, 1.52]	0.0% / 2.5%
その他深刻な虐待	2.22 [0.62, 4.19]	9.9% / 4.9%
身体的虐待	1.16 [0.74, 1.55]	38.0% / 33.3%
ネグレクト	1.41 [0.89, 1.88]	39.4% / 28.4%
心理的虐待***	1.60 [0.95, 2.26]	36.6% / 23.5%
DV・面前暴力	2.92 [1.45, 4.54]	35.2% / 12.3%
養育上の不調	1.34 [1.10, 1.54]	85.9% / 64.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 夫婦不和・対立などの葛藤がある
- パートナーや親族との間で育児方針が合わない、葛藤がある
- 普段から会話が少ない、距離のある関係

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と推測される。ただし、当該状況への該当によって直ちに養育上の不調等の発生が決定づけられることはない。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：パートナー関係

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole025(082)】

母親が父・パートナーに対して育児上の相談をできない、
相談しても理解が得られない、協力がなことを訴える

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が、父・パートナーに対して育児上の悩みや相談をできない、相談しても理解が得られない、
育児等への協力がなことを訴える

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.22**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.05—1.36

$$RR = \frac{52/56(92.9\%)}{65/86(75.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	96%
市区町村(児童虐待相談)	97%
児童相談所(児童虐待相談)	97%
総合的な組織*	91%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 142$ (項目該当率 39.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 56$ 項目非該当事例数 $n_2 = 86$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.02 [1.28, 5.01]	26.8% / 9.3%
重度ネグレクト	3.00 [1.11, 5.27]	19.6% / 7.0%
性的虐待	2.87 [0.17, 7.52]	1.8% / 1.2%
その他深刻な虐待	1.30 [0.44, 2.31]	9.9% / 4.9%
身体的虐待	1.82 [1.16, 2.43]	48.2% / 26.7%
ネグレクト	0.80 [0.45, 1.11]	28.6% / 37.2%
心理的虐待***	1.26 [0.65, 1.88]	25.0% / 20.9%
DV・面前暴力	2.08 [1.09, 3.07]	30.4% / 15.1%
養育上の不調	1.12 [0.88, 1.32]	71.4% / 64.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 父・パートナーに育児についての相談ができない、理解が得られない
- 父・パートナーに生活上の相談や悩みを打ち明けられない
- 父・パートナーから育児上の協力が得られない、不足があることを訴える

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に養育上のケアニーズがある、発生しうる」と推測される。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：パートナー関係

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【項目ID: Whole026(083)】

母親がパートナーとの関係で安全の感覚を得られていない

【調査提示文言】対象児童の母親が、パートナーとの関係で安心や安全の感覚を得られていない(相手への依存や見捨てられることへの不安、身体的・心理的暴力、性的行為の強要、経済的な圧迫、家事や就労の強要、監視や行動制限等が発生してる/危惧されるまたはこれらによる相手への恐怖や萎縮などが生じている)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.23**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.09—1.35

$$RR = \frac{54/55(98.2\%)}{65/82(79.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	79%
総合的な組織*	92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 137$ (項目該当率 40.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 55$ 項目非該当事例数 $n_2 = 82$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.26 [0.41, 2.25]	10.9% / 9.8%
重度ネグレクト	1.28 [0.46, 2.18]	12.7% / 11.0%
性的虐待	1.45 [0.10, 3.36]	1.8% / 2.4%
その他深刻な虐待	1.46 [0.37, 2.91]	10.7% / 9.3%
身体的虐待	1.15 [0.72, 1.55]	40.0% / 35.4%
ネグレクト	1.27 [0.82, 1.66]	47.3% / 37.8%
心理的虐待***	1.15 [0.72, 1.55]	38.2% / 34.1%
DV・面前暴力	2.91 [1.54, 4.35]	38.2% / 13.4%
養育上の不調	1.25 [1.04, 1.42]	85.5% / 68.3%

** 項目該当 あり/なし 別でのアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 「あなたはパートナーとの関係性の中で安心が得られていますか？」 → 「いいえ」
- ・ パートナーや家族の話題で怯える、表情を変える
- ・ 子育てで父・パートナーを煩わせていることを悪いと思っている、罪悪感を感じている
- ・ 揉め事が起こった時、話し合いで解決するのが難しい、パワーバランスが悪い
- ・ 父・パートナーとの性生活・避妊等に関する悩みがある
- ・ 依存的、共依存の関係にある

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- パートナーのすることやいうことを怖いと感じることがある
- パートナーは、気に入らないことがあると大きな声で怒鳴ったりする
- パートナーは怒って壁を叩いたり、物を投げたりすることがある
- 気が進まないのに、パートナーから性的な行為を強いられることがある
- パートナーは、あなたを叩く、強く押す、腕を引っ張る等、強引に振る舞うことがある
- パートナーが、殴る、蹴る等の暴力を振るうことがある
- パートナーから叩かれた、蹴られた、大声で怒鳴られた、妊娠中に身近でタバコを吸った、生活費を渡してくれなかった、避妊に協力してくれなかった
- パートナーの顔色や機嫌をうかがって生活している
- パートナーから携帯やメールなどをチェックされている
- パートナーから育児ができていないと非難される
- パートナーから生活費を渡されていない
- パートナーが生活保護費や児童扶養手当を使い込んでいる様子がある
- パートナーのことをけなすなど、否定的な態度を見せる
- パートナーに威嚇する行動がある
- パートナーが、母親を貶め、ダメな人間だと思わせる態度や言動をとる
- パートナーが、母親を友人や親戚に合わせないようにして孤立させる
- パートナーが、母親の社会的活動を制限させる
- パートナーが、母親の体調が悪くても働かせようとする

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。
- Preconception Careにおいて、親密な他者からの暴力(身体的なものだけではない)は、子どもや母親の健康に悪影響を与える主たる要因の一つとされている。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：子どもへの理解・受容

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole027(084)】

母親の子どもの発達や疾病・障害に対する理解や態度が乏しい、
変化が見込まれない、受容に至るプロセスをたどる様子がない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】母親が、対象児童の発達や疾病・障害に対する理解や態度が乏しい、変化が見込まれない、
受容できない(受容に至るプロセスをたどる様子がない)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.12**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.02—1.20

$$RR = \frac{51/52(98.1\%)}{97/112(86.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	96%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 164$ (項目該当率 31.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 52$ 項目非該当事例数 $n_2 = 112$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.10 [0.89, 3.41]	19.2% / 9.8%
重度ネグレクト	1.85 [0.65, 3.20]	13.5% / 8.0%
性的虐待	2.12 [0.30, 5.01]	3.8% / 2.7%
その他深刻な虐待	1.80 [0.63, 3.14]	11.5% / 7.1%
身体的虐待	1.30 [0.83, 1.71]	42.3% / 33.0%
ネグレクト	1.24 [0.82, 1.60]	48.1% / 39.3%
心理的虐待***	1.66 [1.05, 2.23]	42.3% / 25.9%
DV・面前暴力	1.24 [0.63, 1.83]	23.1% / 19.6%
養育上の不調	1.41 [1.21, 1.58]	94.2% / 66.1%

** 項目該当 あり/なし 別でのアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもの疾病や障害に対する理解や態度に変化が見込まれない、受容できない、
受容までのプロセスをたどる様子がない
- 子どもへの理解が乏しい（子どもに生じている問題に気がつかない）

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と推測される。こどもの疾病や障害に関するニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：子どもに対する感情

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole028(085)】

母親が子どもに向ける感情や評価が否定的

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】母親が、対象児童に向ける感情や評価が否定的(こんな子がいなかったら、こんな子でなかったら、性格が嫌い、可愛いと思えない、気が合わないと語るなど)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.06**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.94—1.13

$$RR = \frac{42/44(95.5\%)}{115/129(89.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 173$ (項目該当率 31.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 52$ 項目非該当事例数 $n_2 = 112$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.37 [1.44, 5.48]	25.0% / 7.8%
重度ネグレクト	1.22 [0.40, 2.10]	11.4% / 10.9%
性的虐待	2.79 [0.03, 7.13]	0.0% / 0.8%
その他深刻な虐待	2.42 [0.72, 4.50]	11.4% / 5.4%
身体的虐待	2.18 [1.49, 2.79]	59.1% / 27.1%
ネグレクト	0.94 [0.57, 1.27]	36.4% / 39.5%
心理的虐待***	2.01 [1.28, 2.70]	47.7% / 24.0%
DV・面前暴力	1.83 [0.76, 2.91]	18.2% / 10.9%
養育上の不調	1.21 [1.02, 1.35]	88.6% / 72.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ この子がいなかったら、こんな子でなかったらと語る
- ・ 子どもの性格が嫌い、気が合わないなどと語る
- ・ 子どもが可愛いと思えない
- ・ 子どもに対する感情や評価が否定的
- ・ 「子どもが苦手」「上の子が可愛くない」などの否定的発言がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」ことが推測される。ただし、項目に該当したからといって直ちに養育上の不調等の発生が決定づけられる訳ではない。表現の背景にある事情等を総合的に考慮し、必要なケアにつなげる必要があるものと解釈される。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評定領域

母親：養育技術・知識・意欲

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole029(086)】

母親が育児に必要な知識を持っていない、知ろうとしない

推奨評定方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が、育児に必要な知識を持っていない、知ろうとしない(意欲や主体性の乏しさ)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.22**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.09—1.32

$$RR = \frac{52/53(98.1\%)}{83/104(79.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	93%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 157$ (項目該当率 33.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 53$ 項目非該当事例数 $n_2 = 104$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.52 [0.56, 2.56]	13.2% / 9.6%
重度ネグレクト	2.85 [0.94, 5.08]	15.1% / 5.8%
性的虐待	1.84 [0.03, 5.07]	0.0% / 1.0%
その他深刻な虐待	0.82 [0.14, 1.74]	3.8% / 6.7%
身体的虐待	0.89 [0.50, 1.25]	26.4% / 30.8%
ネグレクト	2.62 [1.75, 3.46]	60.4% / 23.1%
心理的虐待***	0.86 [0.46, 1.22]	24.5% / 29.8%
DV・面前暴力	0.85 [0.34, 1.38]	13.2% / 17.3%
養育上の不調	1.42 [1.14, 1.67]	81.1% / 56.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 育児に必要な知識を持っていない、知ろうとしない、
- ・ 基本的な育児上のケアができないなど技術の不足がうかがわれる
- ・ 子育てに関する情報が多くて混乱している、何を信じれば良いかわからないなどと話す
- ・ 育児に関する主体性に乏しい、受身である

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。ただし、項目に該当したからといって直ちに養育上の不調等の発生が決定づけられる訳ではない。育児に必要な知識の提供等を中心とするケアを含め、予防的視座からの関与が必要であるものと解釈される。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：育児負担・ストレス

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole030(087)】

母親が子どもが生後2週間から5ヶ月ごろの間に、子どもが泣き止まないことに対する心身の負担を抱えていた

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が、子どもが生後2週間から5ヶ月ごろの間に、子どもが泣き止まないことに対する心身の負担を抱えていた

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.09**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.97—1.17

$$RR = \frac{32/33(97\%)}{106/122(86.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 94%

市区町村(児童虐待相談) 88%

児童相談所(児童虐待相談) 86%

総合的な組織* 94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 155$ (項目該当率 21.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 33$ 項目非該当事例数 $n_2 = 122$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.92 [1.57, 6.55]	27.3% / 7.4%
重度ネグレクト	0.75 [0.15, 1.46]	6.1% / 11.5%
性的虐待	1.18 [0.02, 3.27]	0.0% / 2.5%
その他深刻な虐待	2.48 [0.87, 4.22]	18.2% / 8.2%
身体的虐待	1.65 [0.94, 2.27]	42.4% / 26.2%
ネグレクト	0.54 [0.22, 0.84]	18.2% / 37.7%
心理的虐待***	1.65 [0.95, 2.26]	42.4% / 26.2%
DV・面前暴力	1.30 [0.52, 2.08]	18.2% / 15.6%
養育上の不調	1.21 [1.00, 1.37]	87.9% / 71.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 生後2週間から5ヶ月ごろ、子どもに理由のわからない、あやしても泣き止まない持続的な泣きがあった
- 母親が子どもが生後2週間から5ヶ月ごろの間に、子どもが泣き止まないことに対する心身の負担を抱えていた

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、乳幼児の持続的な泣き(Purple Crying)があること自体が、直ちに養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、客観的視座から養育上の心身の負担があることは容易に想像されるものであることから、当該負担に対するケアニーズがあると解釈される。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域 母親：育児負担・ストレス

構成案 妊娠期採用 ☐ 構成案 乳幼児期採用 ☒ 機械学習 予測貢献項目 ☐

【項目ID: Whole031 (088)】
母親が育児上の悩みやストレスを抱えている

推奨評価方法
☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が、育児上の悩みやストレスを抱えている

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.16**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.03—1.30

RR = $\frac{108/117(92.3\%)}{41/51(80.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 168$ (項目該当率 69.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 117$ 項目非該当事例数 $n_2 = 51$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム該当率**
重篤な身体的虐待	1.90 [0.56, 3.69]	10.3% / 5.9%
重度ネグレクト	1.10 [0.44, 1.46]	12.0% / 11.8%
性的虐待	0.22 [0.00, 0.60]	0.0% / 3.9%
その他深刻な虐待	1.76 [0.50, 3.57]	9.4% / 5.9%
身体的虐待	2.52 [1.29, 3.96]	38.5% / 15.7%
ネグレクト	0.86 [0.56, 1.15]	34.2% / 41.2%
心理的虐待***	2.08 [1.06, 3.23]	31.6% / 15.7%
DV・面前暴力	1.22 [0.59, 1.94]	20.5% / 17.6%
養育上の不調	1.31 [1.04, 1.56]	78.6% / 60.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもと二人でいる時間が長く閉塞感がある、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がない
- 子どもが思い通りに言うことを聞かない、子どもの育てにくさを感じている
- 子どもを叩きそう等の発言がある、子どもを放り出したいと思うことがある
- 子どもの泣き声を聞くのが辛い、夜泣きがひどい、一度ぐずるとなだめにくい、授乳がうまくいかない、気に入らないことがあるとむずかておこる、寝つきが悪い、ちょっとしたことで激しく泣く、睡眠時間がまちまち、激しく動き回るなどによる負担がある
- 子育てによって自分の時間を取ることができず辛い
- 子どもとのかかわり、関係について悩みがある(どう接すれば良いかわからない、この先どう育てれば良いかわからない、感情的に接してしまう、育児について何かにつけ後悔する、子どもの悪い面を自分のせいだと思う、育児を楽しめなくしている
- 父・パートナーが子どもをかまわない(子どもと接する時間が取れない)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、育児上の悩みやストレスがあること自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、客観的視座から、心身の負担があることは明確であり、当該負担に対するケアニーズを有していることは明らかである。負担の背景にあるニーズを捉え、的確なケアにつなげることが必要であると解釈される。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：養育行為・態度

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole032(089)】

母親が養育よりも自己の都合(夜遊びなど)が過度に優先する、生活上の関心が子どもにない、子どもの要求を無視する

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親について、養育よりも自己の都合(夜遊びなど)が過度に優先される、養育者の生活上の関心が子どもではなく自分にある、子どもの要求を無視する

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.11**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.98—1.22

$$RR = \frac{41/43(95.3\%)}{77/91(84.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	94%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 134$ (項目該当率 32.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 43$ 項目非該当事例数 $n_2 = 91$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.03 [0.53, 3.87]	9.3% / 5.5%
重度ネグレクト	6.02 [1.68, 11.97]	18.6% / 3.3%
性的虐待	3.91 [0.25, 10.00]	2.3% / 1.1%
その他深刻な虐待	3.10 [0.36, 7.21]	4.7% / 2.2%
身体的虐待	1.10 [0.59, 1.56]	30.2% / 28.6%
ネグレクト	2.56 [1.56, 3.54]	55.8% / 22.0%
心理的虐待***	0.97 [0.43, 1.52]	18.6% / 20.9%
DV・面前暴力	1.02 [0.38, 1.73]	14.0% / 15.4%
養育上の不調	1.36 [1.11, 1.57]	86.0% / 62.6%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 養育よりも自己の都合(夜遊びなど)が過度に優先される
- ・ 養育者の生活上の関心が、子どもではなく自分中心にある
- ・ 子どもの要求を無視する

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、客観的視座から明らかに「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：養育行為・態度

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole033(090)】

母親の、子どもへの生活上のケアや配慮、関わりが少ない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親について、子どもへの生活上のケアや配慮、関わりが少ない(授乳しない、抱かない、子どもと視線を合わせない、話しかける様子がない、生活習慣や歯科衛生等に関する世話に不足がある等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.36**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.19—1.54

$$RR = \frac{87/87(100\%)}{45/61(73.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 148$ (項目該当率 58.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 87$ 項目非該当事例数 $n_2 = 61$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.28 [0.47, 2.27]	11.5% / 9.8%
重度ネグレクト	3.38 [1.39, 5.90]	26.4% / 8.2%
性的虐待	2.12 [0.20, 4.94]	2.3% / 1.6%
その他深刻な虐待	2.07 [0.68, 3.85]	12.6% / 6.6%
身体的虐待	0.98 [0.56, 1.39]	26.4% / 27.9%
ネグレクト	2.27 [1.43, 3.14]	58.6% / 26.2%
心理的虐待***	1.39 [0.79, 2.00]	31.0% / 23.0%
DV・面前暴力	1.45 [0.74, 2.17]	25.3% / 18.0%
養育上の不調	1.69 [1.34, 2.02]	90.8% / 54.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもの食事や生活習慣、歯科衛生等に関する基本的な世話がなされていない/不足がある
- 子どもの発育に有害性が懸念されることを避けようとししない
- 授乳しない、抱かない、視線を合わせないなど、子どもとの関わりが少ない、親子の会話が少ない
- 子どもとの外出がほとんどない
- 子どもに話しかける様子がない、子どもと遊ぶことがない、少ない
- 子どもが好きな遊び、遊ばせ方を答えられない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から明らかに「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：養育行為・態度

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole034(091)】

母親に子どもへのしつけが厳しい、扱いが乱暴
発達に不相応な要求・期待や身の自立を求める様子がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親について、子どもへのしつけが厳しい、扱いが乱暴(子どもを厳しく叱りつける、日常的に怒鳴る、子どもを乱暴に扱う「叩くぞ」などと暴力をほのめかす等)、あるいは発達に不相応な要求・期待や身の自立を求める様子がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.31**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.14—1.45

$$RR = \frac{56/58(96.6\%)}{64/87(73.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 99%

市区町村(児童虐待相談) 98%

児童相談所(児童虐待相談) 97%

総合的な組織* 92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 145$ (項目該当率 40.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 58$ 項目非該当事例数 $n_2 = 87$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.07 [0.61, 3.97]	10.3% / 5.7%
重度ネグレクト	5.86 [1.68, 11.44]	0.0% / 1.1%
性的虐待	1.44 [0.03, 3.84]	0.0% / 1.1%
その他深刻な虐待	3.34 [0.83, 6.59]	10.3% / 3.4%
身体的虐待	2.77 [1.67, 3.93]	53.4% / 19.5%
ネグレクト	2.39 [1.49, 3.29]	51.7% / 21.8%
心理的虐待***	3.08 [1.45, 4.91]	31.0% / 10.3%
DV・面前暴力	1.38 [0.65, 2.15]	20.7% / 16.1%
養育上の不調	1.69 [1.36, 2.00]	87.9% / 51.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもを絶え間なく叱る、怒鳴ることが日常化している
- 子どもの送迎時に厳しく叱ることがある、しつけが厳しい
- きょうだいに対する声かけが厳しいなど、気になる様子があった
- 子どものあつかいが乱暴、暴力行為のほのめかし(「たたくぞ」などの脅し)がある
- 子どもを馬鹿にする、罵る
- 子どもに対して発達に相応しない要求をしている、年齢不相応な身の自立を求めている
- しつけに厳格さ、過剰さを感じる

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から明らかに「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を決定づけるあるいは予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：養育行為・態度

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole035(092)】

母親が子どもとの関わりを嫌がる様子がある
(泣くと困る、泣いてもあやそうとしない等)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が、子どもとの関わりを嫌がる様子がある(泣くと困る、泣いてもあやそうとしない等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.08**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.98—1.16

$$RR = \frac{34/34(100\%)}{87/96(90.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	89%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 130$ (項目該当率 26.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 34$ 項目非該当事例数 $n_2 = 96$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.58 [0.56, 2.73]	17.6% / 12.5%
重度ネグレクト	1.58 [0.72, 2.46]	26.5% / 17.7%
性的虐待	0.90 [0.02, 2.39]	0.0% / 3.1%
その他深刻な虐待	2.69 [0.94, 4.73]	20.6% / 8.3%
身体的虐待	1.70 [1.05, 2.26]	52.9% / 31.2%
ネグレクト	1.38 [0.92, 1.76]	58.8% / 42.7%
心理的虐待***	2.08 [1.19, 2.92]	47.1% / 22.9%
DV・面前暴力	1.53 [0.80, 2.19]	35.3% / 24.0%
養育上の不調	1.29 [1.09, 1.44]	94.1% / 71.9%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもとの関わりを嫌がる様子がある(泣くと困る、泣いてもあやそうとしない等)
- 子どもに嫌悪的な眼差しや、迷惑そうな態度を示す

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：養育行為・態度

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole036(093)】

母親の子どもへの関わり方に一貫性がない、
または、子どもに対する声かけや関わり方が不自然

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親の、子ども関わり方に一貫性がない(気分等によって可愛がったり突き放したりする)、
または、子どもに対する声かけや関わり方が不自然

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.25**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.10—1.37

$$RR = \frac{64/66(97\%)}{69/89(77.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	92%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 155$ (項目該当率 42.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 66$ 項目非該当事例数 $n_2 = 89$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.45 [0.84, 4.46]	15.2% / 6.7%
重度ネグレクト	1.67 [0.63, 2.89]	13.6% / 9.0%
性的虐待	1.33 [0.02, 3.32]	0.0% / 1.1%
その他深刻な虐待	2.99 [0.85, 5.80]	12.1% / 4.5%
身体的虐待	2.64 [1.74, 3.54]	59.1% / 22.5%
ネグレクト	1.87 [1.22, 2.51]	50.0% / 27.0%
心理的虐待***	3.30 [1.56, 4.54]	36.4% / 12.4%
DV・面前暴力	1.09 [0.55, 1.64]	19.7% / 19.1%
養育上の不調	1.68 [1.37, 1.94]	92.4% / 55.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもへの関わり方に一貫性がない
- 子どもに対する声かけや関わり方が不自然

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、子どもへの関わり方に一貫性がない、子どもに対する声かけや関わり方が不自然であること自体が、養育上の不調等の発生を決定づけるものではないことに留意する必要がある。ただし、数値上の結果は、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることを示している。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
 母親：養育行為・態度

構成案
 妊娠期採用

構成案
 乳幼児期採用

機械学習
 予測貢献項目

【項目ID: Whole037(094)】
 母親が育児にやりがいや楽しみを持つことができていない

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が、育児にやりがいや楽しみを持つことができていない

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.21**
 ベイズ推定法による95%確信区間 1.09—1.31

$$RR = \frac{68/69(98.6\%)}{74/91(81.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	98%
総合的な組織*	95%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
 市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 160$ (項目該当率 43.1%)
 項目該当事例数 $n_1 = 69$ 項目非該当事例数 $n_2 = 91$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.41 [0.86, 4.17]	14.5% / 6.6%
重度ネグレクト	2.44 [1.01, 4.13]	20.3% / 8.8%
性的虐待	60.64 [0.53, 57.08]	2.9% / 0.0%
その他深刻な虐待	4.19 [1.15, 8.46]	13.0% / 3.3%
身体的虐待	1.94 [1.23, 2.63]	46.4% / 24.2%
ネグレクト	1.99 [1.35, 2.58]	56.5% / 28.6%
心理的虐待***	2.16 [1.38, 2.94]	49.3% / 23.1%
DV・面前暴力	1.37 [0.75, 1.97]	26.1% / 19.8%
養育上の不調	1.13 [0.93, 1.30]	78.3% / 69.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
 *** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 育児にやりがいや楽しみを持つことができていない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、母親が育児にやりがいや楽しみを持つことができていないこと自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因であったり、不調の発生を決定づけるものではないことに留意する必要がある。ただし、数値上の結果は、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることを示している。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：養育行為・態度

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole038(095)】

子どもの養育に母親がほとんど関わっていない、
子どもを出産しているが自分で育てていない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の養育に母親がほとんど関わっていない、子どもを出産しているが自分で育てていない

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.12**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.96—1.21

$$RR = \frac{18/18(100\%)}{119/139(85.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 97%

市区町村(児童虐待相談) 96%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 157$ (項目該当率 11.5%)
項目該当事例数 $n_1 = 18$ 項目非該当事例数 $n_2 = 139$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.79 [0.73, 5.11]	16.7% / 7.2%
重度ネグレクト	1.95 [0.64, 3.30]	22.2% / 12.9%
性的虐待	7.23 [0.11, 18.25]	0.0% / 0.7%
その他深刻な虐待	0.94 [0.11, 1.99]	5.6% / 10.8%
身体的虐待	1.00 [0.35, 1.62]	22.2% / 25.2%
ネグレクト	1.90 [1.18, 2.47]	66.7% / 34.5%
心理的虐待***	1.54 [0.68, 2.32]	33.3% / 23.0%
DV・面前暴力	1.66 [0.57, 2.77]	22.2% / 15.1%
養育上の不調	1.45 [1.16, 1.64]	94.4% / 62.6%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもを出産しているが、自分で育てていない
- 出産後、祖父母や施設等に預けており、子育てに母親がほとんど関与していない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」ことが推測される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。状況に応じて、背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：養育行為・態度

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole039(096)】

母親に、子育てに関する責任感がない、問題を回避する、他人等のせいにする

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、子育てに関する責任感がない、問題を回避する、他人等のせいにする

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.34**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.18—1.50

$$RR = \frac{70/71(98.6\%)}{55/75(73.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	95%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 146$ (項目該当率 48.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 71$ 項目非該当事例数 $n_2 = 75$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.67 [1.19, 7.04]	18.3% / 5.3%
重度ネグレクト	6.20 [1.95, 12.03]	23.9% / 4.0%
性的虐待	4.28 [0.44, 10.22]	4.2% / 1.3%
その他深刻な虐待	4.10 [1.24, 8.18]	15.5% / 4.0%
身体的虐待	1.20 [0.76, 1.60]	40.8% / 34.7%
ネグレクト	3.05 [1.93, 4.17]	64.8% / 21.3%
心理的虐待***	2.30 [1.33, 3.32]	42.3% / 18.7%
DV・面前暴力	1.61 [0.83, 2.44]	26.8% / 17.3%
養育上の不調	1.69 [1.38, 1.97]	94.4% / 56.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子育てに関する責任感がない、問題を回避する、他人等のせいにする様子がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」ことが推測される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：育児不安・価値観

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole040(097)】

母親の育児不安が強い、子どもを完璧に育てなければというプレッシャーを抱えている、育児に自信が持てない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】母親の育児不安が強い、子どもを完璧に育てなければというプレッシャーを抱えている、育児に自信が持てない、「失敗しているのではないか」と落ち込む、周囲との違いや評価を過剰に気にする様子がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.01**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.84—1.31

$$RR = \frac{30/35(85.7\%)}{72/86(83.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	92%
児童相談所(児童虐待相談)	94%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 121$ (項目該当率 28.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 35$ 項目非該当事例数 $n_2 = 86$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.51 [1.28, 6.20]	22.9% / 7.0%
重度ネグレクト	1.34 [0.33, 2.61]	8.6% / 8.1%
性的虐待	2.48 [0.03, 6.09]	0.0% / 1.2%
その他深刻な虐待	3.11 [0.57, 9.99]	8.6% / 3.5%
身体的虐待	2.13 [1.30, 2.93]	51.4% / 24.4%
ネグレクト	0.54 [0.25, 0.80]	22.9% / 45.3%
心理的虐待***	2.36 [1.20, 3.54]	37.1% / 16.3%
DV・面前暴力	2.19 [1.08, 3.33]	34.3% / 16.3%
養育上の不調	1.14 [0.88, 1.33]	77.1% / 67.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 子育てへの不安が強い、育児に対する不安が強い
- ・ 子どもを完璧に育てなければならないというプレッシャーを持っている
- ・ 育児に自信が持てない・「失敗している」と落ち込む
- ・ 周囲からの評価を過剰に気にする、過敏

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」ことが推測される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：育児不安・価値観

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole041 (098)】

母親の育児に対する不安や悩みが全くない、極端に少ない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親の、育児に対する不安や悩みが全くない、極端に少ない

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.04**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.86—1.16

$$RR = \frac{25/27(92.6\%)}{116/136(85.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 99%

市区町村(児童虐待相談) 98%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 163$ (項目該当率 16.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 27$ 項目非該当事例数 $n_2 = 136$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.87 [0.09, 1.92]	3.7% / 8.1%
重度ネグレクト	3.33 [1.18, 5.86]	22.2% / 7.4%
性的虐待	73.2 [0.77, 115.22]	3.7% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.25 [0.39, 2.19]	14.8% / 14.0%
身体的虐待	0.77 [0.34, 1.14]	25.9% / 36.0%
ネグレクト	2.30 [1.55, 2.95]	66.7% / 28.7%
心理的虐待***	1.09 [0.52, 1.59]	29.6% / 28.7%
DV・面前暴力	2.01 [1.03, 2.93]	37.0% / 19.1%
養育上の不調	1.28 [1.03, 1.46]	88.9% / 67.6%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子育てに関する不安がない、極端に少ない
- 子育てに関する不安や悩みが全くない様子を見せる

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」可能性が懸念される。背景事情やニーズを総合的に把握し、必要性に応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：育児不安・価値観

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole042(099)】

母親が、医療に不信感や否定的な考えを持っている、
子どもに必要な医学的治療や診療を回避する

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が、医療に不信感や否定的な考えを持っている、子どもに必要な医学的治療や診療を回避する

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.04**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.86—1.14

$$RR = \frac{19/20(95\%)}{114/130(87.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 100%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 150$ (項目該当率 13.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 20$ 項目非該当事例数 $n_2 = 130$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.81 [0.10, 1.71]	5.0% / 11.5%
重度ネグレクト	3.79 [1.42, 6.43]	30.0% / 8.5%
性的虐待	2.99 [0.06, 8.35]	0.0% / 1.5%
その他深刻な虐待	0.33 [0.01, 0.85]	0.0% / 13.8%
身体的虐待	1.01 [0.49, 1.47]	35.0% / 36.2%
ネグレクト	2.07 [1.39, 2.63]	75.0% / 35.4%
心理的虐待***	1.14 [0.59, 1.60]	40.0% / 36.2%
DV・面前暴力	1.60 [0.68, 2.47]	30.0% / 20.0%
養育上の不調	1.22 [0.97, 1.38]	90.0% / 71.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 医療に対して不信感を訴える、否定的な考えを示す、
子どもに必要な医学的治療や診療を回避する

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」ことが推測される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。特に、子どもに必要な医学的治療や診療を回避している場合、子どもの健康・発達上の重大な課題を招く可能性がある。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：育児不安・価値観

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole04-3(100)】

母親に、育児や出産に対する極端なこだわりや固執がある、
育児方法が極端な自己流

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、育児や出産に対する極端なこだわりや固執がある、育児知識や姿勢、生活習慣や食事に極端な偏りやこだわりがある、育児方法が極端な自己流、特異的と感じられる育児観や、強迫観念に基づく子育てがある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.16**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.02—1.25

$$RR = \frac{24/24(100\%)}{112/134(83.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 158$ (項目該当率 15.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 24$ 項目非該当事例数 $n_2 = 134$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.71 [0.52, 3.00]	16.7% / 11.2%
重度ネグレクト	1.72 [0.44, 3.19]	12.5% / 9.0%
性的虐待	31.20 [0.12, 58.11]	0.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	2.63 [0.89, 4.56]	20.8% / 9.0%
身体的虐待	1.42 [0.76, 1.98]	41.7% / 29.9%
ネグレクト	1.17 [0.62, 1.66]	37.5% / 32.8%
心理的虐待***	2.60 [1.48, 3.59]	54.2% / 20.9%
DV・面前暴力	1.04 [0.28, 1.84]	12.5% / 14.9%
養育上の不調	1.53 [1.26, 1.73]	95.8% / 60.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 出産や育児へのこだわりが強い、固執する
- ・ 育児知識や姿勢、生活習慣や食事に極端な偏りがある、特異的と感じられる育児観や強迫観念に基づく子育てがある
- ・ 乳幼児との関わり方が極端な自己流

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、育児や出産に対する極端なこだわりや固執がある、育児方法が極端な自己流であること自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、数値上の結果は、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることを示している。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：育児不安・価値観

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole044(101)】

母親に、体罰容認などの暴力を是認・黙認する価値観や、
家庭内の男女等の役割に関する固定観念がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、体罰容認などの暴力を是認・黙認する価値観や、家庭内の男女等の役割に関する固定観念がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.09**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.95—1.20

$$RR = \frac{31/33(93.9\%)}{87/103(84.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	94%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	83%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 136$ (項目該当率 24.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 33$ 項目非該当事例数 $n_2 = 103$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	4.61 [1.16, 9.20]	15.2% / 3.9%
重度ネグレクト	1.67 [0.47, 3.07]	12.1% / 8.7%
性的虐待	25.69 [0.08, 38.82]	0.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	3.61 [0.99, 6.78]	15.2% / 4.9%
身体的虐待	2.97 [1.77, 4.11]	60.6% / 20.4%
ネグレクト	0.91 [0.50, 1.26]	33.3% / 37.9%
心理的虐待***	1.69 [1.04, 2.25]	48.5% / 29.1%
DV・面前暴力	1.75 [0.81, 2.68]	27.3% / 16.5%
養育上の不調	1.23 [0.99, 1.41]	84.8% / 68.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 体罰容認など、暴力を是認・黙認する価値観がある
- 家庭内の男女の役割に関するステレオタイプ(固定観念)がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況、特に暴力を是認・黙認する価値観が認められる場合、**客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」**と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：対人関係・社会関係

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole045(102)】

母親に社会関係上の孤立がある、または、懸念される
(友人等との交友がない、周囲との関わりを避けているなど)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親に、社会関係上の孤立がある、または、懸念される(友人やママ友などの交友がない、コミュニティに属していない、周囲との関わりを避けているなど)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.20**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.09—1.30

$$RR = \frac{78/80(97.5\%)}{77/95(81.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 175$ (項目該当率 45.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 80$ 項目非該当事例数 $n_2 = 95$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.18 [0.49, 1.94]	12.5% / 11.6%
重度ネグレクト	1.40 [0.57, 2.30]	13.8% / 10.5%
性的虐待	40.68 [1.16, 74.75]	5.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.17 [0.46, 1.99]	10.0% / 9.5%
身体的虐待	1.66 [1.05, 2.25]	41.2% / 25.3%
ネグレクト	1.37 [0.92, 1.78]	42.5% / 31.6%
心理的虐待***	1.42 [0.88, 1.92]	35.0% / 25.3%
DV・面前暴力	1.95 [1.07, 2.86]	30.0% / 15.8%
養育上の不調	1.37 [1.14, 1.57]	85.0% / 62.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 友人等との交友がない、コミュニティに属していない、周囲と関わりを持つことを避ける
- ・ 子を持つ親同士の付き合いが苦手、避ける
- ・ 他者と話をするのが苦手、対人交流が苦手
- ・ 相談相手がいない、ネットのみ
- ・ 近隣や地域から孤立している(言語や習慣の違い、近くに知人や友人がいない等)
- ・ 友人等との交友がない、コミュニティに属していない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 子育てにおける保護者の社会的孤立(無援)は、様々な文献等で共通して指摘される支援上の課題である。
- ・ 当該状況に該当する場合、客観的な分析結果とは独立して、「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、必要な支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：対人関係・社会関係

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【項目ID: Whole046(103)】

母親にとって子育てのモデルになる人物が周囲にいない

【調査提示文言】子育てのモデルになる人物が周囲にいない

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.34**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.13—1.53

$$RR = \frac{91/94(96.8\%)}{33/45(73.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 91%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 93%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 139$ (項目該当率 67.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 94$ 項目非該当事例数 $n_2 = 95$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.21 [0.72, 4.15]	13.8% / 6.7%
重度ネグレクト	8.87 [1.53, 20.44]	19.1% / 2.2%
性的虐待	11.78 [0.20, 19.29]	2.1% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.63 [0.44, 3.17]	9.6% / 6.7%
身体的虐待	1.31 [0.73, 1.93]	30.9% / 24.4%
ネグレクト	3.38 [1.73, 5.30]	52.1% / 15.6%
心理的虐待***	1.13 [0.59, 1.71]	26.6% / 24.4%
DV・面前暴力	1.51 [0.69, 2.45]	22.3% / 15.6%
養育上の不調	1.71 [1.28, 2.13]	83.0% / 48.9%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子育てのモデルになる人物が周囲にいない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母親にとって子育てのモデルになる人物が周囲にいないこと自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、数値上の結果は、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることを示している。社会的孤立や援助者の不在など、背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

母親：対人関係・社会関係

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole047(104)】

母親が、周囲や職場での人間関係のトラブルを抱えている、
周囲に心身の安全性を脅かす人物がいる

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の母親が、周囲や職場での人間関係のトラブルを抱えている、周囲に心身の安全性を脅かす人物がいる

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.17**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.05—1.26

$$RR = \frac{30/30(100\%)}{94/113(83.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	96%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 143$ (項目該当率 21.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 30$ 項目非該当事例数 $n_2 = 113$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.09 [0.28, 2.01]	10.0% / 11.5%
重度ネグレクト	1.28 [0.38, 2.23]	13.3% / 12.4%
性的虐待	6.67 [0.37, 16.90]	3.3% / 0.9%
その他深刻な虐待	2.70 [0.84, 4.95]	16.7% / 7.1%
身体的虐待	1.38 [0.79, 1.90]	43.3% / 31.9%
ネグレクト	2.21 [1.38, 2.95]	56.7% / 25.7%
心理的虐待***	1.85 [1.03, 2.60]	43.3% / 23.9%
DV・面前暴力	2.82 [1.53, 4.11]	46.7% / 16.8%
養育上の不調	1.53 [1.22, 1.77]	90.0% / 57.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 母親が周囲や職場での対人トラブルを抱えている
- ・ 職場などの家庭外でストレスを抱えている(過酷な労働や対人関係など)
- ・ 「あなたを安全でないと感じさせる身近な男性はいますか」 → 「はい」

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、特に母親の心身の安全性が脅かされている場合には、**客観的視座から「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」**ことが推測される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole048(105)】

父・パートナーに、犯罪歴や逮捕歴、他害や暴行、配偶者や恋人・家族に対する暴力等の歴がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)に、犯罪歴や逮捕歴、他害や暴行、配偶者や恋人・家族に対する暴力等の歴がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.04**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.88—1.14

$$RR = \frac{23/24(95.8\%)}{90/101(89.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 83%

市区町村(児童虐待相談) 85%

児童相談所(児童虐待相談) 92%

総合的な組織* 81%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 125$ (項目該当率 19.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 24$ 項目非該当事例数 $n_2 = 101$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.98 [0.26, 1.74]	12.5% / 15.8%
重度ネグレクト	1.42 [0.37, 2.63]	12.5% / 10.9%
性的虐待	2.69 [0.24, 6.33]	4.2% / 3.0%
その他深刻な虐待	1.81 [0.27, 3.01]	8.3% / 7.9%
身体的虐待	0.90 [0.41, 1.33]	29.2% / 34.7%
ネグレクト	1.22 [0.75, 1.59]	54.2% / 44.6%
心理的虐待***	0.94 [0.35, 2.60]	20.8% / 24.8%
DV・面前暴力	5.64 [2.61, 8.96]	50.0% / 8.9%
養育上の不調	1.14 [0.95, 1.28]	87.5% / 75.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 犯罪歴や逮捕歴、他害や暴行、配偶者や恋人・家族に対する暴力等の歴がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、父・パートナーに犯罪歴や逮捕歴、他害や暴行、配偶者や恋人・家族に対する暴力等の歴があること自体が、養育上の不調等の発生に関する本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。また、当該観点は過去の事実であって、将来起こりうる物事を決定づけるものでもない。ただし、数値上得られた結果は、当該状況に該当する場合に、養育上の不調等の発生が、調査データ上にて多かったということを示している。現在の状況を鑑みたアセスメントにつなげることに利活用上の力点がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole049(106)】

父・パートナーに、配偶者または恋人からの暴力・DV等の被害歴がある、または疑われる

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)に、配偶者または恋人からの暴力・DV等の被害歴がある、または疑われる

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.16**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.07—1.23

$$RR = \frac{56/56(100\%)}{90/105(85.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管) 95%

市区町村(児童虐待相談) 90%

児童相談所(児童虐待相談) 89%

総合的な組織* 92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 161$ (項目該当率 34.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 56$ 項目非該当事例数 $n_2 = 105$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.14 [1.21, 5.40]	19.6% / 6.7%
重度ネグレクト	2.78 [1.11, 4.77]	19.6% / 7.6%
性的虐待	2.75 [0.32, 6.33]	3.6% / 1.9%
その他深刻な虐待	1.81 [0.44, 3.55]	7.1% / 4.8%
身体的虐待	1.64 [1.01, 2.21]	42.9% / 26.7%
ネグレクト	1.20 [0.79, 1.56]	42.9% / 36.2%
心理的虐待***	1.38 [0.78, 1.94]	30.4% / 22.9%
DV・面前暴力	5.03 [2.82, 7.39]	57.1% / 11.4%
養育上の不調	1.14 [0.95, 1.28]	83.9% / 73.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 配偶者または恋人からの暴力、DV被害歴がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的な分析結果とは独立して、「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」ものと推測される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景にあるニーズを総合的に把握し、必要な支援や介入につなげる必要があるものと考えられる。
- Preconception Careにおいて、親密な他者を含めた対人間暴力は子どもや保護者に悪影響を及ぼす主要な要因の一つとされている。慎重なアセスメントと対応が必要になると考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole050(107)】

父(母のパートナー)に、複雑な家庭環境での生育、
非行や不登校等の経験、過去の逆境体験等の過去がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)に、複雑な家庭環境での生育、非行や不登校等の経験、過去の逆境体験(虐待やネグレクトを受けていた)、両親等から愛されなかった思い、厳しいしつけを受けて育ってきた等の複雑な過去がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.27**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.07—1.44

$$RR = \frac{36/37(97.3\%)}{39/51(76.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	81%
市区町村(児童虐待相談)	68%
児童相談所(児童虐待相談)	91%
総合的な組織*	75%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 88$ (項目該当率 42.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 37$ 項目非該当事例数 $n_2 = 51$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.36 [0.66, 4.55]	16.2% / 7.8%
重度ネグレクト	2.66 [0.92, 4.79]	24.3% / 9.8%
性的虐待	1.35 [0.02, 3.70]	0.0% / 2.0%
その他深刻な虐待	1.32 [0.18, 2.98]	5.4% / 5.9%
身体的虐待	1.34 [0.71, 1.95]	37.8% / 29.4%
ネグレクト	1.88 [1.01, 2.78]	43.2% / 23.5%
心理的虐待***	1.07 [0.54, 1.59]	29.7% / 29.4%
DV・面前暴力	4.85 [1.45, 9.28]	27.0% / 5.9%
養育上の不調	1.48 [1.07, 1.85]	78.4% / 52.9%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 過去の逆境体験がある(ネグレクトや虐待を受けていた等)
- 複雑な家庭環境で育った、または、父母以外の人もしくは施設で育った
- 両親等に愛されなかった思いや、厳しいしつけを受けて育ってきた過去がある
- 自分自身が子どもの頃の保護者や家庭環境について否定的な記憶が多い、肯定的な思い出がない
- 親が怖かった、しつけで怒鳴る・たたく、とても厳しい、あまり遊んだ記憶がない、
- 親とあまり一緒にいたくなかった、幼い頃に親との死別・離別等があった
- 自身に心理的不調による不登校や休職歴がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、複雑な家庭環境での生育、非行や不登校等の経験、過去の逆境体験があること自体が、養育上の不調等の発生に関する本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。また、当該観点は過去の事実であって、将来起こりうる物事を決定づけるものでもない。
- 数値上得られた結果は、当該状況に該当する場合に、養育上の不調等の発生が、調査データ上にて多かったということを示している。現在の状況を鑑みたアセスメントにつなげることに利活用上の力点がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole051(108)】

父(母のパートナー)の最終学歴が義務教育範囲
(中卒・高校中退等)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)の最終学歴が義務教育範囲(中卒・高校中退等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.31**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.02—1.54

$$RR = \frac{18/19(94.7\%)}{34/48(70.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	85%
市区町村(児童虐待相談)	66%
児童相談所(児童虐待相談)	89%
総合的な組織*	70%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 67$ (項目該当率 28.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 19$ 項目非該当事例数 $n_2 = 48$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.72 [0.94, 4.77]	31.6% / 12.5%
重度ネグレクト	1.86 [0.40, 3.68]	15.8% / 10.4%
性的虐待	4.85 [0.27, 11.93]	5.3% / 2.1%
その他深刻な虐待	3.51 [0.45, 8.27]	10.5% / 4.2%
身体的虐待	1.75 [0.96, 2.50]	57.9% / 33.3%
ネグレクト	2.11 [0.92, 3.32]	42.1% / 20.8%
心理的虐待***	2.34 [1.17, 3.60]	52.6% / 22.9%
DV・面前暴力	1.17 [0.36, 2.11]	21.1% / 20.8%
養育上の不調	1.38 [0.94, 1.74]	78.9% / 56.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 最終学歴が義務教育範囲(中卒・高校中退等)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、**養育に関する物事を学歴で評価・判断するなどということを意図した項目ではない**。将来的なデータ利活用等の可能性を考慮した場合に、「解析結果等に基づくサービス等の量や質が、結果的に、学歴や国籍、人種等によって異なっていないか」を評価するための補助的な観点として調査上の項目に採用したものである。ただし、数値上得られた結果から、当該状況に該当する場合に養育上の不調等の発生が調査データ上に多かったことを示している。また、当該条件に該当する場合に、負担が生じやすい社会状況にあるとも解釈されうる。背景のケアニーズを把握するための契機として活用できる可能性がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域 父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole052(109)】
妊娠時、父(母のパートナー)が学校・大学に在学中の
学生だった(社会人学生を除く)、または就業していなかった

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の妊娠時、父(母のパートナー)が学校・大学に在学中の学生だった(社会人学生を除く)、または就業していなかった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.23**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.05—1.35

$$RR = \frac{19/19(100\%)}{86/110(78.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 129$ (項目該当率 14.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 19$ 項目非該当事例数 $n_2 = 110$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.49 [0.16, 3.31]	5.3% / 6.4%
重度ネグレクト	1.55 [0.16, 3.47]	5.3% / 6.4%
性的虐待	68.07 [0.14, 66.08]	0.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.60 [0.32, 3.19]	10.5% / 9.1%
身体的虐待	0.85 [0.28, 1.40]	21.1% / 28.2%
ネグレクト	1.65 [0.89, 2.30]	47.4% / 29.1%
心理的虐待***	0.98 [0.34, 1.62]	21.1% / 24.5%
DV・面前暴力	1.87 [0.70, 3.08]	26.3% / 15.5%
養育上の不調	1.57 [1.25, 1.81]	94.7% / 58.2%

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	78%
児童相談所(児童虐待相談)	97%
総合的な組織*	93%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別でのアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 妊娠時に学校・大学に在学していた(社会人学生を除く)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、子どもの妊娠時に父・パートナーが学校・大学に在学中の学生だった(社会人学生を除く)ことと自体が、養育上の不調等の発生に関する本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。また、当該観点は過去の事実であって、将来起こりうる物事を決定づけるものでもない。
- 数値上得られた結果は、当該状況に該当する場合に、養育上の不調等の発生が、調査データ上にて多かったことを示している。現在の状況を鑑みた背景のアセスメントにつなげることに利活用上の力点がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole053(110)】

父(母のパートナー)が夜間就労(交代制を含む)または
頻繁な出張等を伴う仕事をしている

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)が夜間就労(交代制を含む)または頻繁な出張等を伴う仕事をしている

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.07**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.95—1.15

$$RR = \frac{47/51(92.2\%)}{117/137(85.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 96%

市区町村(児童虐待相談) 91%

児童相談所(児童虐待相談) 96%

総合的な組織* 94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 188$ (項目該当率 27.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 51$ 項目非該当事例数 $n_2 = 137$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.18 [0.51, 1.85]	15.7% / 14.6%
重度ネグレクト	1.23 [0.51, 1.95]	15.7% / 13.9%
性的虐待	7.94 [0.63, 19.63]	3.9% / 0.7%
その他深刻な虐待	1.41 [0.51, 2.44]	11.8% / 9.5%
身体的虐待	1.33 [0.88, 1.72]	45.1% / 34.3%
ネグレクト	1.09 [0.65, 1.48]	33.3% / 31.4%
心理的虐待***	0.74 [0.40, 1.03]	23.5% / 33.6%
DV・面前暴力	0.95 [0.48, 1.37]	21.6% / 24.1%
養育上の不調	1.12 [0.91, 1.28]	76.5% / 67.9%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 夜間就労(交代制を含む)または頻繁な出張等を伴う仕事をしている

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、父・パートナーが夜間就労(交代制を含む)または頻繁な出張等を伴う仕事をしていることが、養育上の不調等の発生を決定づけることはなく、本質的な原因になるものと解釈されないことに留意する必要がある。数値上得られた結果は、「当該状況の背景に何らかの本質的なニーズがある」ことを示唆するサインであって、その背景ニーズを捉えることに利活用上の力点がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠期採用  構成案
乳幼児期採用  機械学習
予測貢献項目 

【項目ID: Whole054(111)】
父(母のパートナー)に、慢性的な身体疾患や身体障害がある
(手帳の有無を問わない)

推奨評価方法
☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)に、慢性的な身体疾患や身体障害がある(手帳の有無を問わない)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 1.03

ベイズ推定法による95%確信区間 0.83—1.11

RR = $\frac{12/12(100\%)}{144/158(91.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	91%
児童相談所(児童虐待相談)	98%
総合的な組織*	92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 170$ (項目該当率 7.1%) 項目該当事例数 $n_1 = 12$ 項目非該当事例数 $n_2 = 158$		
個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.40 [0.75, 3.21]	16.7% / 6.3%
重度ネグレクト	3.04 [0.87, 5.33]	25.0% / 9.5%
性的虐待	3.67 [0.09, 9.95]	0.0% / 1.9%
その他深刻な虐待	0.44 [0.01, 1.17]	8.3% / 7.0%
身体的虐待	0.94 [0.35, 1.46]	33.3% / 38.0%
ネグレクト	1.51 [0.81, 2.06]	58.3% / 38.0%
心理的虐待***	1.56 [0.75, 2.22]	50.0% / 32.3%
DV・面前暴力	2.65 [1.20, 3.88]	50.0% / 19.0%
養育上の不調	1.30 [1.02, 1.44]	100.0% / 72.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 慢性的な身体疾患や身体障害がある(手帳の有無は問わない)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、慢性的な身体疾患や身体障害がある事自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当した時点で、何らかのケアニーズが発生しうことは十分に想定されうる。
- Sexual and Reproductive Health and Rightsにおいて、障害等を抱える場合は「特に区別した支援が必要である」と想定されている。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole055(112)】

父(母のパートナー)に、何らかの精神疾患の既往や、
心理的に疲労した状態がうかがわれる/心身不調の訴えがある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)に、何らかの精神疾患の既往や、精神科・心療内科等の受診歴・相談歴がある、または、疲労や無気力、抑うつ状態、表情の乏しさ、睡眠の問題があるなど、心理的に疲労した状態/心身不調の訴えがある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.98**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.84—1.07

$$RR = \frac{26/28(92.9\%)}{75/81(92.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	85%
市区町村(児童虐待相談)	79%
児童相談所(児童虐待相談)	73%
総合的な組織*	89%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 109$ (項目該当率 25.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 28$ 項目非該当事例数 $n_2 = 81$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.91 [0.71, 3.21]	21.4% / 12.3%
重度ネグレクト	1.24 [0.38, 2.20]	14.3% / 13.6%
性的虐待	2.59 [0.04, 6.84]	0.0% / 1.2%
その他深刻な虐待	0.44 [0.01, 1.17]	0.0% / 7.4%
身体的虐待	1.65 [0.97, 2.26]	50.0% / 30.9%
ネグレクト	1.00 [0.55, 1.38]	39.3% / 40.7%
心理的虐待***	0.87 [0.35, 1.40]	21.4% / 27.2%
DV・面前暴力	2.74 [1.27, 4.23]	39.3% / 14.8%
養育上の不調	1.06 [0.83, 1.22]	82.1% / 76.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 何らかの精神疾患の既往がある・心理カウンセラーや精神科・心療内科での相談歴がある
- ・ 服薬の自己管理ができないなど不安定な状態、判断力の著しい減退がある。
エネルギーがなく、自律的・主体的な行動や判断が取れない
- ・ 精神疾患(不安・うつ・双極性障害・パーソナリティ等)を抱えている、受診の自己判断での中断
- ・ 睡眠を十分に取ることができていない
- ・ 母の産後以降、これまで抑うつ状態があった(不眠、イライラする、涙ぐみやすい、何もやる気がしない、食欲不振など)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、何らかの精神疾患の既往や、精神科・心療内科等の受診歴・相談歴があること自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。
- ・ Preconception Careにおいて、保護者のメンタルヘルス上の不調は、子どもの健康に影響がある主たる要因の一つとされる。予防的視座からも、特に配慮のある対応が必要な観点であると捉えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠前採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole056(113)】

父(母のパートナー)に、過去の自殺企図や未遂、精神的に過度な負担を抱えた様子や、心中等をほのめかす言動が確認されている

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)に、過去の自殺企図や未遂、または、「死にたい」「楽になりたい」など、精神的に過度な負担を抱えた様子や、心中等をほのめかす言動が確認されている

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.99**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.71—1.12

$$RR = \frac{7/7(100\%)}{112/124(90.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	81%
児童相談所(児童虐待相談)	86%
総合的な組織*	92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 131$ (項目該当率 5.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 7$ 項目非該当事例数 $n_2 = 124$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.06 [0.03, 2.76]	0.0% / 10.5%
重度ネグレクト	2.00 [0.28, 4.18]	14.3% / 11.3%
性的虐待	14.17 [0.22, 35.45]	0.0% / 0.8%
その他深刻な虐待	1.57 [0.04, 3.97]	0.0% / 7.3%
身体的虐待	1.51 [0.51, 2.39]	42.9% / 29.8%
ネグレクト	1.51 [0.63, 2.19]	57.1% / 37.1%
心理的虐待***	2.17 [0.94, 3.20]	57.1% / 25.8%
DV・面前暴力	1.81 [0.44, 3.21]	28.6% / 18.5%
養育上の不調	1.22 [0.88, 1.41]	100.0% / 73.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 過去の自殺企図や未遂、精神的に過度な負担を抱えた様子や、心中等をほのめかす言動が確認されている

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、予防的視座から明らかに「父・パートナーおよび子どもの養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。Preconception Careにおいて、保護者のメンタルヘルス上の不調は、子どもの健康に影響がある主たる要因の一つとされる。予防的視座からも、特に配慮のある対応が必要な観点であると捉えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole057(114)】

父(母のパートナー)が、仕事や人間関係のトラブル、
経済的問題などで抱えている生活上のストレスが高い

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)が、仕事や人間関係のトラブル、経済的問題などで抱えている生活上のストレスが高い

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.15**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.04—1.23

$$RR = \frac{48/48(100\%)}{58/67(86.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	93%
市区町村(児童虐待相談)	85%
児童相談所(児童虐待相談)	91%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 115$ (項目該当率 41.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 48$ 項目非該当事例数 $n_2 = 67$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	5.52 [0.59, 12.57]	6.2% / 1.5%
重度ネグレクト	1.23 [0.49, 2.03]	16.7% / 14.9%
性的虐待	8.83 [0.04, 17.29]	0.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.18 [0.34, 2.17]	10.4% / 10.4%
身体的虐待	1.30 [0.79, 1.80]	41.7% / 32.8%
ネグレクト	1.03 [0.62, 1.42]	37.5% / 37.3%
心理的虐待***	0.86 [0.42, 1.30]	22.9% / 28.4%
DV・面前暴力	2.36 [1.06, 3.83]	27.1% / 11.9%
養育上の不調	1.36 [1.10, 1.58]	85.4% / 62.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 仕事や人間関係のトラブル、経済的問題などで抱えている生活上のストレスが高い

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「養育に関するケアニーズがある」ことが推測される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole058(115)】

父(母のパートナー)に、アルコールや薬物等への物質依存、
ギャンブルや買い物などへの行為依存、金銭管理の著しい困難がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)に、アルコールや薬物等への物質依存がある(診断の有無を問わない)、または、ギャンブルや買い物などへの行為依存、金銭管理の著しい困難がある(診断の有無を問わない)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.19**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.06—1.31

$$RR = \frac{29/29(100\%)}{64/78(82.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	94%
市区町村(児童虐待相談)	71%
児童相談所(児童虐待相談)	84%
総合的な組織*	76%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 107$ (項目該当率 27.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 29$ 項目非該当事例数 $n_2 = 78$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.57 [0.06, 1.25]	3.4% / 11.5%
重度ネグレクト	1.55 [0.50, 2.75]	17.2% / 12.8%
性的虐待	2.54 [0.19, 6.2]	3.4% / 2.6%
その他深刻な虐待	2.55 [0.93, 4.45]	24.1% / 10.3%
身体的虐待	0.95 [0.45, 1.41]	27.6% / 30.8%
ネグレクト	1.18 [0.62, 1.69]	37.9% / 33.3%
心理的虐待***	1.28 [0.58, 1.94]	27.6% / 23.1%
DV・面前暴力	2.37 [1.29, 3.44]	44.8% / 19.2%
養育上の不調	0.99 [0.73, 1.20]	69.0% / 69.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ アルコールや薬物等の物質依存がある、あった。
- ・ 訪問時にアルコール臭がある。
- ・ (妊娠中を含む)子どもや母体に配慮のない喫煙
- ・ ギャンブル、買い物などの行為依存がある、あった
- ・ 金銭管理・コントロールができない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、健康・保健的観点のみならず、社会的リスクの観点からも明らかに「**養育に関するケアニーズがある**」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。
- ・ Preconception Careにおいて、保護者の薬物使用やメンタルヘルスは、子どもの健康に影響を与える主要因の一つとされ、Sexual and Reproductive Health and Rightsにおいて、**薬物の使用は「特に区別した支援が必要」な対象**とされている。

9

1

11

父(母のパートナー)について、容姿・整容に気になる点がある
(不衛生、刺青やボディピアスなど)

☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

養育上の不調と虐待

ベイズ推定法による95%確信区間 1.00—1.21

- 前提として、当該項目は、保護者の容姿や整容に関する印象と、養育上の事柄とを直接的に関連づけようとするものではない。例えば、衣服等が不衛生な場合は、その背景にある生活状況を推測する手がかりとなるように、背景にある健康・生活に関する状況をアセスメントする際の契機として捉えられたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠前採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole060(117)】

父(母のパートナー)に、衝動性や攻撃性、感情コントロールの難しさ、あるいは精神的・社会的な未成熟を思わせる態度や言動がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)に、衝動性や攻撃性、感情コントロールの難しさ、あるいは精神的・社会的な未成熟を思わせる態度や言動がある(発言が自己中心的、妙に馴れ馴れしい、話を面倒そうに聞く等)、または、養育に関する責任感が希薄・責任を子どもの母や周囲に転嫁する、物事を被害的に受け取る

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.18**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.07—1.27

$$RR = \frac{94/96(97.9\%)}{74/89(83.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	96%
市区町村(児童虐待相談)	85%
児童相談所(児童虐待相談)	98%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 185$ (項目該当率 51.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 96$ 項目非該当事例数 $n_2 = 89$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.47 [0.43, 2.83]	7.3% / 5.6%
重度ネグレクト	1.42 [0.56, 2.43]	10.4% / 7.9%
性的虐待	50.52 [0.43, 32.84]	2.1% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.83 [0.59, 3.38]	9.4% / 5.6%
身体的虐待	1.21 [0.80, 1.59]	37.5% / 31.5%
ネグレクト	1.16 [0.78, 1.51]	39.6% / 34.8%
心理的虐待***	0.99 [0.61, 1.33]	29.2% / 30.3%
DV・面前暴力	3.78 [1.90, 5.86]	37.5% / 10.1%
養育上の不調	1.28 [1.08, 1.44]	84.4% / 66.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 感情の起伏が激しい、些細なことで怒る、イライラする様子がある、怒りへの対処ができない
- 感情的になる、衝動的な言動がある、攻撃的な態度をとる
- 社会性の欠如・社会的未熟、発言や言動が過度に自己中心的
- 敬語を使わない、妙に馴れ馴れしいなど、コミュニケーションに気になる点がある
- 面倒そうに話を聞く、関心を持たない、拒否的・回避的・交戦的
- 被害的な振る舞いを見せる、問題を認識できていない、「私をみてほしい」アピールが強い
- 養育上の課題や難しさを自分ごととして受け止めようとしない、子どもの事故などを他者に責任転嫁する様子がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「**養育上のケアニーズが発生しうる**」と推測される。ただし、当該状況への該当によって直ちに養育上の不調等の発生が決定づけられることはない。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：個人所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole061(118)】

父(母のパートナー)に、知的水準の低さ、対人関係やコミュニケーション上の課題に由来した問題解決の困難がある/懸念される

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)に、知的水準の低さ、対人関係/コミュニケーション上の課題に由来した問題解決の困難がある/懸念される

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.28**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.13—1.42

$$RR = \frac{53/54(98.1\%)}{58/76(76.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	76%
児童相談所(児童虐待相談)	95%
総合的な組織*	92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 130$ (項目該当率 41.5%)
項目該当事例数 $n_1 = 54$ 項目非該当事例数 $n_2 = 76$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.68 [0.20, 1.26]	7.4% / 13.2%
重度ネグレクト	1.53 [0.58, 2.58]	14.8% / 10.5%
性的虐待	1.34 [0.10, 3.22]	1.9% / 2.6%
その他深刻な虐待	0.99 [0.26, 1.87]	7.4% / 9.2%
身体的虐待	0.94 [0.51, 1.36]	25.9% / 28.9%
ネグレクト	0.97 [0.57, 1.34]	33.3% / 35.5%
心理的虐待***	1.46 [0.74, 2.19]	27.8% / 19.7%
DV・面前暴力	1.92 [1.04, 2.81]	37.0% / 19.7%
養育上の不調	1.58 [1.08, 1.44]	85.2% / 53.9%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 知的障害の診断がある
- ・ 知的水準が低い、またはその印象がある(話がかみあわない、簡単な返事しかしない、常用漢字がかけない、話の要領を得ない、計算や読解が苦手、些細なことを繰り返し質問するなど)
- ・ 発達障害がある(疑われる)
- ・ 突発的事態への対処困難、意図や背景が不明な不可解な言動がある、話のやり取りができない、意思疎通の難しさ、受け答えがちぐはぐ、オープンクエスチョンに答えられない
- ・ 突発的な状態に対処できない、パニックを起こす、頼りない印象を受けた

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、客観的視座から「養育上のケアニーズが発生しうる」と推測される。ただし、当該状況への該当によって直ちに養育上の不調等の発生が決定づけられることはない。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域 父・パートナー：育児関与

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole062(119)】
父(母のパートナー)が、父母学級等への参加を希望しない、
避けたがる

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)が、父母学級等への参加を希望しない、避けたがる

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 1.10

ベイズ推定法による95%確信区間 0.85—1.23

$$RR = \frac{10/10(100\%)}{66/78(84.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	90%
市区町村(児童虐待相談)	76%
児童相談所(児童虐待相談)	96%
総合的な組織*	75%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 88$ (項目該当率 11.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 10$ 項目非該当事例数 $n_2 = 78$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.31 [0.31, 7.48]	10.0% / 5.1%
重度ネグレクト	2.17 [0.26, 4.71]	10.0% / 7.7%
性的虐待	6.38 [0.10, 3.22]	0.0% / 1.3%
その他深刻な虐待	1.64 [0.04, 4.34]	0.0% / 5.1%
身体的虐待	1.58 [0.70, 2.36]	50.0% / 32.1%
ネグレクト	1.46 [0.63, 2.13]	50.0% / 34.6%
心理的虐待***	1.38 [0.52, 2.15]	40.0% / 30.8%
DV・面前暴力	1.94 [0.70, 3.15]	40.0% / 21.8%
養育上の不調	1.20 [0.82, 1.43]	90.0% / 70.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 父母学級等への参加を希望しない、参加しない、避けたがる

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、妊娠期の行政・地域サービス等を受けたがらない、回避すること自体が、出生後の養育上の不調等の発生の本質的な原因あるいは「原因ではない」とは解釈されないことに留意する必要がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：育児関与

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole063(120)】

父(母のパートナー)が、子どもが生後2週間から5ヶ月ごろに、
子どもが泣き止まないことに対する心身の負担を抱えていた

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)が、子どもが生後2週間から5ヶ月ごろの間に、子どもが泣き止まないことに対する心身の負担を抱えていた

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.12**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.86—1.26

$$RR = \frac{10/10(100\%)}{50/60(83.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	88%
市区町村(児童虐待相談)	90%
児童相談所(児童虐待相談)	82%
総合的な組織*	75%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 70$ (項目該当率 14.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 10$ 項目非該当事例数 $n_2 = 60$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	10.22 [0.61, 25.00]	10.0% / 1.7%
重度ネグレクト	1.02 [0.13, 2.16]	10.0% / 16.7%
性的虐待	2.53 [0.05, 7.00]	0.0% / 3.3%
その他深刻な虐待	2.59 [0.27, 5.93]	10.0% / 6.7%
身体的虐待	3.07 [1.15, 5.07]	50.0% / 16.7%
ネグレクト	1.27 [0.56, 1.86]	50.0% / 40.0%
心理的虐待***	1.84 [0.54, 3.21]	30.0% / 18.3%
DV・面前暴力	0.77 [0.10, 1.61]	10.0% / 21.7%
養育上の不調	1.24 [0.76, 1.58]	80.0% / 61.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもが生後2週間から5ヶ月ごろに、
子どもが泣き止まないことに対する心身の負担を抱えていた

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、乳幼児の持続的な泣き(Purple Crying)があること自体が、直ちに養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、客観的視座から養育上の心身の負担があることは容易に想像されるものであることから、当該負担に対するケアニーズがあると解釈される。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域 父・パートナー：育児関与

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole064(121)】
父(母のパートナー)が、育児に協力しない、育児に必要な
基本的知識を持っていない、子どもとの関わりを嫌がる・回避する

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)が、育児上の悩みや相談を受け止めない、理解しようとしなない、育児や妊産婦のケアへの協力がなく、育児にほとんど関わっていない、育児に必要な基本的知識を持っていない、子どもの生活上のケアや配慮をしない、子どもとの関わりを嫌がる・回避する

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.18**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.08—1.27

$$RR = \frac{55/55(100\%)}{79/94(84\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	83%
児童相談所(児童虐待相談)	87%
総合的な組織*	95%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 149$ (項目該当率 36.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 55$ 項目非該当事例数 $n_2 = 94$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.06 [0.82, 3.45]	18.2% / 9.6%
重度ネグレクト	0.83 [0.30, 1.41]	10.9% / 14.9%
性的虐待	11.66 [0.04, 19.84]	0.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	0.50 [0.09, 1.01]	3.6% / 10.6%
身体的虐待	1.13 [0.72, 1.50]	40.0% / 36.2%
ネグレクト	1.74 [1.10, 2.33]	45.5% / 26.6%
心理的虐待***	0.63 [0.32, 0.91]	20.0% / 34.0%
DV・面前暴力	1.85 [1.04, 2.65]	34.5% / 19.1%
養育上の不調	1.44 [1.21, 1.63]	90.9% / 62.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 父・パートナーが育児や妊産婦のケアに協力しない
- 育児に協力しない、育児に必要な基本的知識を持っていない
- 子どもとの関わりを嫌がる・回避する

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「養育上のケアニーズが発生しうる」と推測される。ただし、当該状況への該当によって直ちに養育上の不調等の発生が決定づけられることはない。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。母親の孤立や育児負担など、背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：育児関与

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole065(122)】

父(母のパートナー)が、子どもの発達や疾病・障害に対する理解や態度が乏しい、受容できない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】父(母のパートナー)が、対象児童の発達や疾病・障害に対する理解や態度が乏しい、受容できない
(受容に至るプロセスをたどる様子がない)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.12**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.98—1.22

$$RR = \frac{38/40(95\%)}{69/82(84.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	92%
市区町村(児童虐待相談)	90%
児童相談所(児童虐待相談)	93%
総合的な組織*	91%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 122$ (項目該当率 32.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 40$ 項目非該当事例数 $n_2 = 82$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.19 [0.38, 2.10]	12.5% / 12.2%
重度ネグレクト	2.26 [0.80, 3.93]	17.5% / 8.5%
性的虐待	0.99 [0.02, 2.85]	0.0% / 2.4%
その他深刻な虐待	0.67 [0.07, 1.48]	2.5% / 7.3%
身体的虐待	0.98 [0.58, 1.34]	37.5% / 39.0%
ネグレクト	1.57 [0.87, 2.26]	37.5% / 24.4%
心理的虐待***	0.98 [0.55, 1.37]	32.5% / 34.1%
DV・面前暴力	1.44 [0.71, 2.19]	30.0% / 22.0%
養育上の不調	1.22 [0.97, 1.43]	82.5% / 67.1%

** 項目該当 あり/なし 別でのアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもの疾病や障害に対する理解や態度に変化が見込まれない、受容できない、受容までのプロセスをたどる様子がない
- 子どもへの理解が乏しい（子どもに生じている問題に気がつかない）

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 解析の結果、各種のアウトカムの発生を当該項目単体で検出することは困難であることが示された。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：育児関与

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole066(123)】

父(母のパートナー)が、子どもに向ける感情や評価が否定的、子どもに対する声かけや関わり方が不自然、一貫性がない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】父(母のパートナー)が、対象児童に向ける感情や評価が否定的、または、子どもに対する声かけや関わり方が不自然、一貫性がない

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.23**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.10—1.33

$$RR = \frac{40/40(100\%)}{74/92(80.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	93%
市区町村(児童虐待相談)	93%
児童相談所(児童虐待相談)	86%
総合的な組織*	92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 132$ (項目該当率 30.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 40$ 項目非該当事例数 $n_2 = 92$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.29 [1.20, 5.75]	20.0% / 6.5%
重度ネグレクト	1.82 [0.74, 2.97]	20.0% / 12.0%
性的虐待	2.23 [0.33, 4.89]	5.0% / 3.3%
その他深刻な虐待	0.89 [0.21, 1.71]	7.5% / 10.9%
身体的虐待	1.80 [1.14, 2.40]	52.5% / 29.3%
ネグレクト	1.73 [1.01, 2.42]	42.5% / 25.0%
心理的虐待***	2.46 [1.43, 3.48]	50.0% / 20.7%
DV・面前暴力	2.70 [1.43, 3.98]	40.0% / 15.2%
養育上の不調	1.38 [1.15, 1.56]	92.5% / 66.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ この子がいなかったら、こんな子でなかったらと語る
- ・ 子どもの性格が嫌い、気が合わないなどと語る
- ・ 子どもが可愛いと思えない
- ・ 子どもに対する感情や評価が否定的
- ・ 子どもに対する声かけや関わり方が不自然、一貫性がない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、客観的視座から「養育に関するケアニーズがある」ことが推測される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：育児関与

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole067(124)】

父(母のパートナー)が養育よりも自己都合を過度に優先する、
生活上の関心が子どもではなく自分、子どもの要求を無視する

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)について、養育よりも自己の都合(夜遊びなど)が過度に優先される、
養育者の生活上の関心が子どもではなく自分にある、子どもの要求を無視する

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.19**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.08—1.28

$$RR = \frac{42/42(100\%)}{84/101(83.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	92%
市区町村(児童虐待相談)	90%
児童相談所(児童虐待相談)	92%
総合的な組織*	96%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 143$ (項目該当率 29.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 42$ 項目非該当事例数 $n_2 = 101$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.56 [1.04, 4.38]	21.4% / 8.9%
重度ネグレクト	1.74 [0.71, 2.86]	19.0% / 11.9%
性的虐待	2.16 [0.03, 5.75]	0.0% / 1.0%
その他深刻な虐待	2.28 [0.61, 4.44]	9.5% / 5.0%
身体的虐待	1.78 [1.07, 2.43]	45.2% / 25.7%
ネグレクト	1.90 [1.29, 2.43]	61.9% / 32.7%
心理的虐待***	2.45 [1.33, 3.58]	40.5% / 16.8%
DV・面前暴力	2.73 [1.54, 3.93]	45.2% / 16.8%
養育上の不調	1.31 [1.09, 1.50]	88.1% / 66.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 養育よりも自己の都合(夜遊びなど)が過度に優先される、養育者の生活上の関心が、
子どもではなく自分中心にある
- 子どもの要求を無視する

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から明らかに「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：育児関与

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole068(125)】

父(母のパートナー)の子どもへのしつけが厳しい、発達に不相応な要求・期待や身の自立、学習を求める・強いる様子がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)について、子どもへのしつけが厳しい、扱いが乱暴(子どもを厳しく叱りつける、日常的に怒鳴る、子どもを乱暴に扱う、「叩くぞ」などと暴力をほのめかす等)、あるいは、発達に不相応な要求・期待や身の自立、学習を求める・強いる様子がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.10**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.97—1.19

$$RR = \frac{38/40(95\%)}{82/96(85.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	92%
市区町村(児童虐待相談)	93%
児童相談所(児童虐待相談)	92%
総合的な組織*	92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 136$ (項目該当率 29.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 40$ 項目非該当事例数 $n_2 = 96$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.31 [0.81, 4.05]	17.5% / 8.3%
重度ネグレクト	1.38 [0.47, 2.42]	12.5% / 10.4%
性的虐待	推定困難	0.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.72 [0.55, 3.15]	12.5% / 8.3%
身体的虐待	2.41 [1.52, 3.25]	57.5% / 24.0%
ネグレクト	0.91 [0.52, 1.25]	35.0% / 39.6%
心理的虐待***	1.08 [0.61, 1.52]	32.5% / 31.2%
DV・面前暴力	2.74 [1.53, 3.94]	45.0% / 16.7%
養育上の不調	1.16 [0.94, 1.32]	82.5% / 70.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもを絶え間なく叱る、怒鳴ることが日常化している
- 子どもの送迎時に厳しく叱ることがある、しつけが厳しい
- きょうだいに対する声かけが厳しいなど、気になる様子があった
- 子どものあつかいが乱暴、暴力行為のほのめかし(「たたくぞ」などの脅し)がある
- 子どもを馬鹿にする、罵る
- 子どもに対して発達に相応しない要求をしている、年齢不相応な身の自立を求めている
- しつけに厳格さ、過剰さを感じられる

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から明らかに「母親に妊娠・出産や養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域 父・パートナー：育児関与

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole069(126)】
父(母のパートナー)に、子育てに関する責任感がない、問題を回避する、他人等のせいにする

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)に、子育てに関する責任感がない、問題を回避する、他人等のせいにする

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.25**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.10—1.40

$$RR = \frac{37/37(100\%)}{45/57(78.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	90%
市区町村(児童虐待相談)	87%
児童相談所(児童虐待相談)	78%
総合的な組織*	86%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 94$ (項目該当率 39.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 37$ 項目非該当事例数 $n_2 = 57$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.03 [0.90, 5.85]	18.9% / 7.0%
重度ネグレクト	3.07 [0.68, 6.35]	13.5% / 5.3%
性的虐待	56.18 [0.27, 39.32]	2.7% / 0.0%
その他深刻な虐待	5.83 [0.64, 13.08]	8.1% / 1.8%
身体的虐待	1.41 [0.79, 1.99]	43.2% / 31.6%
ネグレクト	1.17 [0.66, 1.65]	37.8% / 33.3%
心理的虐待***	1.67 [0.63, 2.85]	21.6% / 14.0%
DV・面前暴力	1.66 [0.64, 2.87]	21.6% / 14.0%
養育上の不調	1.58 [1.22, 1.90]	89.2% / 56.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 子育てに関する責任感がない、問題を回避する、他人等のせいにする

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 当該状況に該当する場合、客観的視座から明らかに「養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：育児関与

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole070(127)】

父(母のパートナー)に、体罰容認などの暴力を是認・黙認する
価値観や、家庭内の男女等の役割に関する固定観念、
子育てに関する特異的な価値観、医療に対する否定的考えを持っている

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)に、体罰容認などの暴力を是認・黙認する価値観や、家庭内の男女等の役割に関する固定観念、子育てに関する特異的な価値観や脅迫観念、医療に対する不自信や否定的考えを持っている

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.07**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.96—1.15

$$RR = \frac{53/56(94.6\%)}{81/92(88\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	92%
市区町村(児童虐待相談)	92%
児童相談所(児童虐待相談)	95%
総合的な組織*	81%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 148$ (項目該当率 37.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 56$ 項目非該当事例数 $n_2 = 92$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.75 [0.77, 2.76]	21.4% / 13.0%
重度ネグレクト	0.37 [0.07, 0.73]	3.6% / 14.1%
性的虐待	0.83 [0.02, 2.18]	0.0% / 2.2%
その他深刻な虐待	1.36 [0.62, 2.14]	17.9% / 14.1%
身体的虐待	1.61 [1.11, 2.04]	57.1% / 35.9%
ネグレクト	0.73 [0.40, 1.03]	25.0% / 35.9%
心理的虐待***	1.19 [0.71, 1.61]	33.9% / 29.3%
DV・面前暴力	3.36 [1.76, 5.07]	39.3% / 12.0%
養育上の不調	1.00 [0.80, 1.15]	71.5% / 71.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 体罰容認など、暴力を是認・黙認する価値観がある
- ・ 家庭内の男女の役割に関するステレオタイプ(固定観念)がある
- ・ 医療に対して不信感を訴える、否定的な考えを示す、子どもに必要な医学的治療や診察を回避する
- ・ 出産や育児へのこだわりが強い、固執する
- ・ 育児知識や姿勢、生活習慣や食事に極端な偏りがある、
特異的と感じられる育児観や強迫観念に基づく子育てがある
- ・ 乳幼児との関わり方が極端な自己流

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況、特に暴力を是認・黙認する価値観が認められる場合や、子どもに必要な医学的加療を回避する場合には、客観的視座から明らかに「養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

父・パートナー：育児関与

構成案
妊娠前採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【項目ID: Whole071(128)】

父(母のパートナー)に社会関係上の孤立がある、懸念される

【調査提示文言】対象児童の父(母のパートナー)に、社会関係上の孤立がある、または、懸念される(友人や職場同僚などとの交友がない、コミュニティに属していない、周囲との関わりを避けているなど)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.20**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.07—1.31

$$RR = \frac{30/30(100\%)}{79/97(81.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	85%
市区町村(児童虐待相談)	85%
児童相談所(児童虐待相談)	88%
総合的な組織*	91%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 127$ (項目該当率 23.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 30$ 項目非該当事例数 $n_2 = 97$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.84 [0.61, 3.19]	16.7% / 10.3%
重度ネグレクト	2.04 [0.45, 4.03]	21.1% / 9.8%
性的虐待	例数不足により推定困難	3.3% / 0.0%
その他深刻な虐待	3.08 [0.60, 6.27]	7.0% / 8.5%
身体的虐待	1.32 [0.73, 1.86]	40.0% / 30.9%
ネグレクト	1.72 [0.95, 2.44]	43.3% / 25.8%
心理的虐待***	0.89 [0.42, 1.34]	26.7% / 32.0%
DV・面前暴力	0.92 [0.33, 1.53]	16.7% / 20.6%
養育上の不調	1.14 [0.82, 1.39]	70.0% / 60.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 友人等との交友がない、コミュニティに属していない
- ・ 子を持つ親同士の付き合いが苦手、避ける
- ・ 他者と話をするのが苦手、対人交流が苦手
- ・ 相談相手がいない、ネットのみ
- ・ 近隣や地域から孤立している(言語や習慣の違い、近くに知人や友人がいない等)
- ・ 周囲と関わりを持つことを避ける、対人トラブルを抱えている
- ・ 職場などの家庭外でストレスを抱えている(過酷な労働や対人関係など)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 子育てにおける保護者の社会的孤立(無援)は、様々な文献等で共通して指摘される支援上の課題である。
- ・ 当該状況に該当する場合、客観的な分析結果とは独立して、「養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、必要な支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども： 健診・予防接種

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole072(129)】

子どもに、1歳までに受けるべき予防接種の未接種がある
(一部以上の未接種がある場合)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】 子どもに、1歳までに受けるべき予防接種の未接種がある(一部以上の未接種がある場合)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.11**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.03—1.16

$$RR = \frac{106/114(93\%)}{630/756(83.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 870$ (項目該当率 13.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 114$ 項目非該当事例数 $n_2 = 756$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.75 [0.77, 2.76]	7.9% / 11.2%
重度ネグレクト	2.22 [1.38, 2.94]	17.9% / 10.3%
性的虐待	2.19 [0.39, 4.48]	1.8% / 1.2%
その他深刻な虐待	0.93 [0.42, 1.44]	8.0% / 8.3%
身体的虐待	0.75 [0.53, 0.94]	24.6% / 33.3%
ネグレクト	1.78 [1.46, 2.04]	57.9% / 32.4%
心理的虐待***	0.68 [0.44, 0.88]	18.4% / 27.8%
DV・面前暴力	1.08 [0.71, 1.39]	20.2% / 19.2%
養育上の不調	1.15 [1.03, 1.24]	78.1% / 67.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 1歳までに受けるべき予防接種の未接種がある
- ・ BCG、四種混合、麻疹・風疹混合、小児肺炎球菌、ヒブ(Hib)、水痘、B型肝炎、ロタなどの予防接種について、想定接種時期を終えているにも関わらず、1回以上の未接種がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 児童虐待等による死亡事例検証報告などを代表に、特に注意が必要とされる観点。
- ・ 当該状況に該当する場合、少なくとも子どもの健康・保健的観点から「養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
 子ども： 健診・予防接種

構成案
 妊娠期採用

構成案
 乳幼児期採用

機械学習
 予測貢献項目

【項目ID: Whole073(130)】
 子どもが、3〜4ヶ月健診、1歳6ヶ月健診、3歳児健診の
 いずれかを受けていない

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】子どもが、3〜4ヶ月健診、1歳6ヶ月健診、3歳児健診のいずれかを受けていない

養育上の不調と虐待
 項目該当 推定リスク比 **1.11**
 ベイズ推定法による95%確信区間 1.03—1.16

$$RR = \frac{104/112(92.9\%)}{632/758(83.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
 市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 870$ (項目該当率 12.9%)
 項目該当事例数 $n_1 = 112$ 項目非該当事例数 $n_2 = 758$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.97 [0.50, 1.40]	16.7% / 10.3%
重度ネグレクト	1.79 [1.08, 2.38]	10.0% / 6.2%
性的虐待	0.60 [0.01, 1.59]	0.0% / 1.5%
その他深刻な虐待	1.07 [0.48, 1.61]	10.0% / 4.1%
身体的虐待	0.74 [0.51, 0.93]	24.1% / 33.4%
ネグレクト	1.82 [1.51, 2.06]	58.9% / 32.3%
心理的虐待***	0.80 [0.54, 1.02]	21.3% / 27.3%
DV・面前暴力	0.99 [0.64, 1.30]	18.8% / 19.4%
養育上の不調	1.13 [1.00, 1.22]	76.8% / 67.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
 *** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 3〜4ヶ月健診、1歳6ヶ月健診、3歳児健診の いずれかを受けていない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 児童虐待等による死亡事例検証報告などを代表に、特に注意が必要とされる観点。
 ・ 当該状況に該当する場合、少なくとも子どもの健康・保健的観点から「養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
 子ども：慢性疾患・障害等

構成案
 妊娠期採用

構成案
 乳幼児期採用

機械学習
 予測貢献項目

【項目ID: Whole074(131)】
 子どもに知的障害(手帳の有無を問わない)または知的な発達の遅れがある(疑われる)

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に知的障害(手帳の有無を問わない)または知的な発達の遅れがある(疑われる)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.14**
 ベイズ推定法による95%確信区間 1.05—1.22

$$RR = \frac{64/65(98.5\%)}{96/112(85.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 127$ (項目該当率 36.7%)
 項目該当事例数 $n_1 = 65$ 項目非該当事例数 $n_2 = 112$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.44 [0.64, 2.29]	16.9% / 12.5%
重度ネグレクト	1.09 [0.50, 1.68]	15.4% / 15.2%
性的虐待	15.36 [0.03, 20.32]	0.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.49 [0.55, 2.54]	10.8% / 8.0%
身体的虐待	1.45 [0.99, 1.86]	44.6% / 31.2%
ネグレクト	1.56 [1.11, 1.96]	56.9% / 36.6%
心理的虐待***	1.11 [0.69, 1.48]	33.8% / 31.2%
DV・面前暴力	0.95 [0.49, 1.38]	20.0% / 22.3%
養育上の不調	1.41 [1.21, 1.58]	92.3% / 65.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
 *** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 知的障害や知的な発達の遅れがある(疑われる)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、子どもに知的障害や知的な発達の遅れがあること自体が、養育上の不調等の発生の直接的な原因と解釈されたり、当該状況に該当することによって当該アウトカムの発生が決定づけられることは決していない。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。子どもの特性に由来するニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
 子ども：慢性疾患・障害等

構成案
 妊娠期採用

構成案
 乳幼児期採用

機械学習
 予測貢献項目

【項目ID: Whole075(132)】
 子どもに身体障害や慢性的な身体疾患、
 医学的脆弱性(持病等)がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に身体障害や慢性的な身体疾患や医学的脆弱性(持病等)がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.04**
 ベイズ推定法による95%確信区間 0.89—1.13

$$RR = \frac{24/25(96\%)}{136/152(89.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性	
市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
 市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 177$ (項目該当率 14.1%)
 項目該当事例数 $n_1 = 25$ 項目非該当事例数 $n_2 = 152$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.59 [0.06, 1.27]	4.0% / 12.5%
重度ネグレクト	2.07 [0.84, 3.30]	24.0% / 12.5%
性的虐待	5.58 [0.46, 13.55]	4.0% / 1.3%
その他深刻な虐待	0.30 [0.01, 0.76]	0.0% / 12.5%
身体的虐待	0.89 [0.45, 1.28]	32.0% / 37.5%
ネグレクト	1.89 [1.36, 2.32]	76.0% / 39.5%
心理的虐待***	0.64 [0.25, 1.01]	20.0% / 34.9%
DV・面前暴力	1.50 [0.73, 2.18]	32.0% / 22.4%
養育上の不調	1.23 [1.00, 1.39]	88.0% / 69.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
 *** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ アレルギーや喘息、皮膚炎がある
 ・ 慢性的な身体疾患や医学的な脆弱性(持病等)がある
 ・ 身体障害がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、身体障害や慢性的な身体疾患、医学的脆弱性(持病等)こと自体が、養育上の不調等の発生の直接的な原因と解釈されたり、当該状況に該当することによって当該アウトカムの発生が決定づけられることは決していない。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。子どもの特性に由来するニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども：外傷・その他所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole076(133)】

子どもの身体に「止むを得ず発生した事故」と断定できない外傷等がある(原因不明・事故ではない可能性がある場合等)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の身体に、「止むを得ず発生した事故」と断定できない外傷等がある(原因不明・事故ではない可能性がある場合等)外傷や外傷痕がある(頭部顔面、口腔内およびその周辺の外傷や火傷、頸部、腋下、背部や臀部、陰部周辺、手背や足背などの怪我などで受傷しにくい部位の創傷や、特徴的な形状の外傷痕がある等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.12**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.02—1.18

$$RR = \frac{39/39(100\%)}{112/127(88.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	96%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 166$ (項目該当率 23.5%)
項目該当事例数 $n_1 = 39$ 項目非該当事例数 $n_2 = 127$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	10.12 [3.80, 18.38]	38.5% / 3.9%
重度ネグレクト	1.04 [0.31, 1.85]	10.3% / 11.8%
性的虐待	1.54 [0.02, 4.24]	0.0% / 1.6%
その他深刻な虐待	0.57 [0.07, 1.25]	2.6% / 8.7%
身体的虐待	3.59 [2.43, 4.63]	76.9% / 21.3%
ネグレクト	0.88 [0.50, 1.19]	33.3% / 39.4%
心理的虐待***	1.10 [0.59, 1.55]	30.8% / 29.1%
DV・面前暴力	1.33 [0.64, 1.99]	25.6% / 20.5%
養育上の不調	1.16 [0.93, 1.32]	82.1% / 70.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもに服などで隠れた部分の怪我がある、性器周辺の外傷、感染症
頭部顔面、口内や耳介、頸部、腋下、背部や臀部、陰部周辺、手背や足背など、
怪我などで受傷しにくい部位の創傷
- 特徴的な形状の傷やアザ、やけどの跡、瘢痕・古傷、噛み傷がある
- 不自然な外傷や打撲痕、やけどの跡などがある
- 止むを得ず発生した事故と断定できない上記様の外傷や、硬膜下血腫、頭蓋骨骨折等の既往

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、子どもの身体に外傷等があること自体が、直ちに養育上の不調や虐待等の発生を決定づけるものではないことに留意する必要がある。外傷の部位や様相を含め、他の複数の観点からのアセスメント情報を元に、介入や支援、あるいは他機関への相談の必要性を判断する必要がある。なお、数値上の結果から、当該観点への該当が、身体的虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。周辺情報等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども： 外傷・その他所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole077(134)】

子どもに不衛生な生活環境に由来すると考えられる
皮膚疾患、アレルギーや喘息、敗血症等がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に、不衛生な生活環境に由来すると考えられる皮膚疾患や皮膚トラブル、アレルギーや喘息、敗血症等がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.17**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.02—1.26

$$RR = \frac{20/20(100\%)}{129/157(82.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 97%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 177$ (項目該当率 11.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 20$ 項目非該当事例数 $n_2 = 157$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.51 [0.42, 2.68]	15.0% / 12.1%
重度ネグレクト	2.80 [1.15, 4.41]	30.0% / 11.5%
性的虐待	2.89 [0.31, 6.58]	5.0% / 3.2%
その他深刻な虐待	1.93 [0.52, 3.45]	15.0% / 9.6%
身体的虐待	0.86 [0.34, 1.34]	25.0% / 31.8%
ネグレクト	2.39 [1.69, 2.96]	80.0% / 32.5%
心理的虐待***	0.94 [0.38, 1.45]	25.0% / 29.3%
DV・面前暴力	0.46 [0.07, 0.94]	5.0% / 19.7%
養育上の不調	1.16 [0.86, 1.36]	80.0% / 66.9%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもに不衛生な生活環境に由来すると考えられる皮膚疾患、アレルギーや喘息、敗血症等がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、少なくとも健康・保健的視座から「養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども： 外傷・その他所見

構成案
妊娠期採用

☐

構成案
乳幼児期採用

☐

機械学習
予測貢献項目

☐

【項目ID: Whole078(135)】

子どもに1歳6ヶ月健診時点で虫歯があった

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に、1歳6ヶ月健診時点で虫歯があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.13**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.87—1.29

$$RR = \frac{13/14(92.9\%)}{80/102(78.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	94%
市区町村(児童虐待相談)	75%
児童相談所(児童虐待相談)	96%
総合的な組織*	90%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 116$ (項目該当率 12.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 14$ 項目非該当事例数 $n_2 = 102$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.50 [0.29, 2.90]	14.3% / 12.7%
重度ネグレクト	2.69 [0.88, 4.61]	28.6% / 11.8%
性的虐待	3.27 [0.07, 9.07]	0.0% / 2.0%
その他深刻な虐待	1.75 [0.37, 3.36]	14.3% / 10.8%
身体的虐待	1.68 [0.78, 2.51]	42.9% / 26.5%
ネグレクト	2.15 [1.21, 2.93]	64.3% / 29.4%
心理的虐待***	1.17 [0.35, 2.01]	21.4% / 21.6%
DV・面前暴力	2.14 [0.70, 3.59]	28.6% / 14.7%
養育上の不調	1.23 [0.87, 1.46]	85.7% / 66.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 1歳6ヶ月健診の受診時点で虫歯がある(未治療状態にある場合を含む)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、子どもに1歳6ヶ月健診時点で虫歯があること自体が、養育上の不調や虐待等の決定づけた
りするわけではないに留意する必要がある。他の複数の観点からのアセスメント情報を元に、支援等の必
要性を判断する必要がある。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評定領域

子ども：外傷・その他所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole079(136)】

子どもに心因性であることが懸念される
体調不良や身体症状等がある

推奨評定方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に、心因性であることが懸念される体調不良や身体症状等がある(反復する頭痛・腹痛の訴え、
便通異常、夜驚や悪夢、おむつが取れて以降の夜尿・遺尿・遺糞など)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.01**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.85—1.10

$$RR = \frac{19/20(95\%)}{135/149(90.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	90%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 169$ (項目該当率 11.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 20$ 項目非該当事例数 $n_2 = 149$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.34 [0.01, 0.89]	0.0% / 13.4%
重度ネグレクト	3.38 [1.22, 5.74]	25.0% / 8.1%
性的虐待	10.32 [1.29, 24.18]	10.0% / 1.3%
その他深刻な虐待	1.95 [0.48, 3.55]	15.0% / 9.4%
身体的虐待	1.64 [1.00, 2.15]	60.0% / 36.2%
ネグレクト	1.63 [0.84, 2.29]	45.0% / 28.2%
心理的虐待***	1.84 [0.96, 2.59]	45.0% / 24.8%
DV・面前暴力	1.14 [0.46, 1.77]	25.0% / 24.2%
養育上の不調	0.95 [0.69, 1.12]	75.0% / 77.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 不定愁訴、反復する頭痛や腹痛、便通などの体調不良を訴える
- 夜驚、悪夢、不眠がある
- 家庭内外で頭痛や腹痛、体調不良を頻回に訴える
(おむつが取れて以降) 夜尿・遺尿・遺糞がある
- チックや自傷行為など、背景ストレスが懸念される行動上の問題がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、少なくとも健康・保健的視座から「養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
 子ども： 外傷・その他所見

構成案
 妊娠期採用

構成案
 乳幼児期採用

機械学習
 予測貢献項目

【項目ID: Whole080(137)】
 子どもが生後2週間から5ヶ月ごろまでの間に、理由がわからず長時間泣いている、あやしても泣き止まない、夕方以降の泣きが激しいなど、持続的な泣きが生じた時期があった

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】対象児童が生後2週間から5ヶ月ごろまでの間に、理由がわからず長時間泣いている、あやしても泣き止まない、夕方以降の泣きが激しいなど、持続的な泣きが生じた時期があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.11**
 ベイズ推定法による95%確信区間 0.81—1.28

$$RR = \frac{8/8(100\%)}{46/56(82.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 64$ (項目該当率 12.5%)
 項目該当事例数 $n_1 = 8$ 項目非該当事例数 $n_2 = 56$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	4.57 [1.22, 8.58]	37.5% / 8.9%
重度ネグレクト	0.64 [0.02, 1.63]	0.0% / 16.1%
性的虐待	2.77 [0.07, 7.74]	0.0% / 3.6%
その他深刻な虐待	2.85 [0.61, 5.55]	25.0% / 10.7%
身体的虐待	2.02 [0.92, 2.95]	62.5% / 30.4%
ネグレクト	0.86 [0.20, 1.55]	25.0% / 35.7%
心理的虐待***	1.69 [0.68, 2.64]	50.0% / 30.4%
DV・面前暴力	1.52 [0.47, 2.54]	37.5% / 26.8%
養育上の不調	1.28 [0.94, 1.51]	100.0% / 71.4%

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	93%
市区町村(児童虐待相談)	78%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	71%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
 *** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 生後2週間から5ヶ月ごろまでの間に、理由がわからず長時間泣いている、あやしても泣き止まない、夕方以降の泣きが激しいなど、持続的な泣きが生じた時期があった

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、乳幼児の持続的な泣き(Purple Crying)があること自体が、直ちに養育上の不調等の発生を決定づけるものではないことには留意する必要がある。ただし、客観的視座から保護者の養育上の負担があることは容易に想像されるものであることから、当該負担に対するケアニーズがあると解釈される。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
子ども： 外傷・その他所見

構成案
妊娠期採用 ☐ 構成案
乳幼児期採用 ☐ 機械学習
予測貢献項目 ☐

【項目ID: Whole081(138)】
医療を必要とする状況ではないにもかかわらず、
子どもに頻繁な病院の受診がある

推奨評価方法
☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】 医療を必要とする状況ではないにもかかわらず、対象児童に頻繁な病院の受診がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 0.91

ベイズ推定法による95%確信区間 0.36—1.19

RR = $\frac{2/2(100\%)}{100/120(83.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

組織別の項目確認可能性	
市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 122$ (項目該当率 1.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 2$ 項目非該当事例数 $n_2 = 120$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.02 [0.06, 4.80]	0.0% / 12.5%
重度ネグレクト	5.07 [0.99, 9.24]	50.0% / 10.0%
性的虐待	10.20 [0.23, 26.68]	0.0% / 2.5%
その他深刻な虐待	274 [0.10, 6.41]	0.0% / 9.2%
身体的虐待	0.71 [0.02, 1.62]	0.0% / 35.8%
ネグレクト	1.85 [0.71, 2.52]	100.0% / 40.8%
心理的虐待***	2.15 [0.34, 3.79]	50.0% / 23.3%
DV・面前暴力	1.52 [0.06, 3.57]	0.0% / 16.7%
養育上の不調	1.03 [0.39, 1.36]	100.0% / 73.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 医療を必要とする状況ではないにもかかわらず、頻繁な病院の受診がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、医療を必要とする状況ではないにもかかわらず、子どもに頻繁な病院の受診があること自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因とは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、状況によっては、当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども： 発育所見

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole082(139)】

何らかの疾病に基づく場合を除いて、子どもの身長・体重、
頭位等の発育に関する遅れや課題となる所見がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に、何らかの疾病に基づく場合を除いて、身長・体重・頭位等の発育に関する遅れや課題となる所見がある(身長体重が95パーセンタイルもしくは2SDを下回る、身長体重の持続的な増加不良・停滞、増加傾向が不安定な経過がある、頭位の著しい上昇等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.07**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.84—1.18

$$RR = \frac{11/11(100\%)}{105/121(86.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	97%
児童相談所(児童虐待相談)	95%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 132$ (項目該当率 8.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 11$ 項目非該当事例数 $n_2 = 121$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.08 [0.26, 4.44]	9.1% / 7.4%
重度ネグレクト	2.83 [0.59, 5.44]	18.2% / 8.3%
性的虐待	9.50 [0.16, 24.87]	0.0% / 0.8%
その他深刻な虐待	0.95 [0.02, 2.50]	0.0% / 8.3%
身体的虐待	0.60 [0.14, 1.06]	18.2% / 38.8%
ネグレクト	1.98 [1.06, 2.71]	63.6% / 31.4%
心理的虐待***	1.14 [0.35, 1.92]	27.3% / 27.3%
DV・面前暴力	0.62 [0.09, 1.27]	9.1% / 24.8%
養育上の不調	1.17 [0.93, 1.30]	100.0% / 79.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 健診で身体発育の遅れ(低体重・低身長)が確認されている(何らかの疾病に基づく場合を除く)
- ・ 身長・体重の発育不良、体重の増減が不安定・一時的な停滞が観察される(身長体重の増加不良や、身長・体重が95パーセンタイルまたは2SDを下回る)
- ・ 児童に栄養障害がある、合理的な理由がない連続した体重の減少や増加不良が生じている

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が直ちに決定づけられるものではないことには留意する必要がある。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を一部予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
子ども：発達・行動所見

構成案
妊娠期採用 ☐ 構成案
乳幼児期採用 ☒ 機械学習
予測貢献項目 ☐

【項目ID: Whole083(140)】
子どもに、運動発達、認知発達、言語・社会性発達の
いずれかの遅れがみられる

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に、運動発達、認知発達、言語・社会性発達のいずれかに遅れがみられる

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.09**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.96—1.19

$$RR = \frac{83/93(89.2\%)}{73/89(82\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 182$ (項目該当率 51.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 93$ 項目非該当事例数 $n_2 = 89$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.41 [0.56, 2.38]	11.8% / 9.0%
重度ネグレクト	1.63 [0.63, 2.84]	11.8% / 7.9%
性的虐待	9.40 [0.16, 24.87]	2.3% / 3.4%
その他深刻な虐待	2.22 [0.83, 3.89]	14.0% / 6.7%
身体的虐待	1.32 [0.82, 1.80]	33.3% / 25.8%
ネグレクト	1.56 [0.99, 2.13]	39.8% / 25.8%
心理的虐待***	0.95 [0.59, 1.28]	28.0% / 30.3%
DV・面前暴力	0.77 [0.47, 1.06]	22.6% / 30.3%
養育上の不調	1.22 [1.00, 1.41]	76.3% / 62.9%

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 運動発達・言語発達・認知発達に遅れが見られる
- ごっこあそびなどの発達に遅れが見られる

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、運動発達、認知発達、言語・社会性発達のいずれかの遅れがみられること自体が、養育上の不調等の発生の直接的な原因と解釈されたり、当該状況に該当することによって当該アウトカムの発生が決定づけられることは決してない。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調の発生を予測するサインとなっていることが示されている。子どもの特性に由来するニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども：発達・行動所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole084(141)】

子どもに行動上の問題(注意集中困難、多動・衝動性、攻撃性、自傷、チック、年齢にそぐわない性的言動等)がある、疑われる

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に、行動上の問題(注意集中困難、多動・衝動性、攻撃性・他の子どもとのトラブル、自傷行為、チック、年齢にそぐわない性的言動、空想的な言動や行動等)がある、疑われる

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.12**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.01—1.21

$$RR = \frac{64/67(95.5\%)}{78/92(84.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 159$ (項目該当率 42.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 67$ 項目非該当事例数 $n_2 = 92$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	4.72 [0.93, 10.28]	9.0% / 2.2%
重度ネグレクト	0.77 [0.30, 1.27]	10.4% / 15.2%
性的虐待	0.71 [0.01, 1.93]	0.0% / 2.2%
その他深刻な虐待	1.07 [0.39, 1.81]	10.4% / 10.9%
身体的虐待	2.02 [1.24, 2.87]	43.3% / 21.7%
ネグレクト	1.03 [0.69, 1.33]	41.8% / 41.3%
心理的虐待***	1.71 [1.05, 2.32]	41.8% / 25.0%
DV・面前暴力	0.76 [0.38, 1.13]	17.9% / 25.0%
養育上の不調	1.22 [1.02, 1.39]	83.6% / 68.5%

** 項目該当あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 行動上の問題(注意集中困難、多動、攻撃性、自傷行為、チック等)がある
- ・ 過度に乱暴、弱いものに対して暴力を振るったりする、攻撃的
- ・ 頭を壁や床にぶつける、眉毛や髪の毛を抜くなどの自傷行為がある
- ・ 落ち着きがなく、常に動き回る。多動性・衝動性が認められる
- ・ 空想的な言動や自暴自棄な言動がある
- ・ 他の子どもとのトラブルが多い、他の子どもへの攻撃がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、子どもに行動上の問題(注意集中困難、多動・衝動性、攻撃性、自傷、チック、年齢にそぐわない性的言動等)がある、疑われること自体が、養育上の不調等の発生の本質的な原因と解釈されたり、当該状況に該当することによって当該アウトカムの発生が決定づけられることはない。ただし、健康・保健的視座から、当該子どもに対するケアが必要であることは明らかであると解釈される。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景や周辺のニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども：発達・行動所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole085(142)】

子どもに食行動上の懸念点がある(離乳食が進まない、
食べ物への執着が強い、偏食がある、過食・拒食・異食等)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に、食行動上の懸念点がある(離乳食が進まない、食べ物への執着が強い、偏食がある、ガツガツ食べる、過食・拒食・異食等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.08**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.93—1.18

$$RR = \frac{29/31(93.5\%)}{99/117(84.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	98%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 148$ (項目該当率 20.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 31$ 項目非該当事例数 $n_2 = 117$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.97 [0.18, 1.94]	6.5% / 9.4%
重度ネグレクト	4.85 [1.62, 8.74]	22.6% / 5.1%
性的虐待	1.21 [0.02, 3.29]	0.0% / 2.6%
その他深刻な虐待	1.42 [0.37, 2.68]	9.7% / 8.5%
身体的虐待	0.58 [0.22, 0.93]	16.1% / 31.6%
ネグレクト	1.59 [0.97, 2.12]	48.4% / 30.8%
心理的虐待***	0.89 [0.43, 1.30]	25.8% / 30.8%
DV・面前暴力	0.82 [0.27, 1.40]	12.9% / 18.8%
養育上の不調	1.16 [0.91, 1.35]	80.6% / 68.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 食べものへの執着が強い、過度に食べる
- ・ 食行動上の問題がある(過食・拒食・異食等)
- ・ 離乳食や食が進まない
- ・ 偏食がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。数値上の結果から、当該観点への該当が、一部虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども：発達・行動所見

構成案
妊娠期採用

☐

構成案
乳幼児期採用

☐

機械学習
予測貢献項目

☐

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【項目ID: Whole086(143)】

子どもが人や物に関心を示さない、無関心な様子がある

【調査提示文言】対象児童が、人や物に関心を示さない、無関心な様子がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.97**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.69—1.12

$$RR = \frac{9/10(90\%)}{105/121(86.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	98%
市区町村(児童虐待相談)	95%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 131$ (項目該当率 7.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 10$ 項目非該当事例数 $n_2 = 121$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.27 [0.64, 3.93]	30.0% / 14.9%
重度ネグレクト	1.28 [0.16, 2.65]	10.0% / 13.2%
性的虐待	4.97 [0.09, 13.58]	0.0% / 1.7%
その他深刻な虐待	2.73 [0.58, 5.26]	20.0% / 9.1%
身体的虐待	1.19 [0.44, 1.86]	40.0% / 35.5%
ネグレクト	1.64 [0.73, 2.41]	50.0% / 30.6%
心理的虐待***	0.63 [0.08, 1.27]	10.0% / 26.4%
DV・面前暴力	2.82 [1.02, 4.57]	40.0% / 14.9%
養育上の不調	0.99 [0.57, 1.28]	70.0% / 67.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもが人や物に関心を示さない、無関心な様子がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、**子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではない**ことには留意する必要がある。数値上の結果から、当該観点への該当が、一部アウトカムの発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども： 表情・態度・印象

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole087(144)】

子どもに元気・気力がない、空腹でも泣かない、表情が
優れない、しかめ面や状況に合わない笑いがある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に元気・気力がない、空腹でも泣かない、表情が優れない(無表情、凍りついた目、笑わない、不安や怯えがある、うつむいて視線が合わない、うつろな凝視等)、しかめ面や状況に合わない笑いがある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.09**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.90—1.18

$$RR = \frac{15/15(100\%)}{113/130(86.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	97%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 145$ (項目該当率 10.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 15$ 項目非該当事例数 $n_2 = 130$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.83 [0.52, 3.24]	20.0% / 13.1%
重度ネグレクト	1.01 [0.12, 2.16]	6.7% / 11.5%
性的虐待	7.65 [0.08, 19.61]	0.0% / 0.8%
その他深刻な虐待	3.07 [0.76, 5.65]	20.0% / 7.7%
身体的虐待	1.29 [0.58, 1.91]	40.0% / 32.3%
ネグレクト	1.00 [0.46, 1.45]	40.0% / 41.5%
心理的虐待***	1.65 [0.70, 2.51]	40.9% / 25.4%
DV・面前暴力	2.55 [0.95, 4.13]	33.3% / 13.8%
養育上の不調	1.04 [0.70, 1.27]	73.3% / 68.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 表情がさえない、視線を合わせない、異常におとなしい
- ・ 無表情、笑わない、些細なことで激しく泣く、うつむいて視線が合わない、不安や怯えた様子などの情緒面での心配がある、受け答えがすくない、気力がない
- ・ うつろな凝視がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。
- ・ 数値上の結果は、当該観点単体での該当の有無によって、アウトカムの発生を検出することが困難であることを示唆するものとなった。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども： 表情・態度・印象

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole088(145)】

子どもが周囲の大人(養育者を含む)の言動や身体接触到過敏に反応する、年齢相応ではない大人びた態度、頻繁な謝罪をする

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に、周囲の大人(養育者を含む)の言動や身体接触到過敏に反応する様子がある(手を挙げただけで顔や頭をかばう、触れただけで身を固くする、服を脱ぐことを極端に嫌がる、大きな声や音に過敏に反応する等)、または、年齢相応ではない妙に丁寧な言葉遣い、大人びた態度、頻繁な謝罪をする

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.02**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.84—1.11

$$RR = \frac{18/19(94.7\%)}{113/126(89.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	95%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 145$ (項目該当率 13.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 19$ 項目非該当事例数 $n_2 = 126$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.01 [0.98, 5.32]	21.1% / 7.9%
重度ネグレクト	1.21 [0.25, 2.32]	10.5% / 11.9%
性的虐待	119.18 [1.18, 134.07]	5.3% / 0.0%
その他深刻な虐待	3.84 [1.09, 6.94]	21.1% / 6.3%
身体的虐待	1.48 [0.86, 1.98]	52.6% / 35.7%
ネグレクト	1.05 [0.52, 1.54]	36.8% / 36.5%
心理的虐待***	2.59 [1.46, 3.58]	57.9% / 22.2%
DV・面前暴力	2.70 [1.30, 4.07]	42.1% / 15.9%
養育上の不調	1.13 [0.82, 1.33]	78.9% / 68.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 親や大人の顔色を伺う、親の前で怯えた様子がある
- 子どもが養育者や周囲の大人の言動に過敏に反応する、警戒心が強い
- 音や振動に過剰に反応する、手を挙げただけで顔や頭をかばう
- 子どもが些細な身体接触でも身を固くする、服を脱ぐことを極端に嫌がる
- 大人に対して過度に緊張する

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。ただし、客観的な視座から、当該状況への該当の背景に何らかの課題があるものと想定することは自然な解釈であると言える。数値上の結果から、当該観点への該当が、一部虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども： 表情・態度・印象

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole089(146)】

子どもに情緒的な混乱が見受けられる
(理由がわからず激しくぐずる、暴れる、癇癪をおこす)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に、情緒的な混乱が見受けられる(理由がわからず激しくぐずる、暴れる、癇癪をおこす)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.18**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.05—1.27

$$RR = \frac{41/42(97.6\%)}{95/116(81.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	93%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 158$ (項目該当率 26.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 42$ 項目非該当事例数 $n_2 = 116$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.93 [0.74, 3.27]	16.7% / 9.5%
重度ネグレクト	2.06 [0.96, 3.20]	23.8% / 12.1%
性的虐待	64.6 [0.54, 60.37]	2.4% / 0.0%
その他深刻な虐待	4.46 [1.49, 7.98]	21.4% / 5.2%
身体的虐待	2.20 [1.42, 2.91]	54.8% / 25.0%
ネグレクト	1.24 [0.80, 1.63]	45.2% / 37.1%
心理的虐待***	2.26 [1.42, 3.03]	52.4% / 23.3%
DV・面前暴力	1.32 [0.62, 1.99]	21.4% / 17.2%
養育上の不調	1.18 [0.96, 1.34]	81.0% / 68.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 理由がわからずぐずったりすることが多い
- ぐずったり暴れたりする、かんしゃくを起こす

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、**子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではない**ことには留意する必要がある。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども： 表情・態度・印象

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole090(147)】

子どもが家の話をしたがない、食事や生活、
怪我のことについて話す時に表情を変える

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童が、家の話をしたがない、食事や生活、怪我のことについて話す時に表情を変える

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.14**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.97—1.23

$$RR = \frac{18/18(100\%)}{110/131(84\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	93%
市区町村(児童虐待相談)	92%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	93%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 149$ (項目該当率 12.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 18$ 項目非該当事例数 $n_2 = 131$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	4.93 [2.11, 7.84]	44.4% / 9.2%
重度ネグレクト	2.91 [1.18, 4.64]	33.3% / 12.2%
性的虐待	7.30 [0.10, 18.27]	0.0% / 0.8%
その他深刻な虐待	0.50 [0.01, 1.28]	0.0% / 9.9%
身体的虐待	2.27 [1.29, 3.11]	55.6% / 24.4%
ネグレクト	1.69 [0.94, 2.31]	55.6% / 32.8%
心理的虐待***	1.49 [0.62, 2.27]	33.3% / 23.7%
DV・面前暴力	1.47 [0.60, 2.30]	27.8% / 20.6%
養育上の不調	1.20 [0.89, 1.40]	83.3% / 67.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 家の話をしたがない
- ・ 食事や生活、家の状況、怪我のことについて話す時に表情を変える

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、当該状況に該当することによって、**子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではない**ことには留意する必要がある。ただし、客観的な視座から、当該状況への該当の背景に何らかの課題があるものと想定することは自然な解釈であると言える。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

9



推獎評定方法

☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

周囲の大人に対して誰にでもベタベタする、過度なスキンシップを求める、保育士等の独占行動がある

【調査提示文言】対象児童が、周囲の大人に対して誰にでもベタベタする、過度なスキンシップを求める、保育士等の独占行動がある

養育上の不調と虐待 —————

項目該当 推定リスク比 **1.08**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.97—1.23

$$RR = \frac{29/29(100\%)}{81/89(91\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	95%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 118$ (項目該当率 24.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 29$ 項目非該当事例数 $n_2 = 89$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.96 [0.19, 1.94]	6.9% / 10.1%
重度ネグレクト	0.87 [0.17, 1.70]	6.9% / 11.2%
性的虐待	6.22 [0.30, 16.59]	3.4% / 1.1%
その他深刻な虐待	0.84 [0.22, 1.52]	10.3% / 15.7%
身体的虐待	1.24 [0.71, 1.70]	44.8% / 37.1%
ネグレクト	1.15 [0.70, 1.53]	48.3% / 42.7%
心理的虐待***	1.28 [0.65, 1.86]	34.5% / 28.1%
DV・面前暴力	1.82 [0.80, 2.81]	31.0% / 18.0%
養育上の不調	1.28 [1.05, 1.47]	89.7% / 68.5%

※※ 項目該当 あり/なし 別でのアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 誰にでもベタベタする、過度なスキンシップを求める
- ・ 保育士等の独占行動がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども：保護者への態度

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole092(149)】

養育者を困らせる行動の反復、エスカレートする繰り返しの
行為、挑発するような行動がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に、養育者を困らせる行動の反復、エスカレートする繰り返しの行為、挑発するような行動がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.09**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.01—1.15

$$RR = \frac{42/42(100\%)}{94/104(90.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	96%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	95%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 146$ (項目該当率 28.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 42$ 項目非該当事例数 $n_2 = 104$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.41 [0.77, 4.33]	14.3% / 6.7%
重度ネグレクト	1.19 [0.45, 1.99]	14.3% / 13.5%
性的虐待	1.23 [0.02, 3.45]	0.0% / 1.9%
その他深刻な虐待	0.86 [0.22, 1.59]	7.1% / 10.6%
身体的虐待	2.29 [1.42, 3.10]	50.0% / 22.1%
ネグレクト	1.11 [0.71, 1.44]	45.2% / 41.3%
心理的虐待***	1.50 [0.87, 2.07]	38.1% / 26.0%
DV・面前暴力	0.63 [0.23, 1.04]	11.9% / 22.1%
養育上の不調	1.18 [0.99, 1.32]	88.1% / 74.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 登園しぶりがある、登園時に保護者を困らせる行動がある
- ・ 降園時に保護者を困らせる行動がある
- ・ 養育者を困らせる繰り返しの(またはエスカレートする)行為や、
養育者を挑発するような行動がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども：保護者への態度

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole093(150)】

子どもが保護者に対して、萎縮する、怯える、過度に従順、なつかない、「自分は悪い子」など自己卑下や罪悪感を示す

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童が、養育者に対して、萎縮する、怯える、過度に従順、避ける、なつかない、「自分は悪い子」などの自己卑下や罪悪感を示す

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.12**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.98—1.23

$$RR = \frac{30/31(96.8\%)}{72/85(84.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	98%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	90%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 116$ (項目該当率 26.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 31$ 項目非該当事例数 $n_2 = 85$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.99 [1.05, 5.23]	22.6% / 8.2%
重度ネグレクト	0.86 [0.16, 1.71]	6.5% / 10.6%
性的虐待	5.04 [0.28, 12.24]	3.2% / 1.2%
その他深刻な虐待	2.64 [0.98, 4.61]	22.6% / 9.4%
身体的虐待	2.27 [1.40, 3.08]	61.3% / 27.1%
ネグレクト	1.21 [0.71, 1.66]	41.9% / 35.3%
心理的虐待***	4.03 [2.03, 6.16]	51.6% / 12.9%
DV・面前暴力	1.13 [0.38, 1.93]	16.1% / 16.5%
養育上の不調	1.28 [1.03, 1.47]	87.1% / 67.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 保護者に対して、萎縮する、怯える、過度に従順、なつかない、「自分は悪い子」など自己卑下や罪悪感を示す
- 年齢相応ではない妙に丁寧な言葉や、大人びた態度を見せる

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、**子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではない**ことには留意する必要がある。ただし、客観的な視座から、当該状況への該当の背景に何らかの課題があるものと想定することは自然な解釈であると言える。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域 子ども：保護者への態度

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole094(151)】
子どもが不自然に保護者と密着している、
保護者との異常なべたつきがある

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】対象児童が不自然に養育者と密着している、養育者との異常なべたつきがある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 1.03

ベイズ推定法による95%確信区間 0.84—1.12

RR = $\frac{12/12(100\%)}{141/156(90.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 168$ (項目該当率 7.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 12$ 項目非該当事例数 $n_2 = 156$

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.69 [0.34, 3.13]	16.7% / 12.8%
重度ネグレクト	2.25 [0.63, 3.95]	25.0% / 12.8%
性的虐待	22.38 [3.92, 48.14]	25.0% / 1.3%
その他深刻な虐待	2.95 [1.06, 4.76]	33.3% / 12.2%
身体的虐待	1.52 [0.80, 2.08]	58.3% / 37.8%
ネグレクト	1.33 [0.65, 1.88]	50.9% / 37.8%
心理的虐待***	2.20 [1.24, 2.94]	66.7% / 29.5%
DV・面前暴力	2.69 [1.12, 4.12]	41.7% / 16.0%
養育上の不調	1.25 [0.99, 1.39]	100.0% / 75.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 不自然に子どもが保護者と密着している
- 養育者が異常に子どもにベタついている

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。数値上の結果から、当該観点への該当が、いくつかの種別の虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども： 援助要請・保護希求

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole095(152)】

子どもが保護や助けを求める、帰宅不安や恐怖を示す、不安や恐怖を背景に「家に帰りたくない」等と訴える

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童が保護や助けを求める、帰宅不安や恐怖を示す、不安や恐怖を背景に「家に帰りたくない」等と訴える

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.10**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.92—1.20

$$RR = \frac{14/14(100\%)}{121/141(85.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	93%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 155$ (項目該当率 9.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 14$ 項目非該当事例数 $n_2 = 141$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	4.77 [1.95, 7.67]	42.9% / 9.2%
重度ネグレクト	1.56 [0.31, 2.95]	14.3% / 12.1%
性的虐待	8.88 [0.76, 20.74]	7.1% / 1.4%
その他深刻な虐待	4.47 [1.13, 8.37]	21.4% / 5.7%
身体的虐待	2.67 [1.71, 3.48]	78.6% / 28.4%
ネグレクト	1.12 [0.52, 1.62]	42.9% / 39.0%
心理的虐待***	2.42 [1.30, 3.39]	57.1% / 23.4%
DV・面前暴力	1.72 [0.60, 2.77]	28.6% / 18.4%
養育上の不調	1.20 [0.88, 1.41]	85.7% / 68.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもが保護や助けを求めている
- 子どもが帰宅不安や恐怖を訴える

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 子ども本人による援助要請や保護の訴えは、児童虐待等による死亡事例検証報告の結果等を踏まえた各種資料において、特に留意が必要とされる観点となっている。
- 当該状況が確認された場合、客観的視座から明らかに「養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域 子ども：生活所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole096(153)】

子どもの衣服や身なりが不衛生、週明け等の頻繁なおむつかぶれがある、持ち物が揃っていない、忘れ物が多い

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の衣服や身なりが不衛生、週明け等の頻繁なおむつかぶれがある、持ち物が揃っていない、忘れ物が多い

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.19**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.07—1.28

$$RR = \frac{52/53(98.1\%)}{82/100(82\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	96%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 153$ (項目該当率 34.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 53$ 項目非該当事例数 $n_2 = 100$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.44 [0.48, 2.53]	11.3% / 9.0%
重度ネグレクト	2.32 [1.11, 3.64]	24.5% / 11.0%
性的虐待	0.97 [0.02, 2.71]	0.0% / 2.0%
その他深刻な虐待	1.85 [0.44, 3.65]	7.5% / 5.0%
身体的虐待	1.04 [0.59, 1.44]	30.2% / 30.0%
ネグレクト	2.45 [1.64, 3.19]	66.0% / 27.0%
心理的虐待***	0.99 [0.51, 1.46]	22.6% / 24.0%
DV・面前暴力	1.38 [0.73, 2.03]	26.4% / 20.0%
養育上の不調	1.37 [1.13, 1.57]	86.8% / 63.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 季節外れの服装、いつも同じ服を着ている
- 身なりが清潔ではない、異臭やシラミの発生、複数日にわたって入浴していない様子がある
- 持ちものが揃わない、忘れ物が多い
- 持ち物が不衛生であることが多い
- 皮膚や頭皮の汚れがある
- オムツかぶれが(週明け等)頻繁に発生している

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。ただし、客観的な視座から、当該状況への該当の背景に何らかのケアニーズがあるものと想定することは自然な解釈であると言える。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域 子ども：生活所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole097(154)】
子どもの生活習慣が大きく乱れている
(昼夜逆転、深夜まで起きている等)

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の生活習慣が大きく乱れている(昼夜逆転、深夜まで起きている等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 1.06

ベイズ推定法による95%確信区間 0.95—1.13

RR = $\frac{37/38(97.4\%)}{102/113(90.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

組織別の項目確認可能性	
市区町村(母子保健主管)	98%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	96%
総合的な組織*	94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 151$ (項目該当率 25.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 38$ 項目非該当事例数 $n_2 = 113$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.48 [0.06, 1.05]	2.6% / 10.6%
重度ネグレクト	3.17 [1.29, 5.38]	23.7% / 8.0%
性的虐待	2.75 [0.32, 7.31]	0.0% / 0.9%
その他深刻な虐待	1.43 [0.24, 2.95]	5.3% / 5.3%
身体的虐待	0.28 [0.08, 0.48]	7.9% / 36.3%
ネグレクト	2.43 [1.69, 3.09]	73.7% / 30.1%
心理的虐待***	0.74 [0.33, 1.12]	18.4% / 27.4%
DV・面前暴力	0.61 [0.22, 0.98]	13.2% / 24.8%
養育上の不調	1.29 [1.08, 1.46]	89.5% / 68.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

生活習慣が大きく乱れている(昼夜逆転、深夜まで起きている等)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

前提として、当該状況に該当することによって、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。ただし、少なくとも健康・保健的視座から、当該状況への該当の背景があるものと想定することは自然な解釈であると言える。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども：生活所見

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole098(155)】

登園時間がバラバラ、保育園・幼稚園等を欠席しがち、突然の欠席・連続した欠席や遅刻等がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の登園時間がバラバラ、保育園・幼稚園等を欠席しがち、理由のはっきりしない園の突然の欠席・連続した欠席や遅刻等がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 1.08

ベイズ推定法による95%確信区間 0.97—1.17

$$RR = \frac{50/53(94.3\%)}{89/103(86.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 156$ (項目該当率 34.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 53$ 項目非該当事例数 $n_2 = 103$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.23 [0.56, 1.92]	18.9% / 16.5%
重度ネグレクト	2.32 [0.96, 3.87]	18.9% / 8.7%
性的虐待	2.85 [0.32, 6.61]	3.8% / 1.9%
その他深刻な虐待	1.58 [0.72, 2.49]	18.9% / 12.6%
身体的虐待	0.97 [0.58, 1.33]	32.1% / 34.0%
ネグレクト	2.55 [1.71, 3.33]	64.2% / 25.2%
心理的虐待***	1.07 [0.62, 1.50]	30.2% / 29.1%
DV・面前暴力	1.23 [0.67, 1.76]	26.4% / 22.3%
養育上の不調	1.30 [1.08, 1.48]	84.9% / 65.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 登園時間がバラバラ、欠席しがちである
- 理由のはっきりしない欠席・遅刻・早退が多い、連絡のない欠席を繰り返す
- 保育園・幼稚園等に来なくなった等の変化があった
- 連絡や理由がなく登園しない状態が3日以上続いている
- 保育園・幼稚園等への不自然な遅刻や理由の明確でない欠席が頻繁に生じている
- 休園や欠席の後の子どもの状態・表情が普段と異なっている

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。ただし、客観的な視座から、当該状況への該当の背景に何らかのケアニーズがあるものと想定することは自然な解釈であると言える。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

子ども：分離・係属歴

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole099(156)】

子どもに保護者との長期分離歴がある、施設入所や他の家に預けるなどの一定期間以上の分離がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童に、養育者との長期分離歴がある、施設入所や他の家に預けるなどの一定期間以上の分離がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.21**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.06—1.31

$$RR = \frac{40/41(97.6\%)}{87/109(79.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 90%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 150$ (項目該当率 27.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 41$ 項目非該当事例数 $n_2 = 109$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	3.19 [1.23, 5.52]	22.0% / 7.3%
重度ネグレクト	2.83 [1.13, 4.69]	22.0% / 8.3%
性的虐待	2.65 [0.03, 7.02]	0.0% / 0.9%
その他深刻な虐待	1.97 [0.69, 3.44]	14.6% / 8.3%
身体的虐待	1.79 [1.12, 2.40]	48.8% / 27.5%
ネグレクト	1.61 [1.05, 2.09]	51.2% / 32.1%
心理的虐待***	1.71 [0.94, 2.45]	36.6% / 22.0%
DV・面前暴力	1.28 [0.55, 2.01]	19.5% / 16.5%
養育上の不調	1.49 [1.24, 1.69]	92.7% / 61.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもに保護者との長期の分離歴がある
- 施設入所や他の家に預けるなどの一定期間以上の分離がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、子どもと保護者の長期分離それ自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたりするものとは解釈されない。分離の背景事情や、子どもと保護者の情緒的な関係等を鑑みて、背景にあるニーズの把握など、必要なアセスメントにつなげるという視点から援用されたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域 子ども：分離・係属歴

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole100(157)】
NICU入院など、出産後に一定期間の親子分離歴がある

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】NICU入院など、出産後に一定期間の親子分離歴がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.99**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.83—1.08

RR = $\frac{23/25(92\%)}{113/125(90.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	96%
市区町村(児童虐待相談)	87%
児童相談所(児童虐待相談)	80%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 150$ (項目該当率 16.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 25$ 項目非該当事例数 $n_2 = 125$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.45 [0.36, 2.26]	12.0% / 10.4%
重度ネグレクト	2.49 [1.01, 4.02]	28.0% / 12.0%
性的虐待	4.59 [0.06, 12.61]	0.0% / 0.8%
その他深刻な虐待	0.71 [0.08, 1.48]	4.0% / 10.4%
身体的虐待	0.87 [0.41, 1.28]	28.0% / 34.4%
ネグレクト	1.45 [0.94, 1.89]	56.0% / 38.4%
心理的虐待***	0.73 [0.28, 1.17]	20.0% / 30.4%
DV・面前暴力	1.10 [0.51, 1.64]	28.0% / 27.2%
養育上の不調	1.07 [0.81, 1.24]	80.0% / 73.6%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ NICU入院など、出産後に一定期間の親子分離歴がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、子どもと保護者の分離それ自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたりするものとは解釈されない。分離の背景事情や、子どもと保護者の情緒的な関係等を鑑みて、背景にあるニーズの把握など、必要なアセスメントにつなげるという視点から援用されたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

きょうだい：個人所見

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole101(158)】

きょうだいに重度の疾病や障害、慢性疾患等がある、
またはきょうだいの育児に対する困難感や育てにくさがある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】きょうだいに重度の疾病や障害、慢性疾患等がある、またはきょうだいの育児に対する困難感や育てにくさがある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.13**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.03—1.21

$$RR = \frac{37/37(100\%)}{89/102(87.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	92%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 139$ (項目該当率 26.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 37$ 項目非該当事例数 $n_2 = 102$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.06 [0.25, 2.02]	8.1% / 9.8%
重度ネグレクト	2.34 [0.77, 4.13]	16.2% / 7.8%
性的虐待	5.00 [0.03, 12.39]	2.7% / 1.0%
その他深刻な虐待	0.26 [0.01, 0.66]	0.0% / 9.8%
身体的虐待	1.79 [1.15, 2.39]	54.1% / 30.4%
ネグレクト	1.79 [1.19, 2.32]	59.5% / 33.3%
心理的虐待***	1.50 [0.77, 2.21]	29.7% / 20.6%
DV・面前暴力	1.43 [0.51, 1.64]	29.7% / 21.6%
養育上の不調	1.19 [0.98, 1.35]	86.5% / 71.6%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- きょうだいに重度の疾病や障害、慢性疾患等がある
- きょうだいに育てにくさ・育児困難感がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、**子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではない**ことには留意する必要がある。ただし、客観的な視座から、当該状況への該当の背景に何らかのケアニーズがあるものと想定することは自然な解釈であると言える。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域 きょうだい：個人所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole102(159)】

きょうだいの発育が年齢相応ではない、きょうだいに行動上の問題や社会性の発達に関する課題がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】きょうだいの発育が年齢相応ではない、きょうだいに行動上の問題や社会性の発達に関する課題がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.10**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.98—1.2

$$RR = \frac{42/44(95.5\%)}{72/84(85.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 128$ (項目該当率 34.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 44$ 項目非該当事例数 $n_2 = 84$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.11 [0.37, 1.96]	11.4% / 11.9%
重度ネグレクト	2.66 [1.00, 4.57]	20.5% / 8.3%
性的虐待	1.80 [0.03, 4.90]	0.0% / 1.2%
その他深刻な虐待	1.22 [0.39, 2.19]	11.4% / 10.7%
身体的虐待	1.40 [0.85, 1.93]	40.9% / 29.8%
ネグレクト	0.87 [0.48, 1.22]	29.5% / 35.7%
心理的虐待***	1.02 [0.59, 1.39]	34.1% / 34.5%
DV・面前暴力	1.39 [0.67, 2.12]	25.0% / 19.0%
養育上の不調	1.10 [0.82, 1.32]	68.2% / 61.9%

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	98%
市区町村(児童虐待相談)	93%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- きょうだいの発達が年齢相応でない
- きょうだいの人見知りが激しい
- きょうだいに指示が入らず、動き回る、落ち着きがない
- きょうだいが他の子と遊べない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。
- 解析の結果、当該項目単体で、養育上の不調等の検出は困難であることが示されている。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

きょうだい：経過情報

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole103(160)】

きょうだいに被虐待歴がある、要支援・フォロー等の経過がある、虐待や養育困難による児童相談所等への係属歴がある、施設入所歴等の公的保護歴、長期の親子分離歴がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】きょうだいに被虐待歴がある、要支援・フォロー等の経過がある、虐待や養育困難による児童相談所等への係属歴がある、施設入所歴等の公的保護歴、長期の親子分離歴がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.12**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.00—1.22

$$RR = \frac{62/65(95.4\%)}{63/74(85.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	98%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 139$ (項目該当率 46.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 65$ 項目非該当事例数 $n_2 = 74$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.12 [0.43, 1.87]	12.3% / 12.2%
重度ネグレクト	1.59 [0.60, 2.77]	13.8% / 9.5%
性的虐待	2.34 [0.13, 5.62]	1.5% / 1.4%
その他深刻な虐待	1.29 [0.38, 2.41]	9.2% / 8.1%
身体的虐待	1.76 [1.11, 2.40]	44.6% / 25.7%
ネグレクト	1.68 [1.10, 2.24]	49.2% / 29.7%
心理的虐待***	0.97 [0.58, 1.37]	29.2% / 31.1%
DV・面前暴力	2.75 [1.32, 4.34]	32.3% / 12.2%
養育上の不調	1.19 [0.97, 1.38]	78.5% / 66.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 過去きょうだいに養育上の問題が発生している(虐待等)
- きょうだいに虐待の疑いがある
- きょうだいに公的保護歴、長期的な施設入所がある(現在を含む)
- きょうだいに虐待係属歴がある、要支援(フォロー)の経過がある
- 過去に他家に長期間預けていた

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。ただし、客観的な視座から、当該状況への該当の背景に何らかのケアニーズがあると想定することは自然な解釈であると言える。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

きょうだい：経過情報

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole104(161)】

きょうだいの死亡歴、過去の不審死、原因不明の事故死、突然死がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】きょうだいの死亡歴、過去の不審死、原因不明の事故死、突然死がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.89**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.33—1.17

$$RR = \frac{2/2(100\%)}{112/133(84.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 95%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】組入事例数 $N = 135$ (項目該当率 1.5%)
項目該当事例数 $n_1 = 2$ 項目非該当事例数 $n_2 = 133$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.99 [0.07, 4.71]	0.0% / 12.8%
重度ネグレクト	3.69 [0.69, 6.41]	50.0% / 13.5%
性的虐待	16.33 [0.38, 43.22]	0.0% / 1.5%
その他深刻な虐待	2.06 [0.07, 4.80]	0.0% / 12.0%
身体的虐待	0.79 [0.03, 1.85]	0.0% / 31.6%
ネグレクト	1.75 [0.33, 3.01]	50.0% / 28.6%
心理的虐待***	0.91 [0.03, 2.12]	0.0% / 27.8%
DV・面前暴力	1.34 [0.04 3.12]	0.0% / 18.8%
養育上の不調	1.06 [0.44, 1.40]	100.0% / 71.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- きょうだいに不審死、原因不明の事故死、突然死がある
- きょうだいが過去に死亡している

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。ただし、客観的な視座から、特に原因不明の場合や虐待等による死亡歴がある場合において、特段の留意が必要であると考えられる。状況に応じて、慎重なアセスメントを実施することが望ましいと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域 きょうだい：経過情報

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole105(162)】
きょうだいが過去に必要な健診・予防接種を受けていない

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】きょうだいが過去に必要な健診・予防接種を受けていない

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 1.05

ベイズ推定法による95%確信区間 0.87—1.16

RR = $\frac{26/29(89.7\%)}{109/130(83.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	97%
児童相談所(児童虐待相談)	97%
総合的な組織*	92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 159$ (項目該当率 18.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 29$ 項目非該当事例数 $n_2 = 130$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.05 [0.29, 1.91]	10.3% / 12.3%
重度ネグレクト	5.30 [2.10, 9.09]	31.0% / 6.2%
性的虐待	4.39 [0.32, 10.62]	3.4% / 1.5%
その他深刻な虐待	1.17 [0.20, 2.38]	6.9% / 8.5%
身体的虐待	1.25 [0.73, 1.70]	41.4% / 33.8%
ネグレクト	2.48 [1.62, 3.22]	65.5% / 26.2%
心理的虐待***	1.08 [0.60, 1.48]	37.9% / 36.2%
DV・面前暴力	0.99 [0.39, 1.58]	20.7% / 23.1%
養育上の不調	1.17 [0.93, 1.35]	82.8% / 69.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ きょうだいが過去に必要な健診・予防接種を受けていない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 児童虐待等による死亡事例検証報告などを代表に、特に注意が必要とされる観点。

・ 当該状況に該当する場合、その背景によっては、対象となる子どもに対する健康・保健的課題の発生が懸念されるものと解釈されうる。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、ネグレクトの発生を予測するサインとなっていることが示されている。背景事情やニーズを総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

9



きょうだい、子どもの養育や家族の世話・家事を担っている(ヤングケアラー)

☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 1.08

ベイズ推定法による95%確信区間 0.94—1.15

$$RR = \frac{21/21(100\%)}{143/160(89.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 181$ (項目該当率 11.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 21$ 項目非該当事例数 $n_2 = 160$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.35 [0.01, 0.89]	0.0% / 12.5%
重度ネグレクト	1.96 [0.63, 3.37]	19.0% / 11.2%
性的虐待	1.15 [0.03, 2.90]	0.0% / 3.8%
その他深刻な虐待	1.01 [0.13, 2.18]	4.8% / 8.8%
身体的虐待	0.62 [0.21, 1.02]	19.0% / 35.0%
ネグレクト	1.73 [1.06, 3.22]	61.9% / 35.6%
心理的虐待***	0.86 [0.38, 1.29]	28.6% / 35.6%
DV・面前暴力	1.31 [0.51, 2.08]	23.8% / 20.0%
養育上の不調	1.13 [0.88, 1.29]	85.7% / 73.8%

** 項目該当 あり/なし 別でのアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ きょうだい、子どもの養育や家族の世話・家事を担っている(ヤングケアラー)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・当該状況に該当する場合、客観的視座から「養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調等の発生を示す、あるいはそれを予測するサインとなっている。背景事情やニーズを総合的に把握し、必要な支援や介入につなげる必要があるものと考えられる。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域 きょうだい：養育・生活所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole107(164)】

きょうだいに保護者が厳しく叱ったり罵ったりする、しつけが厳しい、きょうだいが保護者に対して怯えた様子を見せる

推奨評価方法

☐ 該当

☐ 非該当

☐ 不明

【調査提示文言】きょうだい児に対して、養育者が厳しく叱ったり罵ったりする様子がある、しつけが厳しい、きょうだいが養育者に対して怯えた様子を見せる

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.13**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.00—1.22

$$RR = \frac{44/46(95.7\%)}{75/89(84.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	92%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 135$ (項目該当率 34.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 46$ 項目非該当事例数 $n_2 = 89$

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.32 [0.47, 2.29]	13.0% / 11.2%
重度ネグレクト	3.77 [1.23, 6.87]	19.6% / 5.6%
性的虐待	1.89 [0.14, 4.68]	2.2% / 2.2%
その他深刻な虐待	1.44 [0.61, 2.31]	19.6% / 14.6%
身体的虐待	2.14 [1.32, 2.90]	50.0% / 23.6%
ネグレクト	1.38 [0.88, 1.82]	45.7% / 33.7%
心理的虐待***	2.25 [1.32, 3.09]	50.0% / 22.5%
DV・面前暴力	1.87 [1.02, 2.70]	34.8% / 19.1%
養育上の不調	1.14 [0.94, 1.29]	84.8% / 74.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- きょうだい児に対して、養育者が繰り返しバカにしてからかう様子がある
- きょうだい児に対して、養育者が厳しく叱ったり罵ったりする様子がある
- きょうだいに対するしつけが厳しい
- きょうだいが保護者に対して怯えた様子や萎縮した様子を見せる

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調等の発生を示す、あるいはそれを予測するサインとなっている。背景事情やニーズを総合的に把握し、必要な支援や介入につなげる必要があるものと考えられる

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

きょうだい：養育・生活所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole108(165)】

きょうだいに不登校や園・学校等の長期欠席がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】きょうだい児に対して、養育者が厳しく叱ったり罵ったりする様子がある、しつけが厳しい、きょうだいが養育者に対して怯えた様子を見せる

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.98**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.82—1.08

$$RR = \frac{25/28(89.3\%)}{115/129(89.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 95%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 157$ (項目該当率 17.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 28$ 項目非該当事例数 $n_2 = 129$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.58 [0.06, 1.22]	3.6% / 11.6%
重度ネグレクト	5.10 [1.62, 9.28]	21.4% / 4.7%
性的虐待	1.45 [0.03, 3.93]	0.0% / 2.3%
その他深刻な虐待	1.18 [0.24, 2.32]	7.1% / 8.5%
身体的虐待	0.33 [0.09, 0.57]	10.7% / 41.1%
ネグレクト	2.01 [1.33, 2.58]	64.3% / 31.8%
心理的虐待***	0.56 [0.19, 0.91]	14.3% / 30.2%
DV・面前暴力	0.90 [0.31, 1.50]	14.3% / 18.6%
養育上の不調	1.24 [0.99, 1.42]	85.7% / 67.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 不登校や園・学校等の長期欠席がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。数値上の結果から、当該観点への該当が、一部養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

きょうだい：養育・生活所見

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole109(166)】

きょうだい間で不平等な扱いや差別的な扱いや優遇がある、
「上の子が可愛くない」などの発言がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童を含めて、きょうだい間で不平等な扱いや差別的な扱いや優遇がある、「上の子が可愛くない」などの発言がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.19**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.08—1.28

$$RR = \frac{49/50(98\%)}{106/130(81.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 97%

児童相談所(児童虐待相談) 97%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 180$ (項目該当率 27.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 50$ 項目非該当事例数 $n_2 = 130$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.67 [0.17, 1.25]	6.0% / 11.5%
重度ネグレクト	4.18 [1.54, 7.47]	18.0% / 4.6%
性的虐待	43.62 [0.44, 60.44]	2.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.26 [0.36, 2.29]	8.0% / 7.0%
身体的虐待	1.85 [1.20, 2.42]	48.0% / 26.2%
ネグレクト	1.58 [1.07, 2.01]	52.0% / 33.1%
心理的虐待***	2.34 [1.48, 3.16]	50.0% / 21.5%
DV・面前暴力	1.97 [1.12, 2.78]	34.0% / 17.7%
養育上の不調	1.50 [1.27, 1.68]	92.0% / 60.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 他のきょうだいと比べて差別的な扱いを受けている(優遇されている場合を含む)
- 「上の子が可愛くない」「下の子が可愛くない」などの否定的発言がある
- きょうだい間で不平等な扱いがある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、客観的視座から「養育に関するケアニーズがある」と判断される。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調等の発生を示す、あるいはそれを予測するサインとなっている。背景事情やニーズを総合的に把握し、必要な支援や介入につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

きょうだい：年齢情報

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole110(167)】

母体を同じくする18ヶ月未満の年の差のきょうだいがいる
(双子等を除く)、母体を同じくする3年連続の年子がいる

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童を含めて、母体を同じくする18ヶ月未満の年の差のきょうだいがいる(双子等を除く)、または、母体を同じくする3年連続の年子がいる

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.11**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.97—1.21

$$RR = \frac{25/26(96.2\%)}{107/127(84.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 153$ (項目該当率 17.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 26$ 項目非該当事例数 $n_2 = 127$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.04 [0.49, 3.86]	11.5% / 7.1%
重度ネグレクト	1.95 [0.65, 3.40]	19.2% / 11.0%
性的虐待	9.16 [0.53, 21.20]	3.8% / 0.8%
その他深刻な虐待	0.64 [0.08, 1.37]	3.8% / 11.0%
身体的虐待	1.34 [0.74, 1.84]	42.3% / 32.3%
ネグレクト	1.52 [1.01, 1.94]	61.5% / 40.2%
心理的虐待***	1.44 [0.76, 2.03]	38.5% / 27.6%
DV・面前暴力	1.72 [0.77, 2.63]	30.8% / 18.9%
養育上の不調	1.10 [0.83, 1.29]	76.9% / 68.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 母体を同じくする18ヶ月未満の年の差のきょうだいがいる
- 母体を同じくする3年連続の年子がいる

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、母体を同じくする18ヶ月未満の年の差のきょうだいがいる(双子等を除く)、母体を同じくする3年連続の年子がいること自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたりするものとは解釈されないことに留意する必要がある。連続する妊娠・出産の背景に性的被害等がある場合など、総合的な視点から必要なアセスメントにつなげるという視点から援用されたい。
- Preconception Careにおいて、短期間で連続した妊娠(rapid successive pregnancies)は、子どもの健康上の懸念を予測する主要因の一つとされている。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
 家庭/環境：家族構成

構成案
 妊娠期採用

構成案
 乳幼児期採用

機械学習
 予測貢献項目

【項目ID: Whole111(168)】
 子どもの出生後、離婚や別居、内縁者の同居や同居家族の死別など、家族形態・家族構成に変化があった

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】対象児童の出生後、離婚や別居、内縁者の同居や同居家族の死別など、家族形態・家族構成に変化があった

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.17**
 ベイズ推定法による95%確信区間 1.05—1.27

$$RR = \frac{69/71(97.2\%)}{68/82(82.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 153$ (項目該当率 46.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 71$ 項目非該当事例数 $n_2 = 82$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.29 [0.47, 2.26]	11.3% / 9.8%
重度ネグレクト	1.63 [0.58, 2.88]	12.7% / 8.5%
性的虐待	例数不足により推定困難	2.8% / 0.0%
その他深刻な虐待	0.82 [0.21, 1.57]	5.6% / 8.5%
身体的虐待	1.56 [0.92, 2.17]	35.2% / 23.2%
ネグレクト	1.47 [0.94, 1.95]	42.3% / 29.3%
心理的虐待***	1.42 [0.85, 1.98]	33.8% / 24.4%
DV・面前暴力	1.86 [1.02, 2.73]	31.0% / 17.1%
養育上の不調	1.15 [0.96, 1.31]	81.7% / 70.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 子どもの出生後の離婚や別居
 ・ 子どもの出生後に内縁者の同居や同居家族の死別があった
 ・ 子どもの出生後に、(当該子どもの出生を除いて)家族形態・家族構成に変化があった

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、家族構成等に変化が発生すること自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたりするものとは解釈されないことに留意する必要がある。変化の背景事情や、ライフイベント自体に伴う負担等を鑑みた、総合的な視座から必要なアセスメントにつなげるという視点から援用されたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
家庭/環境：家族構成

構成案
妊娠期採用  構成案
乳幼児期採用  機械学習
予測貢献項目 

【項目ID: Whole112(169)】
子連れの再婚家庭(ステップファミリー)である

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】子連れの再婚家庭(ステップファミリー)である

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.22**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.17—1.25

RR = $\frac{134/134(100\%)}{602/736(81.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 870$ (項目該当率 15.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 134$ 項目非該当事例数 $n_2 = 736$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.36 [0.81, 1.84]	13.4% / 10.3%
重度ネグレクト	1.64 [1.03, 2.19]	16.4% / 10.3%
性的虐待	1.81 [0.31, 3.73]	1.5% / 1.2%
その他深刻な虐待	1.18 [0.61, 1.69]	9.0% / 8.2%
身体的虐待	1.29 [1.00, 1.52]	39.6% / 30.8%
ネグレクト	1.45 [1.17, 1.68]	48.5% / 33.4%
心理的虐待***	1.10 [0.79, 1.34]	28.4% / 26.2%
DV・面前暴力	1.96 [1.46, 2.37]	32.8% / 16.8%
養育上の不調	1.22 [1.10, 1.30]	81.3% / 66.6%

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

子連れの再婚家庭(ステップファミリー)である

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

前提として、家族構成それ自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたるものとは解釈されないことに留意する必要がある。数値上の結果からは、該当する場合に何らかの養育上の不調等の発生率が相対的に高いという示唆が得られている。「総合的なアセスメントの契機」という視点から援用されたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
家庭/環境：家族構成

構成案
妊娠期採用  構成案
乳幼児期採用  機械学習
予測貢献項目 

【項目ID: Whole113(170)】
母子家庭である(または、その時期があった)

推奨評価方法
☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】母子家庭である(または、その時期があった)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.24**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.18—1.28

RR = $\frac{311/323(96.3\%)}{425/547(77.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 870$ (項目該当率 37.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 323$ 項目非該当事例数 $n_2 = 547$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.90 [0.59, 1.17]	9.9% / 11.3%
重度ネグレクト	1.72 [1.16, 2.21]	15.2% / 9.0%
性的虐待	3.41 [0.96, 6.71]	2.2% / 0.7%
その他深刻な虐待	1.47 [0.93, 1.98]	10.2% / 7.1%
身体的虐待	1.05 [0.86, 1.21]	33.1% / 31.6%
ネグレクト	2.07 [1.73, 2.35]	52.9% / 25.6%
心理的虐待***	1.21 [0.97, 1.42]	29.7% / 24.7%
DV・面前暴力	1.71 [1.30, 2.06]	26.0% / 15.4%
養育上の不調	1.32 [1.22, 1.41]	81.4% / 61.4%

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

母子家庭である(または、その時期があった)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、家族構成それ自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたるものとは解釈されないことに留意する必要がある。世帯の背景事情、変化(ライフイベント自体)に伴う負担等を鑑み、「総合的なアセスメントの契機」という視点から援用されたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
 家庭/環境：家族構成

構成案
 妊娠期採用
 ☒

構成案
 乳幼児期採用
 ☒

機械学習
 予測貢献項目
 ☐

【項目ID: Whole114(171)】
 父子家庭である(または、その時期があった)

推奨評価方法
☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】父子家庭である(または、その時期があった)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.14**
 ベイズ推定法による95%確信区間 1.02—1.19

$$RR = \frac{23/23(100\%)}{713/847(84.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 870$ (項目該当率 2.6%)
 項目該当事例数 $n_1 = 23$ 項目非該当事例数 $n_2 = 847$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.73 [0.09, 1.55]	4.3% / 11.0%
重度ネグレクト	2.19 [0.89, 3.38]	21.7% / 11.0%
性的虐待	6.76 [0.76, 14.75]	4.3% / 1.2%
その他深刻な虐待	1.97 [0.56, 3.46]	13.0% / 8.1%
身体的虐待	1.12 [0.06, 1.55]	34.8% / 32.1%
ネグレクト	1.71 [1.16, 2.11]	60.9% / 35.1%
心理的虐待***	1.86 [1.11, 2.42]	47.8% / 26.0%
DV・面前暴力	1.26 [0.49, 1.94]	21.7% / 19.2%
養育上の不調	0.93 [0.63, 1.12]	65.2% / 68.9%

** 項目該当 あり/なし 別でのアウトカム該当率
 *** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 父子家庭である(または、その時期があった)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、家族構成それ自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたりするものとは解釈されないことに留意する必要がある。世帯の背景事情、変化(ライフイベント自体)に伴う負担等を鑑み、「総合的なアセスメントの契機」という視点から援用されたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
 家庭/環境：家族構成

構成案
 妊娠期採用

構成案
 乳幼児期採用

機械学習
 予測貢献項目

【項目ID: Whole115(172)】
 子どもの妊娠以降に、別居・離婚(協議・調停中を含む)が発生している

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】子どもの妊娠以降に、別居・離婚(協議・調停中を含む)が発生している

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.22**
 ベイズ推定法による95%確信区間 1.17—1.26

$$RR = \frac{257/265(97\%)}{479/605(79.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性	
市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 870$ (項目該当率 30.5%)
項目該当事例数 $n_1 = 265$ 項目非該当事例数 $n_2 = 605$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.21 [0.78, 1.59]	12.1% / 10.2%
重度ネグレクト	1.60 [1.07, 2.08]	15.1% / 9.6%
性的虐待	2.29 [0.63, 4.37]	1.9% / 1.0%
その他深刻な虐待	1.50 [0.92, 2.04]	10.6% / 7.3%
身体的虐待	1.21 [0.99, 1.39]	36.6% / 30.2%
ネグレクト	1.80 [1.51, 2.04]	51.7% / 28.8%
心理的虐待***	1.34 [1.06, 1.55]	32.1% / 24.1%
DV・面前暴力	2.52 [1.93, 3.02]	33.2% / 13.2%
養育上の不調	1.28 [1.18, 1.36]	81.5% / 63.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 子どもの妊娠以降に、別居・離婚(協議・調停中を含む)が発生している

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、家族構成とその変化自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたりするものとは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、世帯に何らかの背景事情があることや、変化(ライフイベント自体)に伴う負担等があることは自然に想定される。数値上得られた結果は、「当該状況に由来して、なんらかの本質的なニーズを生じさせる可能性がある」ことを示唆するサインとして解釈される。その背景ニーズを捉える契機とすることに利活用上の力点を置かれたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
 家庭/環境：家族構成

構成案
 妊娠期採用

構成案
 乳幼児期採用

機械学習
 予測貢献項目

【項目ID: Whole116(173)】
 子どもの妊娠以降、再婚やパートナーの変化が発生している

推奨評価方法

- ☐ 該当
- ☐ 非該当
- ☐ 不明

【調査提示文言】 子どもの妊娠以降、再婚やパートナーの変化が発生している

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.19**
 ベイズ推定法による95%確信区間 1.14—1.23

$$RR = \frac{189/195(96.9\%)}{547/675(81\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 870$ (項目該当率 22.4%)
 項目該当事例数 $n_1 = 195$ 項目非該当事例数 $n_2 = 675$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.10 [1.40, 2.74]	17.9% / 8.7%
重度ネグレクト	1.49 [0.97, 1.93]	14.9% / 10.2%
性的虐待	2.48 [0.65, 4.76]	2.1% / 1.1%
その他深刻な虐待	1.58 [0.94, 2.14]	11.3% / 7.4%
身体的虐待	1.37 [1.10, 1.58]	40.5% / 29.8%
ネグレクト	1.82 [1.50, 2.06]	54.9% / 30.2%
心理的虐待***	1.39 [1.08, 1.64]	33.8% / 24.4%
DV・面前暴力	1.74 [1.30, 2.11]	28.7% / 16.6%
養育上の不調	1.28 [1.17, 1.36]	83.1% / 64.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
 *** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

・ 子どもの妊娠以降、再婚やパートナーの変化が発生している

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

・ 前提として、家族構成それ自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたりするものとは解釈されないことに留意する必要がある。世帯の背景事情、変化(ライフイベント自体)に伴う負担等を鑑み、「総合的なアセスメントの契機」という視点から援用されたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
家庭/環境：家族構成

構成案
妊娠期採用  構成案
乳幼児期採用  機械学習
予測貢献項目 

【項目ID: Whole117(174)】
子どもの家庭に、複雑な家族図・パートナーの複数回変更
など家族構成が変則的または複雑な経過がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】子どもの家庭に、複雑な家族図・パートナーの複数回変更など家族構成が変則的または複雑な経過がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.18**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.12—1.22

RR = $\frac{200/209(95.7\%)}{536/661(81.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 870$ (項目該当率 24.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 209$ 項目非該当事例数 $n_2 = 661$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.59 [1.04, 2.10]	14.8% / 9.5%
重度ネグレクト	4.41 [1.21, 8.62]	17.2% / 9.4%
性的虐待	2.48 [0.65, 4.76]	2.9% / 0.8%
その他深刻な虐待	1.27 [0.74, 1.75]	9.6% / 7.9%
身体的虐待	1.12 [0.89, 1.930]	34.9% / 31.3%
ネグレクト	1.68 [1.40, 1.91]	51.7% / 30.7%
心理的虐待***	1.27 [1.00, 1.50]	31.6% / 25.0%
DV・面前暴力	1.87 [1.41, 2.26]	29.7% / 16.0%
養育上の不調	1.28 [1.17, 1.36]	82.8% / 64.4%

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもの家庭に、複雑な家族図・パートナーの複数回変更など、
家族構成が変則的または複雑な経過がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、家族構成それ自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたりするものとは解釈されないことに留意する必要がある。世帯の背景事情、変化(ライフイベント自体)に伴う負担等を鑑み、「総合的なアセスメントの契機」という視点から援用されたい。



9

保護者のいずれかが外国人である

☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

養育上の不調と虐待 —————

項目該当 推定リスク比 **1.04**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.89—1.13

$$RR = \frac{28/31(90.3\%)}{708/839(84.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 870$ (項目該当率 3.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 31$ 項目非該当事例数 $n_2 = 839$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.83 [0.17, 1.56]	6.5% / 11.0%
重度ネグレクト	0.80 [0.17, 1.49]	6.5% / 11.4%
性的虐待	2.35 [0.04, 6.31]	0.0% / 1.3%
その他深刻な虐待	1.09 [0.24, 2.01]	6.5% / 8.3%
身体的虐待	0.84 [0.42, 1.21]	25.8% / 32.4%
ネグレクト	1.20 [0.74, 1.55]	41.9% / 35.5%
心理的虐待***	1.27 [0.71, 1.73]	32.3% / 26.3%
DV・面前暴力	1.10 [0.47, 1.66]	19.4% / 19.3%
養育上の不調	1.20 [0.99, 1.33]	83.9% / 68.3%

** 項目該当 あり/なし 別でのアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 保護者のいずれかが外国人である

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、養育に関する物事を国籍等で評価・判断するなどということを意図した項目ではない。
- ・ Sexual and Reproductive Health and Rightsでは、特に区別した支援が必要な対象として、社会的マイノリティな立場にある場合が含まれている。また、将来的なデータ活用等の可能性を考慮した場合に、「解析結果等に基づくサービス等の量や質が、結果的に、学歴や国籍、人種等によって異なっていないか」を評価するための補助的な観点として調査上の項目に採用したという理由も含まれている。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：家族構成

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole119(176)】

家庭に内縁男性・内縁女性の出入りがある、疑われる
(母子世帯に成人男性の洗濯物が干されているなど)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】 家庭に内縁男性・内縁女性の出入りがある、疑われる(母子世帯に成人男性の洗濯物が干されているなど)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.12**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.99—1.21

$$RR = \frac{29/30(96.7\%)}{102/121(84.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	95%
児童相談所(児童虐待相談)	97%
総合的な組織*	95%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 151$ (項目該当率 19.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 30$ 項目非該当事例数 $n_2 = 121$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.38 [0.61, 4.43]	13.3% / 6.6%
重度ネグレクト	1.21 [0.41, 2.00]	16.7% / 15.7%
性的虐待	3.75 [0.92, 9.72]	3.3% / 1.7%
その他深刻な虐待	1.04 [0.21, 2.06]	6.7% / 9.1%
身体的虐待	1.23 [0.64, 1.75]	33.3% / 28.1%
ネグレクト	1.60 [1.04, 2.08]	56.7% / 35.5%
心理的虐待***	1.18 [0.54, 1.78]	26.7% / 24.0%
DV・面前暴力	2.00 [0.99, 2.93]	33.3% / 17.4%
養育上の不調	1.05 [0.77, 1.26]	70.0% / 66.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 家庭に内縁男性・内縁女性の出入りがある、疑われる
(母子世帯に成人男性の洗濯物が干されているなど)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、家庭内に出入りする人物等に関する情報それ自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたりするものとは解釈されないことに留意する必要がある。世帯の背景事情、変化(ライフイベント自体)に伴う負担等を鑑み、「総合的なアセスメントの契機」という視点から援用されたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：家族歴等

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole120(177)】

家庭に反社会的生活(犯罪や暴力等への関与)を送っている人物がいる

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】家庭に、反社会的生活(犯罪や暴力等への関与)を送っている人物がいる

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.04**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.82—1.15

$$RR = \frac{10/10(100\%)}{128/145(88.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管) 95%

市区町村(児童虐待相談) 88%

児童相談所(児童虐待相談) 98%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 155$ (項目該当率 6.5%)
項目該当事例数 $n_1 = 10$ 項目非該当事例数 $n_2 = 145$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.52 [0.21, 3.07]	10.0% / 11.0%
重度ネグレクト	2.55 [0.81, 4.35]	30.0% / 13.1%
性的虐待	23.35 [1.47, 57.75]	10.0% / 0.7%
その他深刻な虐待	5.42 [1.47, 9.72]	30.0% / 6.2%
身体的虐待	1.26 [0.48, 1.92]	40.0% / 33.1%
ネグレクト	1.94 [1.06, 2.60]	70.0% / 34.5%
心理的虐待***	1.38 [0.50, 2.04]	40.0% / 31.7%
DV・面前暴力	3.47 [1.85, 4.81]	70.0% / 19.3%
養育上の不調	1.08 [0.70, 1.33]	80.0% / 69.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 家庭に反社会的生活(犯罪や暴力等への関与)を送っている人物がいる

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該項目に該当する場合、該当しない場合よりも複数の虐待種別への該当率が高いという結果が得られている。多面的な視座から、慎重なアセスメントの実施を必要とするものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：世帯情報・転居

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole121(178)】

子どもや母親(妊産婦)の居所が不明・不定、登録上の住所と異なる場所に居住している

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童や母親(妊産婦)の居所が不明・不定(外国籍在留資格なし、不法入国を含む)、登録上の住所と異なる場所に居住している、または、住所の問題により必要な住民福祉サービスが受けられない状態にある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.71**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.38—0.93

$$RR = \frac{6/9(66.7\%)}{128/141(90.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 99%

市区町村(児童虐待相談) 98%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】組入事例数 $N = 150$ (項目該当率 6.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 9$ 項目非該当事例数 $n_2 = 141$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.05 [0.50, 3.75]	22.2% / 13.5%
重度ネグレクト	1.61 [0.19, 3.36]	11.1% / 11.3%
性的虐待	14.42 [0.17, 35.55]	0.0% / 0.7%
その他深刻な虐待	2.90 [0.35, 6.17]	11.1% / 6.4%
身体的虐待	1.05 [0.35, 1.68]	33.3% / 34.8%
ネグレクト	0.85 [0.26, 1.36]	33.3% / 43.3%
心理的虐待***	0.39 [0.01, 0.95]	0.0% / 23.4%
DV・面前暴力	1.42 [0.33, 2.57]	22.2% / 19.1%
養育上の不調	0.98 [0.53, 1.29]	66.7% / 65.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 居所が不明、子どもが生活している場所と登録上の住所が異なる、住所不定・放浪・車上生活
- ・ 登録された住所と異なる場所に居住しているなど、必要な住民福祉サービスが受けられない状況にある
- ・ 住所不定・安定した居住がない(外国籍在留資格なし、不法入国を含む)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、子どもや母親(妊産婦)の居所が不明・不定、登録上の住所と異なる場所に居住していることそれ自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたりするものとは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当する場合、何らかの背景事情を有している可能性があることや、必要な行政サービス等が受けられない可能性があるという視点から、「状況に配慮した支援を必要としている」と解釈して自然であると考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：世帯情報・転居

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole122(179)】

子どもや母親(妊産婦)の住所が安定しない、合理的理由を除く複数回の転居がある、逃亡等での転居発生が懸念される

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】対象児童や母親(妊産婦)の住所が安定しない、合理的理由を除いた複数回の転居がある、ストーカーやDV被害等による逃亡等での転居が発生する可能性が懸念される

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.07**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.93—1.15

$$RR = \frac{28/29(96.6\%)}{108/122(88.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	90%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 151$ (項目該当率 19.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 29$ 項目非該当事例数 $n_2 = 122$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.23 [0.00, 0.61]	0.0% / 13.9%
重度ネグレクト	0.98 [0.33, 1.65]	13.8% / 16.4%
性的虐待	3.96 [0.31, 9.52]	3.4% / 1.6%
その他深刻な虐待	1.46 [0.34, 2.77]	10.3% / 9.0%
身体的虐待	0.71 [0.30, 1.10]	20.7% / 32.0%
ネグレクト	1.43 [0.93, 1.85]	55.2% / 38.5%
心理的虐待***	1.93 [1.21, 2.56]	55.2% / 28.7%
DV・面前暴力	3.45 [1.69, 5.25]	41.4% / 12.3%
養育上の不調	1.10 [0.85, 1.27]	79.3% / 71.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもや母親(妊産婦)の住所が安定しない
- 転勤などの合理的理由を除く複数回の転居がある
- DVやストーカー被害等による逃亡等で、突然転居する可能性がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 複数回の転居は、児童虐待事例における特に留意が必要な観点として広く共有されている。
- 前提として、子どもや母親(妊産婦)の住所が安定しない、合理的理由を除く複数回の転居がある、逃亡等での転居発生が懸念されること自体が、子どもに対する養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたりするものとは解釈されないことに留意する必要がある。ただし、当該状況に該当する場合、何らかの背景事情を有している可能性があることや、必要な行政サービス等が受けられない可能性があるという視点から、「状況に配慮した支援を必要としている」と解釈して自然であると考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
 家庭/環境：世帯情報・転居

構成案
 妊娠期採用

構成案
 乳幼児期採用

機械学習
 予測貢献項目

【項目ID: Whole123(180)】
 家族に介護が必要な人がいる、障害を抱えた家族がいる
 (精神疾患のある家族や要介護者等の同居等)

推奨評価方法

☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】世帯に家族に介護が必要な人がいる、障害を抱えた家族がいる(精神疾患のある家族や要介護者等の同居等)

養育上の不調と虐待
 項目該当 推定リスク比 **1.09**
 ベイズ推定法による95%確信区間 0.95—1.18

$$RR = \frac{32/34(94.1\%)}{138/163(84.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率	
市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	94%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 197$ (項目該当率 17.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 34$ 項目非該当事例数 $n_2 = 163$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.45 [0.06, 0.95]	2.9% / 12.3%
重度ネグレクト	1.68 [0.64, 2.73]	17.6% / 11.7%
性的虐待	1.15 [0.03, 2.93]	0.0% / 2.5%
その他深刻な虐待	0.86 [0.17, 1.69]	5.9% / 9.8%
身体的虐待	0.93 [0.49, 1.31]	29.4% / 33.1%
ネグレクト	1.02 [0.58, 1.39]	35.3% / 35.6%
心理的虐待***	1.14 [0.60, 1.64]	29.4% / 27.0%
DV・面前暴力	1.31 [0.70, 1.85]	32.4% / 25.8%
養育上の不調	1.18 [0.95, 1.34]	82.4% / 68.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 家族に介護が必要な人がいる、障害を抱えた家族がいる
- 精神疾患のある家族や要介護者等の同居等がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該当状況に該当する場合、それが直ちに養育上の不調等の発生を決定づけたり、その原因であるとは解釈されない。ただし、客観的視座からして保護者等の心身の負担があるものと考えられることから、「養育に関するケアニーズがある」と解釈される。背景事情やニーズを総合的に把握し、必要な支援や介入につなげる必要があるものと考えられる

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：就業・経済状況

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole124(181)】

世帯に経済的困窮が発生している、金銭的理由により
健診等の各種サービスが受けられない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】世帯に経済的困窮が発生している、金銭的理由により健診等の各種サービスが受けられない(生活保護の受給、ギャンブルや浪費等の問題、助産制度の利用、医療費や保育料・給食費等の未払い発生、健康保険未加入・無保険、食べ物に困る、ライフラインの供給停止等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.07**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.97—1.15

$$RR = \frac{51/53(96.2\%)}{81/91(89\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	92%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 144$ (項目該当率 36.8%)
項目該当事例数 $n_1 = 53$ 項目非該当事例数 $n_2 = 91$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.03 [0.21, 1.97]	7.5% / 13.2%
重度ネグレクト	2.86 [1.15, 4.88]	20.8% / 7.7%
性的虐待	3.23 [0.15, 8.55]	1.9% / 1.1%
その他深刻な虐待	1.81 [0.82, 2.85]	22.6% / 13.2%
身体的虐待	0.66 [0.34, 0.95]	22.6% / 36.3%
ネグレクト	1.62 [1.07, 2.11]	52.8% / 33.0%
心理的虐待***	1.25 [0.71, 1.75]	32.1% / 26.4%
DV・面前暴力	1.48 [0.81, 2.18]	28.3% / 19.8%
養育上の不調	1.24 [1.06, 1.40]	90.6% / 72.5%

** 項目該当 あり/なし 別でのアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 保育料や給食費、写真代等が払えないことがある、医療費に未払いがある、食べ物に困る
- ・ 主たる収入者の失業が発生している、不安定な家計、就労状況が不安定、望まない失職等がある
- ・ 助産制度の利用があった
- ・ ガス・水道などの供給が停止している、頻繁に停止する
- ・ 返済が困難な借金・ギャンブルなどの問題を抱えている
- ・ 生活保護を受給している(していた)または非課税世帯
- ・ 経済的支援・生活支援が受けられない
- ・ 世帯のいずれかの人物が健康保険未加入・無保険

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、**それが直ちに養育上の不調等の発生を決定づけたり、その原因であるとは解釈されない**ことに留意する必要がある。ただし、客観的視座からして、経済的なニーズを中心とする「養育に関するケアニーズがある」と解釈されうる。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調等の発生を示す、あるいはそれを予測するサインとなっている。背景事情やニーズを総合的に把握し、必要な支援や介入につなげる必要があるものと考えられる

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：就業・経済状況

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole125(182)】

世帯が親族等による経済支援のみで生活している、
労働による収入がない、望まれても働く意思がない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】世帯が親族等による経済支援のみで生活している、労働による収入がない、望まれても働く意思がない

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.11**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.96—1.19

$$RR = \frac{20/20(100\%)}{111/128(86.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	99%
市区町村(児童虐待相談)	97%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 148$ (項目該当率 13.5%)
項目該当事例数 $n_1 = 20$ 項目非該当事例数 $n_2 = 128$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.51 [0.64, 2.54]	10.0% / 13.3%
重度ネグレクト	2.15 [0.54, 4.01]	15.0% / 8.6%
性的虐待	93.98 [1.22, 142.62]	5.0% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.16 [0.14, 2.53]	5.0% / 7.8%
身体的虐待	0.50 [0.17, 0.8]	20.0% / 46.1%
ネグレクト	2.06 [1.30, 2.66]	65.0% / 31.2%
心理的虐待***	1.00 [0.42, 1.53]	30.0% / 32.0%
DV・面前暴力	1.52 [0.67, 2.33]	30.0% / 21.1%
養育上の不調	1.20 [0.92, 1.39]	85.0% / 68.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 世帯に労働による収入がない
- いずれかの養育者に(就労が望まれていても)働く意思がない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況に該当する場合、それが直ちに養育上の不調等の発生を決定づけたり、その原因であるとは解釈されない。ただし、客観的視座からして、経済的なニーズを中心とする「養育に関するケアニーズがある」と解釈されうる。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調等の発生を示す、あるいはそれを予測するサインとなっている。背景事情やニーズを総合的に把握し、必要な支援や介入につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：就業・経済状況

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole126(183)】

世帯が経済的な不安や心配を抱えている(子育てにかかる将来的な経済不安、健診等を受けるための経済負担が大きい)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】世帯が経済的な不安や心配を抱えている(子育てにかかる将来的な経済不安、補助金があっても健診や産後ケア事業等を受けるための経済負担が大きく感じられるなど)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.18**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.06—1.28

$$RR = \frac{89/93(95.7\%)}{66/81(81.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 174$ (項目該当率 53.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 93$ 項目非該当事例数 $n_2 = 81$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.20 [0.47, 2.04]	10.8% / 9.9%
重度ネグレクト	3.23 [1.11, 6.08]	15.1% / 4.9%
性的虐待	19.56 [0.50, 33.97]	2.2% / 1.2%
その他深刻な虐待	2.14 [0.85, 3.68]	15.1% / 7.4%
身体的虐待	0.95 [0.61, 1.27]	32.3% / 34.6%
ネグレクト	1.77 [1.16, 2.34]	47.3% / 27.2%
心理的虐待***	1.40 [0.87, 1.91]	35.5% / 25.9%
DV・面前暴力	1.36 [0.79, 1.90]	28.0% / 21.0%
養育上の不調	1.21 [0.98, 1.40]	74.2% / 61.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 収入に見合わない経済観念がある
- ・ 家族の経済観念が異なる、一致しない
- ・ 健診や産後ケア事業を受けるための経済的負担が、補助金があっても十分ではない
- ・ 困窮状態ではないが、経済的な不安がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 当該状況に該当する場合、それが直ちに養育上の不調等の発生を決定づけたり、その原因であるとは解釈されない。ただし、客観的視座からして、経済的なニーズを中心とする「養育に関するケアニーズがある」と解釈されうる。また、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調等の発生を示す、あるいはそれを予測するサインとなっている。背景事情やニーズを総合的に把握し、必要な支援や介入につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：家族関係

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole127(184)】

家庭内に夫婦不和等の問題が発生している、育児よりも保護者間の対立や葛藤が家庭の主題になっている

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】家庭内に夫婦不和等の問題が発生している、いずれかの養育者が別居や離婚を望んでいる、育児よりも養育者間の対立や葛藤が家庭の主題になっている、家族内での関係に壁がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.18**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.05—1.28

$$RR = \frac{72/76(94.7\%)}{70/87(80.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	92%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	92%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 163$ (項目該当率 46.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 76$ 項目非該当事例数 $n_2 = 87$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.51 [0.64, 2.54]	14.5% / 10.3%
重度ネグレクト	1.50 [0.64, 2.47]	14.5% / 10.3%
性的虐待	19.56 [0.50, 33.97]	2.6% / 0.0%
その他深刻な虐待	1.79 [0.57, 3.28]	9.2% / 5.7%
身体的虐待	1.17 [0.78, 1.52]	39.5% / 34.5%
ネグレクト	1.35 [0.87, 1.79]	39.5% / 29.9%
心理的虐待***	1.33 [0.80, 1.83]	32.9% / 25.3%
DV・面前暴力	3.17 [1.66, 4.81]	35.5% / 11.5%
養育上の不調	1.23 [1.00, 1.42]	78.9% / 64.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 育児よりも、養育者の都合や養育者間の対立や葛藤が家庭の主題になっている
- ・ いずれかの養育者が、別居や離婚を望んでいる
- ・ 家庭内での会話が少ない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。ただし、客観的な視座から、当該状況への該当の背景に何らかのケアニーズがあるものと想定することは自然な解釈であると言える。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：家族関係

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole128(185)】

母と父・パートナーの養育方針が合わない、
子育てに関する考え方で頻繁に対立する

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】母と父・パートナーの養育方針が合わない、子育てに関する考え方で頻繁に対立する

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.12**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.00—1.20

$$RR = \frac{34/34(100\%)}{68/77(88.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	85%
児童相談所(児童虐待相談)	92%
総合的な組織*	90%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 111$ (項目該当率 30.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 34$ 項目非該当事例数 $n_2 = 77$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.11 [0.29, 2.03]	11.8% / 13.0%
重度ネグレクト	1.09 [0.37, 1.89]	14.7% / 15.6%
性的虐待	0.55 [0.01, 1.45]	0.0% / 5.2%
その他深刻な虐待	0.59 [0.11, 1.22]	5.9% / 14.3%
身体的虐待	1.04 [0.51, 1.54]	29.4% / 29.9%
ネグレクト	1.53 [0.92, 2.10]	47.1% / 31.2%
心理的虐待***	1.13 [0.59, 1.63]	32.4% / 29.9%
DV・面前暴力	4.36 [1.80, 7.41]	38.2% / 9.1%
養育上の不調	1.31 [1.07, 1.50]	91.2% / 68.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 両親の間で育児方針が合わない、葛藤がある
- 子育ての考え方や対応、育児方針について頻繁に対立する

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。ただし、客観的な視座から、当該状況への該当の背景に何らかのケアニーズがあるものと想定することは自然な解釈であると言える。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
家庭/環境：親族関係

構成案
妊娠期採用  構成案
乳幼児期採用  機械学習
予測貢献項目 

【項目ID: Whole129(186)】
母または父・パートナーが、親族(対象児童の祖父母等)との間でトラブルや葛藤を抱えている、頼ることができない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】母または父・パートナーが、親族(対象児童の祖父母等)との間でトラブルや葛藤を抱えている、頼ることができない、サポートが受けられない、または、対象児童からみた祖父母の干渉が激しい

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.19**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.06—1.31

RR = $\frac{105/110(95.5\%)}{58/72(80.6\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 182$ (項目該当率 60.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 110$ 項目非該当事例数 $n_2 = 72$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.87 [0.80, 3.16]	17.3% / 9.7%
重度ネグレクト	0.82 [0.38, 1.30]	11.8% / 15.3%
性的虐待	0.33 [0.00, 0.91]	0.0% / 2.8%
その他深刻な虐待	3.01 [0.87, 6.03]	11.8% / 4.2%
身体的虐待	1.37 [0.87, 1.86]	37.3% / 27.8%
ネグレクト	1.00 [0.68, 1.29]	38.2% / 38.9%
心理的虐待***	2.13 [1.20, 3.12]	34.5% / 16.7%
DV・面前暴力	1.96 [1.03, 2.95]	26.4% / 13.9%
養育上の不調	1.52 [1.22, 1.79]	83.6% / 55.6%

組織別の項目確認可能性

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	95%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 嫁姑問題など、親族関係に問題や葛藤がある
- ・ 祖父母等の親族による過剰な干渉がある
- ・ 自らの親や親族との関係に何らかの葛藤がある
- ・ 親族との間で育児方針が合わない、葛藤がある
- ・ 親族からの養育サポートが受けられない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。ただし、客観的な視座から、当該状況への該当の背景に、子育てに係る援助者の不足や心身の負担など、何らかのケアニーズがあるものと想定することは自然な解釈であると言える。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：養育・生活環境

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole130(187)】

子どもや家族が日々の生活行為の大半を支配・コントロールされている様子がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】子どもや家族が日々の生活行為の大半を支配・コントロールされている様子がある(家庭内で一方的に定められた異質なルールや、行動・スマートフォンの監視、一般的な防犯を超えた防犯カメラの設置等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.10**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.95—1.18

$$RR = \frac{19/19(100\%)}{168/193(87\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	98%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	95%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 212$ (項目該当率 9.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 19$ 項目非該当事例数 $n_2 = 193$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.72 [0.89, 4.62]	21.1% / 8.8%
重度ネグレクト	3.09 [1.31, 4.89]	31.6% / 10.9%
性的虐待	27.13 [2.51, 65.03]	10.5% / 0.5%
その他深刻な虐待	1.95 [0.40, 3.69]	10.5% / 7.3%
身体的虐待	1.65 [0.93, 2.25]	47.4% / 29.0%
ネグレクト	1.09 [0.58, 1.53]	42.1% / 39.4%
心理的虐待***	1.77 [0.91, 2.45]	47.4% / 26.9%
DV・面前暴力	3.91 [2.42, 5.17]	68.4% / 17.1%
養育上の不調	1.13 [0.85, 1.30]	84.2% / 72.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもや家族が、日々の生活行為の大半を支配・コントロールされている
- 家庭内に、ある養育者等によって一方的に定められた異質なルールや、行動の監視、スマートフォンの監視などがある
- 自宅に、一般的な防犯を超えたカメラの設置や、自宅側など内部に向かったカメラが設置されている。

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 客観的な視座から、当該状況への該当の背景に、特筆して注意が必要な課題があることが想定される。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況について総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：養育・生活環境

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole131(188)】

家庭環境が不衛生または事故や疾病等の発生が危惧される状況にある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】家庭環境が不衛生または事故や疾病等の発生が危惧される状況にある(ゴミや衣類、誤飲等を含めた危険物の散乱、台所や寝具、食器や哺乳瓶等が不衛生、子どもの年齢に応じた事故防止や暑さ・寒さへの配慮がなされていない、子どもに配慮のない飲酒(アルコール類の放置)や喫煙、多数のペットの放置など)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.16**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.07—1.24

$$RR = \frac{64/64(100\%)}{85/99(85.9\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 163$ (項目該当率 39.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 64$ 項目非該当事例数 $n_2 = 99$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.75 [0.27, 1.26]	9.4% / 14.1%
重度ネグレクト	2.02 [0.84, 3.34]	17.2% / 9.1%
性的虐待	0.99 [0.09, 2.35]	1.6% / 3.0%
その他深刻な虐待	1.10 [0.42, 1.84]	10.9% / 11.1%
身体的虐待	1.21 [0.77, 1.58]	40.6% / 34.3%
ネグレクト	2.45 [1.74, 3.1]	71.9% / 29.3%
心理的虐待***	0.88 [0.55, 1.18]	31.2% / 36.4%
DV・面前暴力	1.52 [0.88, 2.14]	31.2% / 21.2%
養育上の不調	1.30 [1.14, 1.44]	95.3% / 72.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 家庭環境が不衛生、事故等の発生が危惧される状況(ゴミや危険物などが散乱する、子どもの手の届く範囲に口に入るものやタバコなどを置いている、テーブルやソファなどの上に子どもを寝かせたまま目を話すなど)
- 掃除・片付けができていない、ゴミや衣類が散乱している、寝具が不衛生、いつ洗ったかわからない食器や飲み残しの哺乳瓶等が放置されているなど
- 子どもの年齢に応じた事故防止配慮がなされていない
- 家の外までもものが溢れている、ゴミ屋敷状態、世帯に十分に管理されていない、放置された多数のペット・動物がいる、子どもに配慮のない飲酒や喫煙がある、暑さ、寒さ等への配慮がなされていない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 客観的な視座から、少なくとも子どもの健康・保健的観点から、明らかに養育上のケアニーズがあるものと解釈される。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況について総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：養育・生活環境

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole132(189)】

生活人数に対して極端に狭小な居住環境、住居に近隣と異なる様子がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】生活人数に対して極端に狭小な居住環境、住居に近隣と異なる様子がある(郵便物がたまる、表札が出ていない、生活感がない等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.08**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.94—1.17

$$RR = \frac{32/34(94.1\%)}{121/141(85.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	96%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 175$ (項目該当率 19.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 34$ 項目非該当事例数 $n_2 = 141$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.51 [0.48, 2.62]	11.8% / 9.2%
重度ネグレクト	3.42 [1.24, 5.91]	17.6% / 5.7%
性的虐待	8.29 [0.44, 19.55]	2.9% / 0.7%
その他深刻な虐待	0.79 [0.17, 1.57]	5.9% / 10.6%
身体的虐待	0.96 [0.52, 1.36]	29.4% / 31.9%
ネグレクト	2.03 [1.29, 2.65]	55.9% / 27.7%
心理的虐待***	0.45 [0.15, 0.76]	11.8% / 31.2%
DV・面前暴力	1.32 [0.71, 1.87]	32.4% / 25.5%
養育上の不調	1.16 [0.96, 1.30]	88.2% / 74.5%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 生活人数に対して極端に狭小な住宅、六畳一間に5人で寝ているなど
- 家庭に生活感がない
- 周囲の住宅とは異なり表札が出ていない、郵便物が溜まっている
- 出産・育児に集中できない家庭環境にある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、居住環境の規模等自体が、養育上の不調等の直接的な原因として解釈されたり、その発生を決定づけたりするものとは解釈されないことに留意する必要がある。数値上の結果は、世帯の背景事情等を鑑み、「総合的なアセスメントの契機」という視点から援用されたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：養育・生活環境

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole133(190)】

主たる養育者の不在時に、親族以外の知人や、
内縁者が子どもを監護する状況が日常的にある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】主たる養育者の不在時に、親族以外の知人や、内縁者が子どもを監護する状況が日常的にある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.08**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.90—1.917

$$RR = \frac{14/14(100\%)}{130/149(87.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 98%

市区町村(児童虐待相談) 98%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 163$ (項目該当率 8.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 14$ 項目非該当事例数 $n_2 = 149$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.49 [0.32, 2.83]	14.3% / 12.8%
重度ネグレクト	2.09 [0.59, 3.64]	21.4% / 12.1%
性的虐待	3.16 [0.08, 8.61]	0.0% / 2.0%
その他深刻な虐待	2.66 [0.73, 4.63]	21.4% / 9.4%
身体的虐待	0.56 [0.12, 1.02]	14.3% / 33.6%
ネグレクト	1.49 [0.69, 2.18]	42.9% / 29.5%
心理的虐待***	1.53 [0.72, 2.22]	42.9% / 28.9%
DV・面前暴力	1.55 [0.54, 2.52]	28.6% / 20.1%
養育上の不調	1.17 [0.84, 1.37]	85.7% / 69.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 主たる養育者の不在時に、親族以外の知人や内縁関係者が子どもを監護する状況が日常的にある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、保護者以外が子どもを監護する頻度それ自体によって、養育上の不調等の発生が決定づけられたりするものではないことに留意する必要がある。ただし、状況によっては、「養育上のケアニーズがある」ことを反映したものとなりうる点に留意が必要となる。世帯の背景事情等を鑑み、「総合的なアセスメントの契機」という視点から援用されたい。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：サポート・受入

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole134(191)】

保育園等への入園困難、日中に子どもを預ける先がない、
家庭外の人物で気軽に子どもを数時間預けられる人がいない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】 保育園等への入園困難、日中に子どもを預ける先がない、家庭外の人物(親族やファミリーサポート等)で気軽に子どもを数時間預けられる人がいない、子どもを預けて外出する等ができない

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.07**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.94—1.14

$$RR = \frac{21/21(100\%)}{115/128(89.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	98%
市区町村(児童虐待相談)	91%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 149$ (項目該当率 14.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 21$ 項目非該当事例数 $n_2 = 128$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.88 [0.58, 3.31]	19.0% / 11.7%
重度ネグレクト	2.79 [1.01, 4.78]	23.8% / 9.4%
性的虐待	4.27 [0.71, 9.31]	9.5% / 3.1%
その他深刻な虐待	2.36 [0.74, 4.21]	19.0% / 9.4%
身体的虐待	0.82 [0.37, 1.22]	28.6% / 37.5%
ネグレクト	1.43 [0.69, 2.18]	52.4% / 36.7%
心理的虐待***	0.78 [0.32, 1.23]	23.8% / 33.6%
DV・面前暴力	1.56 [0.65, 2.40]	28.6% / 19.5%
養育上の不調	1.31 [1.08, 1.46]	95.2% / 70.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 保育園などの子どもの預け方に心配事がある/保育園等、日中に子どもを預ける先がない
- ・ 気軽に子どもを数時間預けられる人がいない
- ・ 子どもを預けて外出することができない(預ける先がない)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、当該状況への該当によって、養育上の不調等の発生が決定づけられたりするものでは決してない。ただし、保護者の心身の負担や援助者・環境の不足等、「養育上のケアニーズがある」ことを想定することは自然であると捉えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：サポート・受入

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole135(192)】

困った時の援助者や頼れる人がいない・一人しかいない、
育児の負担が母親等の一人の養育者に極端に偏っている

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】緊急時や困った時の援助者や頼れる人がいない・一人しかいない、育児の負担が母親等の一人の養育者に極端に偏っている

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.15**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.03—1.24

$$RR = \frac{82/86(95.3\%)}{79/95(83.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 100%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 181$ (項目該当率 47.5%)
項目該当事例数 $n_1 = 86$ 項目非該当事例数 $n_2 = 95$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.64 [0.65, 2.76]	12.8% / 8.4%
重度ネグレクト	2.51 [1.04, 4.19]	17.4% / 7.4%
性的虐待	3.10 [0.28, 7.86]	2.3% / 1.1%
その他深刻な虐待	2.74 [0.81, 5.19]	10.5% / 4.2%
身体的虐待	0.91 [0.61, 1.19]	34.9% / 38.9%
ネグレクト	1.76 [1.12, 2.38]	41.9% / 24.2%
心理的虐待***	0.82 [0.52, 1.10]	27.9% / 34.7%
DV・面前暴力	1.04 [0.60, 1.45]	24.4% / 24.2%
養育上の不調	1.36 [1.12, 1.57]	81.4% / 60.0%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 緊急時にすぐに子どもを預けられる人がいない
- ・ 困った時、助けてくれる・手伝ってくれる人がいない
- ・ 本当に困った時に助けてくれる人がいない、一人しかいない
- ・ 養育に関して頼れる人物が一人しかいない、十分ではない(親族が遠方など)
- ・ 育児の負担が、母親等一人の養育者に極端に偏っている

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 前提として、当該状況への該当によって、養育上の不調等の発生が決定づけられたりするものでは決してない。ただし、保護者の心身の負担や援助者・環境の不足等、「養育上のケアニーズがある」と解釈することは自然であると捉えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：サポート・受入

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole136(193)】

夕方以降や夜間に子どもを監護する大人がいない状況が発生している(発生することがある)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】夕方以降や夜間に子どもを監護する大人がいない状況が発生している(発生することがある)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.09**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.94—1.17

$$RR = \frac{20/20(100\%)}{107/121(88.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	95%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	93%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 141$ (項目該当率 14.2%)
項目該当事例数 $n_1 = 20$ 項目非該当事例数 $n_2 = 121$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.71 [0.44, 3.21]	15.0% / 10.7%
重度ネグレクト	2.75 [1.09, 4.47]	30.0% / 11.6%
性的虐待	2.70 [0.04, 7.34]	0.0% / 1.7%
その他深刻な虐待	0.77 [0.09, 1.64]	5.0% / 11.6%
身体的虐待	0.67 [0.28, 1.03]	25.0% / 41.3%
ネグレクト	2.11 [1.43, 2.67]	75.0% / 34.7%
心理的虐待***	0.79 [0.29, 1.28]	20.0% / 28.9%
DV・面前暴力	1.32 [0.52, 2.08]	25.0% / 20.7%
養育上の不調	1.26 [1.03, 1.41]	95.0% / 72.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 夕方以降や夜間に子どもを監護する大人がいない状況が発生している(発生することがある)

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 当該状況の該当によって、客観的視座から、「養育上のケアニーズがある」と判断されうる。

構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：サポート・受入

構成案
妊娠前採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole137(194)】

健診や養育支援等の各種保健福祉サービスの勧奨や支援の
申し入れに対する拒否や回避(連絡がつかない等)がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】健診や養育支援等の各種保健福祉サービスの勧奨や支援の申し入れに対する拒否や回避(連絡がつかない等)がある、
各種の保健福祉サービスを受けることに抵抗や難色を示す、被害的に受け取る等がある、必要性があると考えられるにもかかわらず
地域や社会の支援(行政・民間サービス等)を受けていない

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.07**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.94—1.16

$$RR = \frac{43/46(93.5\%)}{82/95(86.3\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	98%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	75%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 141$ (項目該当率 32.6%)
項目該当事例数 $n_1 = 46$ 項目非該当事例数 $n_2 = 95$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.87 [0.99, 5.05]	19.6% / 7.4%
重度ネグレクト	1.66 [0.69, 2.68]	19.6% / 12.6%
性的虐待	7.50 [0.82, 17.27]	6.5% / 1.1%
その他深刻な虐待	2.68 [0.86, 4.89]	15.2% / 6.3%
身体的虐待	1.34 [0.82, 1.81]	41.3% / 31.6%
ネグレクト	1.90 [1.12, 2.64]	41.3% / 22.1%
心理的虐待***	1.45 [0.80, 2.08]	32.6% / 23.2%
DV・面前暴力	2.29 [1.19, 3.41]	32.6% / 14.7%
養育上の不調	1.00 [0.79, 1.17]	71.7% / 71.6%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 地域や社会の支援(行政・民間サービス等)を受けていない
- ・ 合理的な理由のない健診の勧奨拒否や未受診がある
- ・ 関係機関の介入や支援を拒否する
- ・ 福祉サービスを受けることへの抵抗感が強い
- ・ 支援の申し出等を否定的に受け取る(被害的に受け取る)様子がある
- ・ 支援やその申出に対して拒否的な態度をとる、避けようとする、関心を示さない、利用に至らない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 客観的にみて、少なくとも子どもの健康・保健的観点から、明らかに養育上のケアニーズがあるものと解釈される。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況について総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：サポート・受入

構成案
妊娠前採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole138(195)】

支援や指導への反発や抵抗、嘘や面従腹背的態度がある、
養育上の課題等に改善の見込みが得られない・変化がない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】 各種支援や指導および支援者に対する反発や抵抗、嘘や面従腹背的態度がある、または、支援や指導があっても養育上の課題等に改善の見込みが得られない・変化がない

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.25**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.11—1.38

$$RR = \frac{73/75(97.3\%)}{63/81(77.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 100%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 156$ (項目該当率 48.1%)
項目該当事例数 $n_1 = 75$ 項目非該当事例数 $n_2 = 81$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	2.13 [0.69, 3.97]	12.0% / 6.2%
重度ネグレクト	3.01 [1.07, 5.55]	17.3% / 6.2%
性的虐待	42.60 [0.21, 26.07]	1.3% / 0.0%
その他深刻な虐待	2.53 [0.88, 4.58]	14.7% / 6.2%
身体的虐待	1.57 [0.99, 2.13]	40.0% / 25.9%
ネグレクト	2.03 [1.30, 2.74]	49.3% / 24.7%
心理的虐待***	1.26 [0.77, 1.72]	33.3% / 27.2%
DV・面前暴力	2.44 [1.23, 3.76]	29.3% / 12.3%
養育上の不調	1.46 [1.19, 1.70]	86.7% / 59.3%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 支援・指導があっても、養育者の対応に変化がない、変化が見込まれない、子どもへの態度や養育環境の改善に関する意欲が乏しい
- 支援者や行政・医療機関等に対する要求や不満の訴えが多い、支援者等に対して反論ばかりするこまかい訴えが多い、時により支援者への態度が変わる、支援関係者によって態度が異なる、面従腹背の態度(表向きは協力的だが、行動が伴わない、内心では拒否的・否定的)をとる、支援に対する意欲や態度が持続しない、
- 嘘をつく、嘘を繰り返す、明らかに真実とは異なる話をする

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 客観的にみて、少なくとも子どもの健康・保健的観点から、明らかに養育上のケアニーズがあるものと解釈される。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況について総合的に把握し、介入や支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：サポート・受入

構成案
妊娠前採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole139(196)】

家庭訪問ができない・子どもや保護者に会えない、支援者を
家の中に入れようとしない、子どもを見せたがらない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】家庭訪問ができない・子どもや養育者に会えない、家庭訪問時に支援者を家の中に入れようとしない、
子ども(きょうだいを含む)を見せたがらない、面会や訪問を拒否する

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.09**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.01—1.15

$$RR = \frac{45/45(100\%)}{122/135(90.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 100%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 180$ (項目該当率 25.0%)
項目該当事例数 $n_1 = 45$ 項目非該当事例数 $n_2 = 135$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	0.97 [0.35, 1.64]	11.1% / 13.3%
重度ネグレクト	3.11 [1.07, 5.55]	28.9% / 9.6%
性的虐待	1.48 [0.14, 3.48]	2.2% / 3.0%
その他深刻な虐待	0.73 [0.19, 1.36]	6.7% / 11.9%
身体的虐待	0.75 [0.43, 1.04]	26.7% / 37.0%
ネグレクト	1.45 [0.97, 1.86]	51.1% / 35.6%
心理的虐待***	1.15 [0.65, 1.59]	31.1% / 28.1%
DV・面前暴力	1.56 [0.83, 2.23]	28.9% / 19.3%
養育上の不調	1.29 [1.08, 1.45]	86.7% / 66.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 訪問しても家の中に入れようとしない、正当な理由なく面会や訪問を拒否する
- ・ インターホンやドアをロックしても応答がない
- ・ オンライン面談等ができる通信環境がない
- ・ 子どもを見せたがらない
- ・ 連絡がつかない、訪問が実施できない
- ・ 支援者にきょうだいを会わせようとしない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 客観的にみて、少なくとも子どもの健康・保健的観点から、明らかに介入や支援を必要とする状況にあるものと考えられる。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況について総合的に把握し、介入や支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

家庭/環境：サポート・受入

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole140(197)】

家族内に、支援や指導を的確に受け止めたり、子どもの発達や養育を支えられる存在(キーパーソン)がいない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】家族内に、支援や指導を的確に受け止めたり、子どもの発達や養育を支えられる存在(キーパーソン)がいない(同居していない親族等は除く)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.24**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.06—1.42

$$RR = \frac{91/98(92.9\%)}{37/49(75.5\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 147$ (項目該当率 66.7%)
項目該当事例数 $n_1 = 98$ 項目非該当事例数 $n_2 = 49$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.29 [0.47, 2.25]	12.2% / 10.2%
重度ネグレクト	1.61 [0.54, 2.95]	12.2% / 8.2%
性的虐待	1.56 [0.14, 3.71]	2.0% / 2.0%
その他深刻な虐待	2.41 [0.79, 4.87]	14.3% / 6.1%
身体的虐待	1.05 [0.68, 1.40]	39.8% / 38.8%
ネグレクト	2.30 [1.26, 3.41]	45.9% / 20.4%
心理的虐待***	1.35 [0.82, 1.89]	37.8% / 28.6%
DV・面前暴力	2.13 [0.96, 3.54]	25.5% / 12.2%
養育上の不調	1.55 [1.21, 1.89]	84.7% / 55.1%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 世帯内に、支援や指導を的確に受け止めたり、子どもの発達や養育を支えられる存在(親族等のキーパーソンを含む)がいない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。状況に応じ、支援のあり方を検討する必要があると考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域
家庭/環境：地域社会関係

構成案
妊娠期採用  構成案
乳幼児期採用  機械学習
予測貢献項目 

【項目ID: Whole141(198)】
家庭が近隣や地域から孤立している(言語や習慣の違いによる孤立、宗教等理由の関係拒絶、地域行事への不参加、近隣トラブル等)

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】家庭が近隣や地域から孤立している(言語や習慣の違いによる孤立、宗教等の理由による関係拒絶、地域行事への不参加、近隣トラブル等)

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.13**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.00—1.22

RR = $\frac{44/46(95.7\%)}{85/101(84.2\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$

組織別の項目確認可能性	
市区町村(母子保健主管)	97%
市区町村(児童虐待相談)	95%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	87%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 147$ (項目該当率 31.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 46$ 項目非該当事例数 $n_2 = 101$

個別のアウトカム評価		
	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.57 [0.58, 2.61]	15.2% / 10.9%
重度ネグレクト	1.87 [0.69, 3.18]	15.2% / 8.9%
性的虐待	1.10 [0.02, 3.00]	0.0% / 2.0%
その他深刻な虐待	1.36 [0.47, 2.34]	13.0% / 10.9%
身体的虐待	1.10 [0.63, 1.53]	32.6% / 30.7%
ネグレクト	1.79 [1.20, 2.33]	56.5% / 31.7%
心理的虐待***	1.28 [0.69, 1.84]	30.4% / 24.8%
DV・面前暴力	1.41 [0.68, 2.12]	23.9% / 17.8%
養育上の不調	1.42 [1.19, 1.62]	91.3% / 63.4%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 近隣や地域から孤立している家庭(言語や習慣の違い、宗教等の理由による周囲との関係拒否や、近隣トラブル等を含む)
- 地域の祭りやイベントに参加していない

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 前提として、当該状況に該当することによって、子どもの健康・保健的観点からの課題や、養育上の不調等の発生が決定づけられるものではないことには留意する必要がある。ただし、客観的な視座から、当該状況への該当の背景に、子育てに係る援助者の不足や心身の負担など、何らかのケアニーズがあるものと想定することは自然な解釈であると言える。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況の背景にあるニーズ等を総合的に把握し、それに応じた支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

その他：関係機関情報等

構成案
妊娠期採用

☐

構成案
乳幼児期採用

☐

機械学習
予測貢献項目

☐

【項目ID: Whole142(199)】

支援者・関係機関からの連絡が通じない、音信不通になることがある、子どもの状況や世帯の変化に日頃気づくことのできる所属機関や地域社会との繋がりが無い

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】支援者・関係機関からの連絡が通じない、音信不通になることがある、子どもの状況や世帯の変化に日頃気づくことのできる所属機関や地域社会との繋がりが無い

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.03**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.92—1.910

$$RR = \frac{40/42(95.2\%)}{113/124(91.1\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 100%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 166$ (項目該当率 25.3%)
項目該当事例数 $n_1 = 42$ 項目非該当事例数 $n_2 = 124$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.31 [0.67, 3.77]	11.9% / 6.5%
重度ネグレクト	1.97 [0.79, 3.18]	19.0% / 10.5%
性的虐待	32.05 [0.58, 64.83]	2.4% / 0.0%
その他深刻な虐待	0.65 [0.14, 1.28]	4.8% / 10.5%
身体的虐待	0.87 [0.47, 1.22]	26.2% / 31.5%
ネグレクト	1.51 [1.03, 1.91]	57.1% / 37.9%
心理的虐待***	1.08 [0.60, 1.52]	31.0% / 29.8%
DV・面前暴力	1.22 [0.61, 1.79]	26.2% / 22.6%
養育上の不調	1.18 [1.00, 1.31]	90.5% / 75.8%

** 項目該当あり/なし 別でのアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 子どもの状況や世帯の変化を常日頃モニターできる関係機関や地域社会との繋がりが無い
- 支援者との連絡が通じない、音信不通になることがある
- 何らかのリスク情報があるが、関係機関や子どもの所属機関が今後数週間以上にわたって子どもを現認できない状況が生じている

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 客観的にみて、数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

その他：関係機関情報等

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole143(200)】

医療機関等を含む関係機関からの支援要請やリスク情報、家族や関係者から報告された子どもや家庭の気がかりな情報がある

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】 医療機関等を含む関係機関からの支援要請やリスク情報、家族や関係者から報告された子どもや家庭の気がかりな情報がある

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **1.43**

ベイズ推定法による95%確信区間 1.14—1.74

$$RR = \frac{99/106(93.4\%)}{20/30(66.7\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管) 100%

市区町村(児童虐待相談) 98%

児童相談所(児童虐待相談) 100%

総合的な組織* 100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 136$ (項目該当率 77.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 106$ 項目非該当事例数 $n_2 = 30$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.31 [0.28, 2.80]	7.5% / 6.7%
重度ネグレクト	4.58 [0.81, 9.81]	14.2% / 3.3%
性的虐待	6.18 [0.05, 8.24]	0.9% / 0.0%
その他深刻な虐待	推定困難	10.4% / 0.0%
身体的虐待	1.93 [0.94, 3.14]	36.8% / 20.0%
ネグレクト	2.33 [1.17, 3.70]	45.3% / 20.0%
心理的虐待***	4.36 [1.25, 8.91]	28.3% / 6.7%
DV・面前暴力	1.43 [0.70, 2.30]	27.4% / 20.0%
養育上の不調	1.81 [1.25, 2.37]	82.1% / 46.7%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 当該家庭に、家族や関係者から報告された気がかりな情報や背景がある
- 他機関からの支援要請がある

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 客観的にみて、**少なくとも子どもの健康・保健的観点から、養育上のケアニーズがある**ものと解釈される。数値上の結果から、当該観点への該当が、養育上の不調や虐待の発生を予測するサインとなっていることが示されている。当該状況について総合的に把握し、介入や支援につなげる必要があるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

その他：関係機関情報等

構成案
妊娠期採用



構成案
乳幼児期採用



機械学習
予測貢献項目



【項目ID: Whole144(201)】

各種健診等の未受診や接触・現認の困難等により、子どもや世帯の情報が十分に得られない、アセスメントができない

推奨評価方法

- ☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】 各種健診等の未受診や接触・現認の困難等により、対象児童や世帯の情報が十分に得られない、アセスメントができない

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.91**

ベイズ推定法による95%確信区間 0.69—1.05

$$RR = \frac{16/20(80\%)}{121/141(85.8\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 161$ (項目該当率 12.4%)
項目該当事例数 $n_1 = 20$ 項目非該当事例数 $n_2 = 141$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.75 [0.35, 3.36]	10.0% / 7.8%
重度ネグレクト	2.28 [0.80, 3.79]	25.0% / 12.1%
性的虐待	6.18 [0.08, 16.91]	0.0% / 0.7%
その他深刻な虐待	0.35 [0.01, 0.90]	0.0% / 12.8%
身体的虐待	0.54 [0.159, 0.93]	15.0% / 34.0%
ネグレクト	1.91 [1.16, 2.50]	60.0% / 31.2%
心理的虐待***	0.57 [0.16, 0.99]	15.0% / 31.9%
DV・面前暴力	0.89 [0.31, 1.46]	20.0% / 25.5%
養育上の不調	0.93 [0.62, 1.16]	65.0% / 68.8%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率

*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- ・ 業務環境や母子および世帯の特徴等に由来し、必要な情報が収集できていない
- ・ 虐待等を含めた養育困難が懸念されるにもかかわらず、家族全体を捉えたアセスメントが不足している

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- ・ 解析の結果、一部種別の虐待の発生との関連が抽出されている。判断に必要な情報が不足している状態には、特に慎重な対応が必要になるものと考えられる。

● 構成区分：妊娠前後から乳幼児期

評価領域

その他：災害・特殊事情

構成案
妊娠期採用

構成案
乳幼児期採用

機械学習
予測貢献項目

【項目ID: Whole145(202)】

事件や事故等の被害を受けた、
または、災害等の被災者・被災家庭である

推奨評価方法
☐ 該当
☐ 非該当
☐ 不明

【調査提示文言】 事件や事故等の被害を受けた、または、災害等の被災者・被災家庭である

養育上の不調と虐待

項目該当 推定リスク比 **0.92**
ベイズ推定法による95%確信区間 0.69—1.05
$$RR = \frac{3/3(100\%)}{132/151(87.4\%)} = \frac{\text{項目該当事例のアウトカム該当率}}{\text{項目非該当事例のアウトカム該当率}}$$

組織別の項目確認可能率

市区町村(母子保健主管)	100%
市区町村(児童虐待相談)	100%
児童相談所(児童虐待相談)	100%
総合的な組織*	100%

* 各種母子保健事業と児童虐待等の養護相談を包括的に担う
市区町村等自治体に設置された子育て世代包括支援センター等

【項目評価データの情報】 組入事例数 $N = 154$ (項目該当率 1.9%)
項目該当事例数 $n_1 = 3$ 項目非該当事例数 $n_2 = 151$

個別のアウトカム評価

	推定リスク比	アウトカム 該当率**
重篤な身体的虐待	1.89 [0.35, 3.36]	0.0% / 10.6%
重度ネグレクト	6.01 [0.99, 11.43]	33.3% / 6.6%
性的虐待	15.27 [0.29, 41.49]	0.0% / 1.3%
その他深刻な虐待	4.40 [0.12, 11.02]	0.0% / 4.6%
身体的虐待	1.31 [0.22, 2.37]	33.3% / 31.1%
ネグレクト	1.08 [0.18, 1.93]	33.3% / 37.1%
心理的虐待***	0.85 [0.03, 2.06]	0.0% / 23.8%
DV・面前暴力	1.08 [0.03, 2.52]	0.0% / 18.5%
養育上の不調	0.59 [0.10, 1.05]	33.3% / 68.2%

** 項目該当 あり/なし 別のアウトカム該当率
*** DV・面前暴力を除く

項目の該当を判断する際の具体例(参考)

- 事件や事故、災害等の被災者・被災家庭である

アセスメントツール構成案の(不)採用理由と補足情報

- 例数不足により項目の評価が困難な結果となっている。
- 養育上の不調や児童虐待等との関連によらず、状況に応じた配慮やサポートが必要な観点であると考えられる。

